# 令和7年度 北海道体育学会 第64回大会

# プログラム・予稿集



期日: 令和7年11月29日(土)•11月30日(日)

会場:北翔大学

学会大会の歩み

1 昭和32 1953 北海道大学 不明 3 昭和38 1963 北海道大学 不明 4 昭和39 1964 北海道大学 不明 5 昭和40 1965 東閣工衆大学 18 6 昭和41 1966 北海道大学 10 7 昭和42 1967 小権所科大学 23 8 昭和43 1968 北海道大学 16 8 昭和41 1969 北海道大学 23 10 昭和42 1967 小権所科大学 25 11 昭和45 1970 東京大学 28 11 昭和45 1970 東京大学 28 11 昭和46 1971 北海道大学 16 12 昭和47 1972 北海道大学 16 13 昭和48 1973 北上工業大学 15 13 昭和48 1973 北上工業大学 16 16 昭和51 1976 北海道大学 16 17 昭和52 1977 小権所科大学 28 18 昭和51 1976 東京大学 17 18 昭和51 1977 東和52 北海道大学 16 19 昭和51 1977 東南52 北海道大学 17 19 昭和51 1976 東京大学 16 19 昭和51 1977 東南52 北海道大学 16 19 昭和51 1976 東京大学 16 19 昭和51 1977 東南方大学 16 19 昭和51 1978 東京大学 16 19 昭和51 1978 北東学園大学 16 19 昭和51 1978 東京大学 17 18 昭和52 1977 小権所科大学 19 18 昭和53 1978 北海道大学地川 19 19 昭和51 1979 東京東大学 18 19 昭和51 1979 東南丁東大学 18 19 昭和51 1979 東南丁東大学 18 19 昭和55 1981 北海道教育大学地川 19 22 昭和57 1982 北海道教育大学和川 19 22 昭和57 1982 北海道教育大学和川 19 22 昭和57 1982 北海道教育大学和州 22 23 昭和53 1983 北海道教育大学和州 19 24 昭和59 1984 北海道教育大学科教 22 27 昭和60 1985 北海道大学発見沢 18 27 昭和60 1985 北海道大学現別 25 28 昭和63 1988 北海道教育大学開館 25 26 昭和61 1986 北海道教育大学規解 26 27 昭和62 1997 北海道大学 21 38 昭和63 1988 北海道教育大学規解 26 27 昭和62 1997 北海道大学 21 39 平成7 1995 北海道教育大学規解 26 27 昭和62 1997 北海道教育大学規解 26 27 昭和62 1997 北東学園大学 21 38 昭和53 1983 北海道教育大学規解 26 27 昭和62 1997 北東学園大学 21 38 昭和63 1988 北海道教育大学規解 26 39 平成7 1995 北東学園大学 21 30 平成7 1995 北東学園大学 21 31 平成3 1991 北東学園大学 26 33 平成5 1993 北東学園大学 19 39 平成7 1995 北海道大学 19 39 平成7 1996 北海道教育大学規解 26 40 平成1 1999 北海道教育大学規解 26 41 平成1 2002 北東学園大学 19 41 平成1 2001 北海道教育大学規解 26 41 平成1 1999 北東学園大学 19 41 平成1 2001 北海道教育大学規解 26 41 平成1 2001 北海道教育大学規解 26 41 平成1 2001 北海道教育大学規解 27 41 平成1 2001 北海道教育大学規解 28 41 平成2 2001 北海道教育大学規解 28 51 平成2 2001 北海道教育大学規解 28 51 平成2 1990 北東学園大学 19 51 平成2 1990 北東学教育大学規解 26 51 平成2 1990 北東学教育大学規解 27 51 平成2 1990 北東学園大学規解 27 51 平成2 1990 北東学教育大学規解 27 51 平成2 1990 北東学教育大学規解 27 51 平成3 平成5 1907 北海道教育大学規解 26 51 平成7 1995 北海道教育大学規解 27 51 平成7 1995 北海道教育大学規解 27 51 平成7 1995 北海道教育大学教育教育大学規解 27 51 平成7 1995 北海道教育大学規解 28 51 平成7 1995 北海道教育大学社 29 51 平成7 1995 北海道教育大学社	1				子会人会の歩み	
2 昭和38 1953 北海道大学 不明 3 昭和38 1963 北海道大学 不明 4 昭和39 1964 北海道大学 不明 5 昭和40 1965 産傭工業大学 18 6 昭和41 1966 北海道大学 10 7 昭和42 1967 小梅海科大学 16 8 昭和41 1968 北海道女子空期大学 23 18 昭和43 1968 北海道女子空期大学 26 10 昭和41 1969 北海道学大学練路 12 10 昭和41 1969 北海道学大学練路 12 11 昭和41 1970 北海学大学神路 12 11 昭和41 1971 北海道学大学神路 10 12 昭和47 1972 北海道大学 15 13 昭和48 1973 北見工業大学 15 14 昭和49 1974 北平平樹大学 15 15 昭和60 1975 帯広衛星大学 14 14 昭和49 1974 北平平樹大学 15 16 昭和61 1976 北海学大学神路 17 17 昭和62 1977 小梅海科大学 16 18 昭和61 1977 北海道大学 16 18 昭和61 1976 北海学大学神路 17 17 昭和62 1977 小梅海科大学 16 18 昭和61 1976 北海道大学 14 19 昭和61 1976 北海学大学神路 19 19 昭和61 1979 年間工業大学 14 10 昭和63 1981 北海道教育大学祖川 19 10 昭和61 1979 年間工業大学 16 19 昭和61 1979 年間工業大学 18 10 昭和61 1979 年間工業大学 18 12 昭和63 1981 北海道教育大学祖川 19 12 昭和65 1981 北海道教育大学祖川 19 12 昭和67 1982 北海道教育大学祖川 19 12 昭和67 1982 北海道教育大学祖川 19 12 日和68 1983 北海道教育大学祖川 19 12 日和69 1984 北海道教育大学祖川 19 12 日和69 1984 北海道教育大学祖州 22 13 昭和68 1983 北海道教育大学祖州 22 14 昭和69 1987 北海道教育大学祖州 23 15 田和69 1984 北海道教育大学祖州 24 17 中成 1995 北海道教育大学祖州 25 18 昭和60 1985 北海道教育大学祖州 25 18 昭和60 1985 北海道教育大学祖 18 18 中成 1999 北海道大学 26 18 中成 1999 北海道大学 27 18 中成 1999 北海道大学 28 18 中成 1999 北海道大学 29 18 中成 1999 北海道大学 29 18 中成 1999 北海道教育大学祖州 25 18 中成 1999 北海道教育大学祖州 25 18 中成 1999 北海道教育大学祖州 26 18 中成 1999 北海道教育大学祖州 27 18 日本 1999 北海道教育大学祖州 27 18 日本 1999 北海道教育大学祖州 27 18 日本 1999 北海道教育大学祖州 28 18 日本 1999 北海道教育大学祖州 29 18 日本 1999 北海道教育大学和州 29 18 日本 1999 北海道教育大学和州 29	1	同	年度	西暦	当悉大学	<b>演題数</b>
2   昭和34   1959   北海道大学 不明   1961   北海道大学 不明   1961   北海道大学 下明   1961   北海道・大学   18   18   1963   1964   北海道・大学   18   18   1963   1964   北海道・大学   18   18   1968   北海道・大学   18   18   1966   北海道・大学   16   18   18   1968   北海道・大学   16   18   19   10   18   12   11   18   14   19   19   1   北海道・大学   18   19   10   18   14   19   19   1   北海道・大学   19   11   北海道・大学   19   11   北海道・大学   19   12   18   14   19   19   1   北海道・大学   14   18   14   19   19   1   北海道・大学   14   18   14   19   19   1   北海道・大学   15   14   18   14   19   19   1   北海道・大学   15   15   15   15   15   15   15   1	2					
銀和38	3 昭和99 1964 北海道学芸大学田川 不明 5 昭和19 1964 北海道学芸大学田川 不明 5 昭和19 1965 朱龍工東大学 18 6 昭和11 1966 北海道学芸大学田川 7	1	昭和28	1953	北海道大学	
銀和38	3 昭和99 1964 北海道学芸大学田川 不明 5 昭和19 1964 北海道学芸大学田川 不明 5 昭和19 1965 朱龍工東大学 18 6 昭和11 1966 北海道学芸大学田川 7	2	昭和34	1959	北海道大学	不明
4 昭和49 1965 密南工業大学 18 6 昭和41 1966 北海道大学 18 7 昭和42 1967 小塘商科大学 16 8 昭和43 1968 北海道大学 16 8 昭和44 1969 北海道女子教明大学 16 10 昭和44 1969 北海道女子教明 12 11 昭和46 1971 北海道学素大学網路 12 11 昭和46 1971 北海道学素大学網路 12 12 昭和47 1972 北海道大学 15 13 昭和48 1973 北泉元学 15 14 昭和49 1974 北泉元学 15 15 昭和49 1974 北泉元学 28 16 昭和51 1976 北海河域大学 15 17 昭和52 1977 小塘商科大学 21 18 昭和53 1978 札幌商科大学 21 18 昭和53 1978 札幌商科大学 16 19 昭和54 1979 霊蘭工業大学 18 19 昭和55 1980 北海道学素大学側別 19 22 昭和55 1981 北海道本学学科網 19 22 昭和55 1981 北海道本学学科網 19 22 昭和56 1981 北海道本学学科網 19 22 昭和57 1982 北海道本学学科 22 23 昭和58 1983 北海道本育学社 22 24 昭和59 1984 北海道本育学社 22 25 昭和56 1981 北海道本育学社 22 26 昭和57 1982 北海道本育学社 25 27 昭和56 1983 北海道本育学社 25 26 昭和56 1984 北海道本育学学科 22 27 昭和56 1983 北海道本育大学科沢 18 28 昭和59 1984 北海道本育大学科沢 18 29 平成7 1989 北海道本育大学科沢 18 29 平成7 1995 北海道本育大学科沢 18 29 平成7 1995 北海道本育大学科沢 18 29 平成7 1995 北海道本育大学科沢 18 20 平成2 1990 北泉工業大学 21 21 中成6 1998 北海道本育大学科沢 18 22 甲成7 1999 北泉工業大学 21 23 田和52 1990 北泉工業大学 21 24 平成1 1990 北泉工業大学 21 25 昭和62 1997 北海道本育大学科沢 18 26 中成2 1990 北泉工業大学 21 27 昭和62 1997 北東江業大学 24 28 昭和62 1997 北東江業大学 26 31 平成5 1993 北東学園大学 22 31 平成5 1993 北東学園大学 22 31 平成5 1993 北東洋海本学 24 31 平成5 1993 北東学園大学 25 31 平成5 1993 北東学園大学 22 31 平成7 1995 北海道本育子学科県 26 32 平成7 1995 北海道本育子科県 26 33 平成5 1993 北東学園大学 21 34 平成6 1994 小塘道本育子科県 26 35 平成7 1995 北海道本育子科県 26 36 平成8 1996 北海道本学科県 26 37 平成9 1997 北海道本育子学科県 26 38 平成10 1998 北海道本育子学科県 26 39 平成11 1999 北海道本育子学科県 26 30 平成2 1990 北東江業大学 19 31 平成5 1991 北海道本育子科県 26 31 平成5 1993 北東道教育子学科県 26 32 平成4 1995 北海道教育子学科県 26 33 平成5 1993 北東道教育子学科県 26 34 平成5 1993 北東道教育子学科県 26 35 平成2 1990 北東道教育子学科県 26 36 平成2 1990 北東道教育子学科県 26 37 平成2 1990 北東道教育子学科県 26 38 平成5 1993 北東道教育子科県 26 37 平成5 1993 北東道教育子科県 26 38 平成5 1993 北東道教育子科県 26 38 平成5 1993 北東道教育子科県 26 37 平成6 1994 小海道本学科学学 26 38 平成7 1995 北海道本学学科学学 26 38 平成5 1993 北東道教育本学学 29 39 平成5 1993 北東道教育本学学科学学 26 30 平成5 19年 1991 北東江東京本学学 26 31 平成5 19年 1991 北東江東京本学科学学 26 31 平成5 19年 1991 北東江東京本学学科学学 26 31 平成5 19年 1991 北東道本学学学 29 31 平成5 19年 1991 北東道本学教育本学学 29 32 平成6 19年 1991 北東道本学学学科学学 29 33 平成7 19年 1991 北東道本学学学学科学	4 昭和9 1964 北海道学表大学地川 不明 5 昭和40 1965 電面に表大学 18 6 昭和41 1966 北海道大学 10 7 昭和42 1967 小海道大学 16 8 昭和43 1968 北海道大学 16 18 昭和43 1968 北海道大学 23 19 昭和44 1969 北海道大学 23 11 昭和45 1970 札幌大学 28 11 昭和46 1971 北海道学表大学師館 12 12 昭和47 1972 北海道大学 15 13 昭和48 1973 北海道学表大学師館 10 14 昭和49 1974 北海道学表大学師館 10 15 昭和49 1975 北海道大学 15 16 昭和59 1976 景东高京大学 14 17 昭和50 1977 小海面が大学 15 18 昭和50 1976 景东高京大学 14 19 昭和51 1976 北海道学表大学 19 11 昭和62 1977 小海面が大学 15 12 昭和51 1976 北海道学表大学 19 12 昭和51 1978 北海道学表大学 19 13 昭和51 1978 北海道学表大学 19 14 昭和52 1977 小海面が大学 19 15 昭和53 1978 北海道子大学 19 17 昭和55 1980 北海道子表大学 20 18 昭和57 1982 北海道東大学和原 22 18 昭和57 1982 北海道教育大学和原 22 18 昭和57 1982 北海道教育大学和原 22 20 昭和57 1982 北海道教育大学和原 25 25 昭和58 1983 北海道教育大学和原 25 26 昭和59 1984 北海道教育大学和原 25 27 昭和51 1985 北海道教育大学出現 18 28 昭和51 1986 北海道教育大学出現 18 29 平成元 1989 北海道教育大学是現 18 21 昭和52 1997 北海道教育大学出現 24 28 昭和53 1998 北海道教育大学出現 25 29 平成元 1989 北海道教育大学出現 23 20 平成元 1989 北海道教育大学出現 24 21 昭和62 1997 北海道教育大学出現 25 28 昭和63 1988 北海道教育大学出現 26 29 平成元 1989 北海道教育大学出現 26 29 平成元 1989 北海道教育大学出現 26 31 平成3 1991 北海道教育大学出現 26 31 平成3 1991 北海道教育大学出現 26 32 平成1 1990 北海道大学 27 33 平成1 1990 北海道大学 27 34 平成6 1994 小海南海大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学和原 26 37 平成9 1997 北海道教育大学和原 26 38 平成1 1999 北海道大学 21 39 平成1 1999 北海道大学 21 30 平成8 1996 北海道教育大学社界 26 31 平成9 1997 北海道教育大学社界 26 31 平成1 1999 北海道大学 27 31 平成9 1997 北海道教育大学社界 26 32 平成1 1999 北海道教育大学社界 26 33 平成1 1999 北海道教育大学社界 26 34 平成1 1999 北海道教育大学社界 26 35 平成7 1995 北海道教育大学社界 26 36 平成8 1994 小海南海大学 27 37 平成9 1997 北海道教育大学 27 38 平成1 1999 北海道教育大学 27 38 平成1 1999 北海道教育大学 27 39 平成1 1999 北海道教育大学 27 39 平成1 1999 北海道教育大学 27 39 平成1 1999 北海道大学 27 39 平成1 1996 北海道教育大学 27 39 平成1 1997 北海道教育大学 27 39 平成1 1996 北海道教育大学 27 39 平成1 1997 北海道教育大学 27 39 平成1 1996 北海道教育大学 27 39 平成1 1996 北海道教育大学 27 39 平成1 1997 北海道教育大学 27 39 平成1 1998 北海道教育大学 27 39 平成1 1999 北海道教育大学 27 39 平成1 1996 北海道教育大学 27 39 平成1 1998 北海道教育大学 27 39 平成1 1999 北海道教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育教育					
5   昭和40   1965   空間工業大学   18   18   18   18   1966   北海直大学   10   17   1961   1967   小埠南科大学   16   18   1967   小埠南科大学   16   18   1969   北海道大学   16   18   19   16   18   19   16   18   19   16   18   19   16   18   19   16   18   19   16   18   19   19   18   18   19   19   18   18	5 日曜和40 1965			1963		
5   昭和40   1965   空間工業大学   18   18   18   18   1966   北海直大学   10   17   1961   1967   小埠南科大学   16   18   1967   小埠南科大学   16   18   1969   北海道大学   16   18   19   16   18   19   16   18   19   16   18   19   16   18   19   16   18   19   16   18   19   19   18   18   19   19   18   18	5 日曜和40 1965	4	昭和39	1964	北海道学芸大学旭川	不明
6 居和41 1966 北海道大学 10 7 昭和42 1967 小地商科大学 18 8 昭和43 1968 北海道女子報助大学 23 9 昭和44 1969 北海道女子報助大学 23 10 昭和45 1970 北海道女子教育 12 11 昭和46 1971 北海道女子教育 10 12 昭和47 1972 北海道女学 15 13 昭和48 1973 北尾工業大学 14 14 昭和49 1974 北皋戸衛大学 15 16 昭和45 1976 北海戸衛大学 15 17 昭和51 1976 北海戸太学 15 18 昭和51 1976 北海戸太学 15 18 昭和51 1976 北海戸太学 15 18 昭和53 1978 札幌雨科大学 19 19 昭和51 1977 小堆商科大学 19 19 昭和54 1979 宝蘭工業大学 18 20 昭和55 1980 北海道彦子教明 19 22 昭和57 1980 北海道彦子教明 19 22 昭和58 1983 北海道彦子教明 19 22 昭和57 1980 北海道彦子教明 19 22 昭和57 1982 北海道彦子教明 19 23 昭和58 1983 北海道彦育女子規 19 24 昭和59 1984 北海道彦育子規 19 25 昭和51 1980 北海道彦育子教明 19 27 昭和56 1981 北海道彦育子教明 19 28 昭和58 1983 北海道彦育子教明 19 27 昭和56 1984 北海道彦育子教明 25 28 昭和60 1985 北海道彦育子教明 25 27 昭和61 1986 北海道教育大学出現大学 22 28 昭和61 1986 北海道彦育子学 18 27 昭和62 1987 北海道彦寺 22 28 昭和63 1988 北海道彦寺子教明 25 27 昭和62 1987 北海道彦寺 22 28 昭和63 1988 北海道彦寺子教明 25 30 平成元 1999 北海道文寺 24 31 平成3 1991 札幌大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1990 北東江東大学 24 33 平成5 1993 北海道文学 24 34 平成6 1994 小塘海道子学 199 35 平成7 1995 北海道文寺学科観 26 36 平成7 1995 北海道文寺学科観 26 37 平成9 1997 北海道文寺学科観 26 38 平成10 1998 北海道文寺学科観 26 39 平成1 1999 北海道文寺学科観 26 31 平成5 1990 北海道文寺学科観 26 31 平成9 1991 北海道文寺学科観 26 32 平成4 1992 北海道文寺学科観 26 33 平成5 1993 北海道文寺学科閣 26 34 平成6 1994 小塘海道大学 199 35 平成7 1995 北海道文寺 21 36 平成9 1997 北海道文学 17 37 平成9 1997 北海道教育大学和明 32 38 平成10 1998 北海道文寺 24 39 平成11 1999 北海道文寺子科観 26 31 平成12 2000 瀬寺宗教州子学 22 31 平成19 2007 吉/牧工業寺学科覧 25 31 平成19 2007 吉/牧工業寺学科覧 25 31 平成19 2007 吉/牧工業寺学科 26 31 平成19 2007 吉/牧工業寺学科 27 31 平成19 2007 吉/牧工業寺学科 28 31 平成25 2013 北海道文学 199 31 北海道文学 199 32 北海道文学 199 33 北海道文学 199 34 北海道文学 199 35 平成14 2002 北海道文学 199 36 平成15 2003 北海道文学 199 37 平成19 2007 吉/牧工業寺学科 27 38 平成19 2007 吉/牧工業寺学科 27 39 平成24 2012 北海道教育大学制 33 31 平成25 2010 北海道教育大学制 33 31 平成26 2010 北海道教育大学制 33 31 平成26 2010 北海道教育大学制 33 31 平成26 2010 北海道教育大学 27 31 平成29 2017 北海道教育大学 29 31 北海道教育大学 2016 北海道教育大学 2017 北海道教育大学 2018 北海道教育教育大学 2018 北海道教育教育教育教育教育教育教育教育	6					
7   18日和2   1967   小堆商科大学   16     8   18日和43   1968   北海道女子短期大学   23     9   18日和44   1969   北海道女子短期大学   28     10   18日和45   1970   北東道文学学園路   12     10   18日和45   1970   北東道文学学園路   10     12   18日和47   1972   北海道大学   15     13   18日和48   1973   北上工文大学   14     14   18日和49   1974   北東学園大学   15     15   16   18日和50   1975   帯広畜産大学   14     16   18和50   1975   帯広畜産大学   14     16   18和51   1976   北海道大学   19     17   18日前52   1977   小堆商科大学   19     18   18日前53   1978   札幌商林大学   19     18   18日前54   1979   宝蘭工業大学   18     19   18日前54   1979   宝蘭工業大学   18     19   18日前54   1979   宝蘭工業大学   18     20   18日前55   1980   北海道教育大学札明   19     22   18日前57   1982   北海道教育大学札明   19     22   18日前57   1982   北海道教育大学札明   22     23   18日前58   1983   北海道教育大学科学   22     24   18日前59   1984   北海道教育大学科学   22     25   18和60   1985   北海道教育大学科学   22     26   18和61   1986   北海道教育大学科学   22     27   18和62   1997   北海道教育大学科学   22     28   18日前53   1988   北海道教育大学科学   22     29   平成元   1989   北海道教育大学科学   21     21   22   1990   北東道教育大学   21     22   1990   北東道教子学科学   22     31   平成3   1991   札幌大学   24     32   平成4   1992   宝蘭工業大学   23     33   平成6   1994   小堆商科大学   25     37   平成9   1997   北海道教育大学科明   26     37   平成9   1997   北海道教育大学社明   26     37   平成9   1997   北海道教育大学社明   32     38   平成11   1999   北海道教育大学社明   32     39   平成11   1999   北海道教育大学社明   32     30   平成11   1999   北海道教育大学   19     40   平成12   2000   西藤大学   19     40   平成12   2000   北海道教育大学   19     41   平成13   2001   北海道教育大学   25     42   平成14   2002   北海道教育大学   19     44   平成15   2003   北海道教育大学   19     45   平成17   2005   北海道教育大学   19     46   平成23   2011   北海道教育大学   18     50   平成24   2002   北海道教育大学   18     51   平成23   2011   北海道教育大学   18     52   平成24   2012   和東政学   26     51   平成28   2016   北海道教育大学   27     52   平成29   2017   港海道教育大学   28     53   平成29   2017   帯海海球大学   29     56   平成28   2016   路藤学   29     57   平成29   2017   帯海海球大学   29     58   平成29   2017   帯海海大学   26     57   平成29   2017   帯海海球大学   26     58   平成29   2017   帯海球大学   26     57   平成29   2017   帯海球大学   26	7			1965		
7   18日和2   1967   小堆商科大学   16     8   18日和43   1968   北海道女子短期大学   23     9   18日和44   1969   北海道女子短期大学   28     10   18日和45   1970   北東道文学学園路   12     10   18日和45   1970   北東道文学学園路   10     12   18日和47   1972   北海道大学   15     13   18日和48   1973   北上工文大学   14     14   18日和49   1974   北東学園大学   15     15   16   18日和50   1975   帯広畜産大学   14     16   18和50   1975   帯広畜産大学   14     16   18和51   1976   北海道大学   19     17   18日前52   1977   小堆商科大学   19     18   18日前53   1978   札幌商林大学   19     18   18日前54   1979   宝蘭工業大学   18     19   18日前54   1979   宝蘭工業大学   18     19   18日前54   1979   宝蘭工業大学   18     20   18日前55   1980   北海道教育大学札明   19     22   18日前57   1982   北海道教育大学札明   19     22   18日前57   1982   北海道教育大学札明   22     23   18日前58   1983   北海道教育大学科学   22     24   18日前59   1984   北海道教育大学科学   22     25   18和60   1985   北海道教育大学科学   22     26   18和61   1986   北海道教育大学科学   22     27   18和62   1997   北海道教育大学科学   22     28   18日前53   1988   北海道教育大学科学   22     29   平成元   1989   北海道教育大学科学   21     21   22   1990   北東道教育大学   21     22   1990   北東道教子学科学   22     31   平成3   1991   札幌大学   24     32   平成4   1992   宝蘭工業大学   23     33   平成6   1994   小堆商科大学   25     37   平成9   1997   北海道教育大学科明   26     37   平成9   1997   北海道教育大学社明   26     37   平成9   1997   北海道教育大学社明   32     38   平成11   1999   北海道教育大学社明   32     39   平成11   1999   北海道教育大学社明   32     30   平成11   1999   北海道教育大学   19     40   平成12   2000   西藤大学   19     40   平成12   2000   北海道教育大学   19     41   平成13   2001   北海道教育大学   25     42   平成14   2002   北海道教育大学   19     44   平成15   2003   北海道教育大学   19     45   平成17   2005   北海道教育大学   19     46   平成23   2011   北海道教育大学   18     50   平成24   2002   北海道教育大学   18     51   平成23   2011   北海道教育大学   18     52   平成24   2012   和東政学   26     51   平成28   2016   北海道教育大学   27     52   平成29   2017   港海道教育大学   28     53   平成29   2017   帯海海球大学   29     56   平成28   2016   路藤学   29     57   平成29   2017   帯海海球大学   29     58   平成29   2017   帯海海大学   26     57   平成29   2017   帯海海球大学   26     58   平成29   2017   帯海球大学   26     57   平成29   2017   帯海球大学   26	7	6	昭和41	1966	北海道大学	10
8 照和43 1968 北海道女子短期大学 23 19 昭和44 1969 北海道女子数野 12 1970 根棟大字 28 14 1969 北海道学芸大学翻路 12 11 昭和46 1971 北海道学芸大学函館 10 12 昭和47 1972 北海道学芸大学函館 10 12 昭和47 1972 北海道学芸大学 15 15 15 昭和50 1975 帯広畜産大学 14 14 昭和9 1974 北尾学園大学 15 16 昭和51 1976 北海学園大学 15 17 18 18 19 19 1974 北尾学園大学 1 17 昭和51 1976 北海道学芸大学 1 19 18 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	8 軽和43 1968 北海道女子及網大学 23 10 軽和45 1970					
9   昭和44   1969   北南道学芸大学釧路   12	9    昭和44					
9   昭和44   1969   北海道学芸大学釧路   12	9    昭和44	8	昭和43	1968	北海道女子短期大学	23
10   昭和45   1970   札幌大学   28   11   昭和46   1971   北海道学芸大学函館   10   12   昭和47   1972   北海道学芸大学函館   15   13   昭和48   1973   北見工業大学   14   14   昭和48   1973   北見工業大学   14   14   昭和49   1974   北阜学園大学   15   15   15   15   18   18   1975   ポム富道大学   14   16   18   1976   北海学園大学   14   17   18   1976   北海学園大学   19   17   18   19   18   19   19   18   19   18   19   19	10					
11   昭和46   1971   北海道学芸大学函館   10     12   昭和47   1972   北海道大学   15     13   昭和48   1973   北見工業大学   14     14   昭和49   1974   北星学園大学   15     15   昭和51   1976   北海道大学   14     16   昭和51   1976   北海河大学   14     17   昭和52   1977   小梅商科大学   19     18   昭和51   1978   札幌商林大学   19     19   昭和52   1977   小梅商科大学   19     19   昭和51   1979   室蘭工業大学   18     19   昭和55   1980   北海道教育大学旭川   19     20   昭和56   1981   北海道教育大学旭川   19     22   昭和57   1982   北海道教育大学旭川   19     22   昭和57   1982   北海道教育大学旭川   19     23   昭和58   1983   北海道教育大学旭州   22     24   昭和59   1984   北海道教育大学制路   25     25   昭和60   1985   北海道教育大学制路   25     26   昭和61   1986   北海道教育大学科財   22     27   昭和62   1987   北海道教育大学開放   25     28   昭和63   1988   北海道教育大学開館   25     29   平成元   1989   北海道教育大学開館   25     30   平成2   1990   北上工業大学   24     31   平成3   1991   札幌大学   26     32   平成4   1992   室蘭工業大学   23     33   平成5   1993   北海道教育大学規則   26     35   平成7   1995   北海道教育大学規則   26     36   平成8   1996   北海道教育大学規則   26     37   平成8   1996   北海道教育大学規則   26     38   平成10   1998   北海道教育大学規則   22     40   平成12   2000   東京社   北海道教育大学規則   22     41   平成13   2001   北海道教育大学規則   22     42   平成1   1999   北海道教育大学規則   25     43   平成7   1995   北海道教育大学規則   26     36   平成8   1996   北海道教育大学規則   26     37   平成9   1997   和藤氏科大学   26     48   平成10   1998   北海道教育大学規則   26     49   平成11   2000   北海道教育大学規則   27     40   平成12   2000   北海道教育大学規則   25     41   平成13   2001   北海道教育大学制路   25     42   平成17   2005   北海道教育大学制路   25     43   平成20   2008   北海道教育大学制路   25     44   平成20   2004   北海道教育大学副路   25     45   平成21   2009   北海道教育大学組則   33     46   平成21   2009   北海道教育大学組則   35     56   平成28   2010   北海道教育大学函館   30     56   平成28   2011   北海道教育大学函館   30     56   平成28   2016   北海道教育大学函館   30     56   平成29   2017   北海道教育大学   201     57   平成29   2017   北海道教育大学   201     58   平成29   2017   北海道教育大学   201     58   平成20   2018   北海道教育大学   201     59   北海道教育大学   201   北海道教育大学   201     50   平成30   2018   北海道教育大学   201     50   平成30   2018   北海道教育大学   201     50   平成30   2018   北海道教育大学   201     50   平成3	11   昭和46					
11   昭和46   1971   北海道学芸大学函館   10     12   昭和47   1972   北海道大学   15     13   昭和48   1973   北見工業大学   14     14   昭和49   1974   北星学園大学   15     15   昭和51   1976   北海道大学   14     16   昭和51   1976   北海河大学   14     17   昭和52   1977   小梅商科大学   19     18   昭和51   1978   札幌商林大学   19     19   昭和52   1977   小梅商科大学   19     19   昭和51   1979   室蘭工業大学   18     19   昭和55   1980   北海道教育大学旭川   19     20   昭和56   1981   北海道教育大学旭川   19     22   昭和57   1982   北海道教育大学旭川   19     22   昭和57   1982   北海道教育大学旭川   19     23   昭和58   1983   北海道教育大学旭州   22     24   昭和59   1984   北海道教育大学制路   25     25   昭和60   1985   北海道教育大学制路   25     26   昭和61   1986   北海道教育大学科財   22     27   昭和62   1987   北海道教育大学開放   25     28   昭和63   1988   北海道教育大学開館   25     29   平成元   1989   北海道教育大学開館   25     30   平成2   1990   北上工業大学   24     31   平成3   1991   札幌大学   26     32   平成4   1992   室蘭工業大学   23     33   平成5   1993   北海道教育大学規則   26     35   平成7   1995   北海道教育大学規則   26     36   平成8   1996   北海道教育大学規則   26     37   平成8   1996   北海道教育大学規則   26     38   平成10   1998   北海道教育大学規則   22     40   平成12   2000   東京社   北海道教育大学規則   22     41   平成13   2001   北海道教育大学規則   22     42   平成1   1999   北海道教育大学規則   25     43   平成7   1995   北海道教育大学規則   26     36   平成8   1996   北海道教育大学規則   26     37   平成9   1997   和藤氏科大学   26     48   平成10   1998   北海道教育大学規則   26     49   平成11   2000   北海道教育大学規則   27     40   平成12   2000   北海道教育大学規則   25     41   平成13   2001   北海道教育大学制路   25     42   平成17   2005   北海道教育大学制路   25     43   平成20   2008   北海道教育大学制路   25     44   平成20   2004   北海道教育大学副路   25     45   平成21   2009   北海道教育大学組則   33     46   平成21   2009   北海道教育大学組則   35     56   平成28   2010   北海道教育大学函館   30     56   平成28   2011   北海道教育大学函館   30     56   平成28   2016   北海道教育大学函館   30     56   平成29   2017   北海道教育大学   201     57   平成29   2017   北海道教育大学   201     58   平成29   2017   北海道教育大学   201     58   平成20   2018   北海道教育大学   201     59   北海道教育大学   201   北海道教育大学   201     50   平成30   2018   北海道教育大学   201     50   平成30   2018   北海道教育大学   201     50   平成30   2018   北海道教育大学   201     50   平成3	11   昭和46	10	昭和45	1970	札幌大学	28
12   昭和47   1972   北海道大学   15     13   昭和48   1973   北見工業大学   14   14   昭和49   1974   北星学園大学   15     15   昭和50   1975   帯広斎蔵大学   14   16   昭和50   1975   北海道家大学   14   16   昭和50   1977   小埠商科大学   19     16   昭和51   1976   北海道家大学   19     17   昭和52   1977   小埠商科大学   19     18   昭和53   1978   札幌商科大学   16   19   昭和54   1979   室禰工業大学   20   昭和55   1980   北海道家育大学机川   19     20   昭和55   1980   北海道家育大学机川   19     21   昭和56   1981   北海道家育大学机明   19     22   昭和57   1982   北海道家育大学机明   19     23   昭和58   1983   北海道家育大学和明   22   24   昭和58   1983   北海道家育大学和明   22   24   昭和56   1985   北海道家育大学和京   22   25   昭和60   1985   北海道家育大学和京   22   28   26   昭和61   1986   北海道家育大学和京   28   27   28   27   28   27   28   27   28   29   平成元   1989   北海道家育大学自府   25   29   平成元   1989   北海道太学   22   23   24   27   28   29   平成2   1990   北東江業大学   24   24   27   27   28   27   28   29   平成2   1990   北東江業大学   24   27   27   28   27   28   29   平成2   1990   北東江業大学   24   27   27   27   28   27   28   29   27   27   27   27   27   27   27	12					
13   昭和48   1973   北見工業大学   14   14   18   1974   北見学園大学   15   15   1976   1975   帯広 畜産大学   14   16   1976   1976   北海学園大学   17   18   1976   1976   北海学園大学   19   18   1978   1978   14   14   1979   18   1979   28   14   1979   28   14   1979   28   18   1983   14   1979   19   19   19   19   19   19	13					
13   昭和48   1973   北見工業大学   14   14   18   1974   北見学園大学   15   15   1976   1975   帯広 畜産大学   14   16   1976   1976   北海学園大学   17   18   1976   1976   北海学園大学   19   18   1978   1978   14   14   1979   18   1979   28   14   1979   28   14   1979   28   18   1983   14   1979   19   19   19   19   19   19	13	12	昭和47	1972	北海道大学	15
14   昭和50   1975   井広舎産大学   15   15   180   1976   中広舎産大学   14   16   1976   北海学園大学   21   17   17   18   1873   1978   札幌商科大学   19   18   180   1977   小博商科大学   19   18   180   1978   札幌商科大学   19   19   19   19   19   19   19   1	14   昭和50   1974   北尾学園大学   15   15   昭和50   1975   帯広畜産大学   14   16   昭和51   1976   北海学園大学   21   17   昭和52   1977   小樽商科大学   19   18   昭和52   1977   小樽商科大学   19   16   1978   九樽商科大学   16   18   1978   九樽商科大学   16   18   1978   九樽商科大学   16   19   18   1979   全蘭工業大学   18   18   1978   九樽商科大学   16   19   19   19   19   19   19   19	1.9		1072		
15	15   昭和50					
15	15   昭和50	14	昭和49	1974	北星学園大学	15
16	16   昭和51   1976   北海学園大学   21     17   昭和52   1977   小均商科大学   19     18   昭和53   1978   札幌商科大学   16     19   昭和54   1979   蛮薗工業大学   18     20   昭和54   1979   蛮薗工業大学   20     21   昭和56   1981   北海道教育大学担川   19     22   昭和56   1981   北海道教育大学担川   19     23   昭和58   1983   北海道教育大学利規   22     23   昭和58   1983   北海道教育大学利規   25     25   昭和69   1984   北海道教育大学利規   25     26   昭和61   1986   北海道教育大学到別   18     27   昭和61   1986   北海道教育大学到別   18     28   昭和63   1988   北海道教育大学園館   25     29   平成元   1989   北海道教育大学園館   25     29   平成元   1989   北海道教育大学園館   25     30   平成2   1990   北月工業大学   24     31   平成3   1991   札幌大学   26     32   平成4   1992   宝薗工業大学   23     33   平成5   1993   北海道教育大学規   26     34   平成6   1994   小均商科大学   22     35   平成7   1995   北海道教育大学担川   32     36   平成8   1996   北海道教育大学担川   32     37   平成9   1997   北海道教育大学担川   32     38   平成10   1998   北海道教育大学担川   32     39   平成11   1999   北海道教育大学担川   32     39   平成11   1999   北海道教育大学担州   32     40   平成13   2001   北海道教育大学月泉沢   19     41   平成13   2001   北海道教育大学月泉沢   19     42   平成14   2002   北海道教育大学月泉沢   19     43   平成15   2003   北海道教育大学月報   25     44   平成16   2004   北海道教育大学月報   25     45   平成17   2005   北海道教育大学月報   25     46   平成18   2006   北海道教育大学月報   25     47   平成19   2007   北海道教育大学月報   25     48   平成20   2008   北海道教育大学月報   25     49   平成21   2009   北海道教育大学月報   25     49   平成21   2009   北海道教育大学月報   25     49   平成21   2009   北海道教育大学月報   25     49   平成20   2007   苫小文工業高等専門学校   29     49   平成20   2007   苫小工業高等専門学校   29     49   平成20   2007   苫小工業高等専門学校   29     49   平成20   2007   苫小工業高等専門学校   29     49   平成20   2007   江海道教育大学月報   30     50   平成20   2011   北海道教育大学月報   30     50   平成20   2011   北海道					
17   昭和52   1977   小樽商科大学   19   18   昭和53   1978   札幌商科大学   16   19   19   16   19   19   16   19   10   10   10   10   10   10   10	17   昭和52   1977   小梅商科大学   19   18   昭和53   1978   札幌商科大学   16   1979   電極工業大学   18   1979   電極工業大学   18   20   昭和55   1980   北海道工業大学   20   18   18   18   18   18   18   18   1					
17	17   昭和52   1977   小梅商科大学   19   18   昭和53   1978   札幌商科大学   16   1979   電欄工業大学   18   1979   電欄工業大学   18   1979   電欄工業大学   18   1979   電欄工業大学   18   1979   1980   北海道工業大学   20   18和55   1980   北海道教育大学川川   19   192   14海道教育大学川州   19   12   12   12   12   12   12   12	16	昭和51	1976	北海学園大学	21
18	18 昭和53 1978 札幌商科大学 16 19 昭和54 1979 宝蘭工業大学 18 20 昭和55 1980 北海直工業大学 20 21 昭和56 1981 北海道教育大学旭川 19 22 昭和57 1982 北海道教育大学旭川 19 23 昭和58 1983 北海道体育学会 シンボジウムのろ 24 昭和59 1984 北海道教育大学規模 22 25 昭和60 1985 北海道教育大学規算 25 26 昭和61 1985 北海道教育大学規算 18 27 昭和62 1987 北海道教育大学規算 18 27 昭和62 1987 北海道教育大学規算 22 28 昭和63 1988 北海道教育大学園館 25 29 平成元 1989 北海道教育大学園館 25 29 平成元 1989 北海道大学 22 31 平成3 1991 北根洋文学 22 31 平成3 1991 北根洋大学 26 32 平成4 1992 電腦工業大学 24 31 平成3 1991 北根洋大学 26 32 平成4 1992 電腦工業大学 23 33 平成5 1993 北岸道教育大学規則 31 34 平成6 1994 小埠商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学規則 26 37 平成9 1997 北海道教育大学規則 26 37 平成9 1997 北海道教育大学規則 32 37 平成9 1997 北海道大学 19 39 平成11 1999 北海道大学 19 39 平成11 1999 北海道大学 19 40 平成12 2000 國際統則明大学 25 41 平成13 2001 北海道大学 19 42 平成14 2002 北海道大学 19 43 平成15 2003 北海道大学 16 44 平成16 2004 北海道教育大学規則 25 45 平成17 2005 北海道教育大学規則 25 46 平成17 2005 北海道教育大学規則 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成10 2008 北海道教育大学規則 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学規則 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成21 2009 北海道大学 33 51 平成23 2011 北海道教育大学規則 33 51 平成23 2011 北海道教育大学規則 33 51 平成23 2011 北海道教育大学開始 25 53 平成25 2013 北海道教育大学規則 33 54 平成27 2015 名帝市立大学 33 55 平成27 2016 衛養学会 北海道教育大学規則 33 56 平成28 2016 衛素学会 北海道教育大学規則 33 57 平成29 2017 帯水工業高等専門学校 29 58 平成20 2018 北海道教育大学規則 33 59 平成21 2009 北海道教育大学規則 33 50 平成22 2010 北海道教育大学規則 33 51 平成23 2011 北海道教育大学規則 33 51 平成20 2010 北海道教育大学規則 33 51 平成21 2009 北海道教育大学規則 34 51 平成22 2010 北海道教育大学規則 34 51 平成23 2011 北海道教育大学規則 34 51 平成23 2011 北海道教育大学規則 35 51 平成23 2011 北海道教育大学規則 33 51 平成23 2011 北海道教育大学規則 34 51 平成24 平成25 2014 北海道教育大学規則 34 51 平成25 2014 北海道教育大学規則 34 51 平成26 2014 北海道教育大学規則 34 51 平成27 2015 東京教育大学規則 34 51 平成27 2015 東京教育					
19   昭和54   1979   室蘭工業大学   18	19 昭和54 1979 室蘭工業大学 18 20 昭和55 1980 北海道工業大学 20 21 昭和56 1981 北海道文章大学旭川 19 22 昭和57 1982 北海道教育大学旭川 19 23 昭和57 1982 北海道教育大学旭川 22 33 昭和58 1983 北海道教育大学釧路 25 24 昭和59 1984 北海道教育大学釧路 25 26 昭和60 1985 北海道教育大学劉路 25 27 昭和52 1987 北海道教育大学劉邦 22 28 昭和58 1988 北海道教育大学劉邦 25 27 昭和52 1987 北海道教育大学劉邦 25 30 平成元 1989 北海道教育大学園童 25 30 平成元 1989 北海道教育大学園童 25 31 平成元 1999 北尼亚素大学 24 31 平成3 1991 朱海道教育大学 23 33 平成左 1990 北尼亚素大学 26 32 平成4 1992 索蘭工業大学 26 33 平成6 1993 北海道教育大学规學 27 34 平成6 1994 小博商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学规學 26 36 平成7 1995 北海道教育大学旭川 32 37 平成9 1997 北海道教育大学旭川 32 37 平成9 1997 北海道教育大学旭川 32 37 平成9 1997 北海道教育大学旭川 32 40 平成11 1999 北海道文学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道教育大学 19 42 平成14 2002 北海道大学 19 43 平成15 2003 北海道教育大学湖路 25 44 平成15 2003 北海道教育大学湖路 25 45 平成17 2005 北海道教育大学湖路 25 46 平成18 2006 北海道教育大学湖路 25 47 平成17 2005 北海道教育大学湖路 25 48 平成20 2008 北海道教育大学湖路 25 49 平成21 2009 北海道大学 23 41 平成23 2011 北海道教育大学湖路 25 45 平成27 2007 苫小水工業商事門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学湖路 25 51 平成23 2011 北海道教育大学湖路 25 52 平成27 2010 北海道教育大学湖路 25 53 平成25 2013 北海道教育大学超童 30 54 平成26 2014 北海道教育大学超童 30 55 平成27 2016 孫帝市立大学 33 56 平成28 2016 孫帝市立大学 33 57 平成29 2017 蒂尔森西文学 33 58 平成20 2018 北海道教育大学ብ童 30 58 平成20 2018 北海道教育大学ብ童 30 59 今和72 2020 オンライン開催(北海道教育大学ብ鹺) 10 60 令和3 2021 北海道教育大学ብ鹺) 10					
19   昭和54   1979   室蘭工業大学   18	19 昭和54 1979 室蘭工業大学 18 20 昭和55 1980 北海道工業大学 20 21 昭和56 1981 北海道文章大学旭川 19 22 昭和57 1982 北海道教育大学旭川 19 23 昭和57 1982 北海道教育大学旭川 22 33 昭和58 1983 北海道教育大学釧路 25 24 昭和59 1984 北海道教育大学釧路 25 26 昭和60 1985 北海道教育大学劉路 25 27 昭和52 1987 北海道教育大学劉邦 22 28 昭和58 1988 北海道教育大学劉邦 25 27 昭和52 1987 北海道教育大学劉邦 25 30 平成元 1989 北海道教育大学園童 25 30 平成元 1989 北海道教育大学園童 25 31 平成元 1999 北尼亚素大学 24 31 平成3 1991 朱海道教育大学 23 33 平成左 1990 北尼亚素大学 26 32 平成4 1992 索蘭工業大学 26 33 平成6 1993 北海道教育大学规學 27 34 平成6 1994 小博商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学规學 26 36 平成7 1995 北海道教育大学旭川 32 37 平成9 1997 北海道教育大学旭川 32 37 平成9 1997 北海道教育大学旭川 32 37 平成9 1997 北海道教育大学旭川 32 40 平成11 1999 北海道文学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道教育大学 19 42 平成14 2002 北海道大学 19 43 平成15 2003 北海道教育大学湖路 25 44 平成15 2003 北海道教育大学湖路 25 45 平成17 2005 北海道教育大学湖路 25 46 平成18 2006 北海道教育大学湖路 25 47 平成17 2005 北海道教育大学湖路 25 48 平成20 2008 北海道教育大学湖路 25 49 平成21 2009 北海道大学 23 41 平成23 2011 北海道教育大学湖路 25 45 平成27 2007 苫小水工業商事門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学湖路 25 51 平成23 2011 北海道教育大学湖路 25 52 平成27 2010 北海道教育大学湖路 25 53 平成25 2013 北海道教育大学超童 30 54 平成26 2014 北海道教育大学超童 30 55 平成27 2016 孫帝市立大学 33 56 平成28 2016 孫帝市立大学 33 57 平成29 2017 蒂尔森西文学 33 58 平成20 2018 北海道教育大学ብ童 30 58 平成20 2018 北海道教育大学ብ童 30 59 今和72 2020 オンライン開催(北海道教育大学ብ鹺) 10 60 令和3 2021 北海道教育大学ብ鹺) 10	18	昭和53	1978	札幌商科大学	16
20   昭和55   1980   北海道文業大学   20	20   昭和55   1980   北海道工業大学   20					
21 昭和56	22 昭和56 1981 北海道教育大学札幌 22 昭和57 1982 北海道教育大学札幌 223 昭和58 1983 北海道教育大学札幌 25 25 昭和59 1984 北海道教育大学樹野 25 昭和60 1985 北海道女子長規大学 22 26 昭和61 1986 北海道女子長規大学 22 27 昭和62 1987 北海学園大学 21 18 28 昭和63 1988 北海道教育大学園館 25 29 平成元 1989 北海道教育大学園館 25 30 平成2 1990 北見工業大学 24 1992 東成1 1992 東京 1990 北見工業大学 24 1992 東京 1990 北見工業大学 24 1992 東京 1990 北見工業大学 24 1992 東京 1993 北海道教育大学周川 32 33 平成5 1993 北海道教育大学周川 32 2 平成7 1995 北海道教育大学周川 32 38 平成7 1995 北海道教育大学周川 32 38 平成10 1998 北海道教育大学見沢 1995 北海道教育大学周川 32 37 平成8 1996 北海道教育大学周川 32 2 平成1 1999 北海道大学 25 14 1992 北海道教育大学月 1995 北海道教育大学月 1996 北海道教育大学月 1997 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1999 北海道大学 199 平成1 1999 北海道大学 199 平成1 2000 國學院短期大学 22 11 11 1999 北海道大学 199 199 北海道大学 199 197 北海道教育大学月 16 1897 1997 北海道教育大学月 16 1897 1997 1997 1998 北海道教育大学月 16 1897 1997 1997 1998 北海道教育大学月 1999 1997 1999 1999 1997 1999 1997 1999 1997 1999 1999 1997 1999 1997 1999 1999 1997 1999 1999 1997 1999 1997 1999 1					
21 昭和56	22 昭和56 1981 北海道教育大学札幌 22 昭和57 1982 北海道教育大学札幌 223 昭和58 1983 北海道教育大学札幌 25 25 昭和59 1984 北海道教育大学樹野 25 昭和60 1985 北海道女子長規大学 22 26 昭和61 1986 北海道女子長規大学 22 27 昭和62 1987 北海学園大学 21 18 28 昭和63 1988 北海道教育大学園館 25 29 平成元 1989 北海道教育大学園館 25 30 平成2 1990 北見工業大学 24 1992 東成1 1992 東京 1990 北見工業大学 24 1992 東京 1990 北見工業大学 24 1992 東京 1990 北見工業大学 24 1992 東京 1993 北海道教育大学周川 32 33 平成5 1993 北海道教育大学周川 32 2 平成7 1995 北海道教育大学周川 32 38 平成7 1995 北海道教育大学周川 32 38 平成10 1998 北海道教育大学見沢 1995 北海道教育大学周川 32 37 平成8 1996 北海道教育大学周川 32 2 平成1 1999 北海道大学 25 14 1992 北海道教育大学月 1995 北海道教育大学月 1996 北海道教育大学月 1997 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1998 北海道教育大学月 1999 北海道大学 199 平成1 1999 北海道大学 199 平成1 2000 國學院短期大学 22 11 11 1999 北海道大学 199 199 北海道大学 199 197 北海道教育大学月 16 1897 1997 北海道教育大学月 16 1897 1997 1997 1998 北海道教育大学月 16 1897 1997 1997 1998 北海道教育大学月 1999 1997 1999 1999 1997 1999 1997 1999 1997 1999 1999 1997 1999 1997 1999 1999 1997 1999 1999 1997 1999 1997 1999 1	20	昭和55	1980	北海道工業大学	20
22   昭和57   1982   北海道教育大学札幌   22   23   昭和58   1983   北海道教育大学机幌   25   24   昭和59   1984   北海道教育大学側路   25   25   昭和60   1985   北海道教育大学側路   25   26   昭和61   1986   北海道教育大学周月沢   18   27   昭和62   1987   北海道教育大学周月沢   18   27   昭和63   1988   北海道教育大学同館   25   29   平成元   1989   北海道教育大学同館   25   29   平成元   1989   北海道教育大学   22   30   平成2   1990   北見工業大学   24   31   平成3   1991   札幌大学   26   32   平成4   1992   室繭工業大学   23   33   平成5   1993   北海道教育大学札幌   26   36   平成6   1994   小梅商科大学   22   35   平成6   1994   小梅商科大学   26   36   平成8   1996   北海道教育大学札幌   26   37   平成9   1997   北極道教育大学規則   32   37   平成9   1997   北海道教育大学規則   32   37   平成9   1997   北海道教育大学規則   32   39   平成11   1998   北海道教育大学規則   32   39   平成11   1999   北海道教育大学月沢   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   25   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   16   42   平成16   2003   土洞市   13   44   平成16   2004   北海道教育大学規則   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学規則   25   47   平成21   2009   北海道教育大学規則   25   47   平成21   2009   北海道教育大学規則   25   48   平成20   2008   北海道教育大学規則   25   27   2015   北海道教育大学面館   30   30   30   30   30   30   30   3	22 昭和57 1982 北海道教育大学札幌 22 1983 北海道教育大学科・ 25 1984 1983 北海道教育大学別路 25 18年60 1985 北海道教育大学別路 25 18年60 1985 北海道教育大学別路 25 18年60 1985 北海道教育大学相別大学 22 18年61 1986 北海道教育大学相別大学 22 18年63 1988 北海道教育大学周翰 25 18年63 1988 北海道教育大学周翰 25 18年63 1998 北海道教育大学周翰 25 18年63 1998 北海道教育大学別籍 25 18年63 1999 北見工業大学 24 18年7 1990 北見工業大学 24 18年7 1990 北見工業大学 25 18年7 1991 北幌大学 26 18年7 1991 北幌大学 26 18年7 1995 北海道教育大学加川 32 18年7 1995 北海道教育大学和川 32 18年7 1995 北海道大学 25 18年7 1995 北海道大学 25 18年7 1995 北海道大学 25 18年7 1999 北海道大学 25 18年7 1999 北海道大学 25 18年7 1999 北海道大学 25 18年7 1999 北海道大学 29 1997 北海道大学 19 19 1999 北海道大学 29 1997 北海道大学 19 19 1999 北海道大学 29 1997 北海道教育大学和路 25 18年7 1995 北海道教育大学和路 25 18年7 1995 北海道教育大学和路 25 18年7 1995 北海道教育大学和路 25 18年7 1995 1895 1895 1895 1895					
23   昭和58   1983   北海道体育学会   シンボジウ2   24   昭和59   1984   北海道教育大学釧路   25   25   昭和60   1985   北海道教育大学規大学   22   26   昭和61   1986   北海道教育大学岩見沢   18   27   昭和62   1987   北海道教育大学品別大学   21   28   昭和63   1988   北海道教育大学函館   25   29   平成元   1989   北海道大学   22   30   平成2   1990   北見工業大学   24   31   平成3   1991   九帳大学   26   32   平成4   1992   室繭工業大学   23   33   平成5   1993   北海道教育大学出規   26   32   平成6   1994   小梅商科大学   22   35   平成7   1995   北海道教育大学地川   32   34   平成6   1994   小梅商科大学   22   35   平成7   1995   北海道教育大学地川   32   37   平成9   1997   北海道教育大学地川   32   37   平成1   1999   北海道教育大学地川   32   39   平成11   1999   北海道教育大学地川   32   39   平成11   1999   北海道教育大学地川   32   41   平成13   2001   北海道教育大学   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   17   44   平成16   2004   北海道教育大学制財市   13   13   44   平成16   2004   北海道教育大学制模   25   46   平成18   2006   北海道教育大学制模   25   46   平成18   2006   北海道教育大学制模   25   46   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学制列   25   49   平成21   2009   北海道教育大学制列   25   49   平成21   2009   北海道教育大学制列   27   27   2015   北海道教育大学随館   30   30   40   40   40   40   40   40	23   昭和58   1983   北海道教育学会   シンボジウムの3   25   1984   北海道教育大学釧路   25   1986   1985   北海道教育大学釧路   25   1870   1987   北海道教育大学制度   27   1870   1987   北海道教育大学月泉沢   18   18   18   18   18   18   18   1					
24         昭和60         1984         北海道教育大学釧路         25           25         昭和60         1985         北海道教育大学規則大学         22           26         昭和61         1986         北海道教育大学月見沢         18           27         昭和62         1987         北海道教育大学日見沢         18           28         昭和63         1988         北海道教育大学函館         25           29         平成元         1989         北海道大学         26           29         平成元         1989         北海道大学         24           31         平成3         1991         札幌大学         26           32         平成4         1992         室蘭工業大学         23           32         平成4         1992         室園工業大学         23           34         平成6         1994         小樽商科大学         22           35         平成7         1995         北海道教育大学旭県         26           36         平成8         1996         北海道教育大学旭県         26           36         平成8         1996         北海道教育大学旭川         32           37         平成9         1997         札幌直教育大学旭川         32           38         平成10         1998         北海道教育大学超別         19	25 昭和60 1985 北海道教育大学釧路 25 昭和60 1985 北海道教育大学釧路 22 22 80 昭和61 1986 北海道教育大学園大学 22 1887 北海道教育大学園前 25 平成元 1989 北海道教育大学函館 25 平成元 1989 北海道教育大学函館 25 平成元 1989 北海道教育大学園前 25 平成元 1989 北海道教育大学園前 25 平成元 1989 北海道教育大学園前 25 平成元 1990 北見工業大学 24 1 1 平成3 1991 札幌大学 26 23 平成5 1993 北星学園大学 23 33 平成5 1993 北星学園大学 23 34 平成6 1994 小椿商科大学 26 36 平成8 1996 北海道教育大学規則 32 平成9 1997 北海道教育大学規則 32 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	22	昭和57	1982	北海道教育大学札幌	22
24         昭和60         1984         北海道教育大学釧路         25           25         昭和60         1985         北海道教育大学規則大学         22           26         昭和61         1986         北海道教育大学月見沢         18           27         昭和62         1987         北海道教育大学日見沢         18           28         昭和63         1988         北海道教育大学函館         25           29         平成元         1989         北海道大学         26           29         平成元         1989         北海道大学         24           31         平成3         1991         札幌大学         26           32         平成4         1992         室蘭工業大学         23           32         平成4         1992         室園工業大学         23           34         平成6         1994         小樽商科大学         22           35         平成7         1995         北海道教育大学旭県         26           36         平成8         1996         北海道教育大学旭県         26           36         平成8         1996         北海道教育大学旭川         32           37         平成9         1997         札幌直教育大学旭川         32           38         平成10         1998         北海道教育大学超別         19	25 昭和60 1985 北海道教育大学釧路 25 昭和60 1985 北海道教育大学釧路 22 22 80 昭和61 1986 北海道教育大学園大学 22 1887 北海道教育大学園前 25 平成元 1989 北海道教育大学函館 25 平成元 1989 北海道教育大学函館 25 平成元 1989 北海道教育大学園前 25 平成元 1989 北海道教育大学園前 25 平成元 1989 北海道教育大学園前 25 平成元 1990 北見工業大学 24 1 1 平成3 1991 札幌大学 26 23 平成5 1993 北星学園大学 23 33 平成5 1993 北星学園大学 23 34 平成6 1994 小椿商科大学 26 36 平成8 1996 北海道教育大学規則 32 平成9 1997 北海道教育大学規則 32 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					
25   昭和60   1985   北海道女子短期大学   22	25 昭和60 1985 北海道女子短期大学 22 26 昭和61 1986 北海道教育大学岩見沢 18 27 昭和62 1987 北海湾大学 21 28 昭和63 1988 北海道教育大学園館 25 29 平成元 1989 北海道大学 22 30 平成2 1990 北見工業大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1992 室蘭工業大学 26 33 平成6 1993 北星学園大学 31 34 平成6 1994 小樽商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学地川 32 36 平成9 1996 北海道教育大学地川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学出川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学出川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 19 40 平成12 2000 園學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 19 40 平成12 2000 園學院短期大学 22 41 平成14 2002 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道教育大学組 23 44 平成15 2003 土田別市 13 44 平成16 2004 北海道教育大学釧路 25 45 平成17 2005 北海道教育大学釧路 25 46 平成18 2006 北海道教育大学別路 25 47 平成19 2007 苫小女工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学岩見沢 29 48 平成20 2008 北海道教育大学岩見沢 23 49 平成21 2009 北海道東海大学 29 48 平成20 2008 北海道教育大学到路 25 50 平成21 2009 北海道教育大学岩見沢 27 49 平成21 2009 北海道教育大学岩見沢 27 50 平成22 2010 北海道教育大学岩見沢 27 51 平成23 2011 北海道教育大学岩見沢 27 52 平成24 2012 北海道教育大学超川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学超州 33 54 平成25 2013 北海道教育大学超州 33 55 平成27 2015 名寄市立大学 33 56 平成27 2015 名寄市立大学 33 57 平成29 2017 帯広畜産大学 29 58 平成30 2018 北海道教育大学和路 38 59 令和元 2020 北海道教育大学和縣)10 60 令和3 2021 北海道教育大学和縣)19 60 令和3 2021 北海道教育大学礼幌子中ンバス 20 62 令和5 2023 藤女子大学 20					
25   昭和60   1985   北海道女子短期大学   22	25 昭和60 1985 北海道女子短期大学 22 26 昭和61 1986 北海道教育大学岩見沢 18 27 昭和62 1987 北海湾大学 21 28 昭和63 1988 北海道教育大学園館 25 29 平成元 1989 北海道大学 22 30 平成2 1990 北見工業大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1992 室蘭工業大学 26 33 平成6 1993 北星学園大学 31 34 平成6 1994 小樽商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学地川 32 36 平成9 1996 北海道教育大学地川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学出川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学出川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 19 40 平成12 2000 園學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 19 40 平成12 2000 園學院短期大学 22 41 平成14 2002 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道教育大学組 23 44 平成15 2003 土田別市 13 44 平成16 2004 北海道教育大学釧路 25 45 平成17 2005 北海道教育大学釧路 25 46 平成18 2006 北海道教育大学別路 25 47 平成19 2007 苫小女工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学岩見沢 29 48 平成20 2008 北海道教育大学岩見沢 23 49 平成21 2009 北海道東海大学 29 48 平成20 2008 北海道教育大学到路 25 50 平成21 2009 北海道教育大学岩見沢 27 49 平成21 2009 北海道教育大学岩見沢 27 50 平成22 2010 北海道教育大学岩見沢 27 51 平成23 2011 北海道教育大学岩見沢 27 52 平成24 2012 北海道教育大学超川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学超州 33 54 平成25 2013 北海道教育大学超州 33 55 平成27 2015 名寄市立大学 33 56 平成27 2015 名寄市立大学 33 57 平成29 2017 帯広畜産大学 29 58 平成30 2018 北海道教育大学和路 38 59 令和元 2020 北海道教育大学和縣)10 60 令和3 2021 北海道教育大学和縣)19 60 令和3 2021 北海道教育大学礼幌子中ンバス 20 62 令和5 2023 藤女子大学 20	24	昭和59	1984	北海道教育大学釧路	25
26 昭和61 1986 北海道教育大学岩見沢 18   27 昭和62 1987 北海学園大学 21   28 昭和63 1988 北海道教育大学函館 25   29 平成元 1989 北海道教育大学 22   30 平成2 1990 北見工業大学 24   31 平成3 1991 札幌大学 26   32 平成4 1992 室繭工業大学 31   34 平成5 1993 北軍道教育大学担川 32   35 平成7 1995 北海道教育大学担川 32   37 平成9 1997 北海道教育大学担川 32   37 平成9 1997 北海道教育大学担川 32   37 平成9 1997 北海道教育大学担川 32   37 平成9 1998 北海道教育大学担川 32   37 平成1 1996 北海道教育大学担川 32   37 平成1 1997 北海道教育大学担川 32   37 平成1 1998 北海道教育大学担川 32   37 平成1 1998 北海道教育大学日東沢 19   40 平成11 1999 北海道教育大学日東沢 19   40 平成12 2000 國學院短期大学 22   41 平成13 2001 北海道大学 16   42 平成14 2002 北海道大学 16   42 平成14 2002 北海道大学 16   42 平成15 2003 土別市 13   44 平成16 2004 北海道教育大学科県 25   46 平成18 2006 北海道教育大学科県 25   46 平成18 2006 北海道教育大学科県 25   47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29   48 平成20 2008 北海道教育大学担州 33   51 平成23 2011 北海道教育大学担川 33   51 平成23 2011 北海道教育大学担川 33   51 平成23 2011 北海道教育大学超前 30   54 平成26 2014 北海道教育大学函館 30   55 平成27 2015 名寄市立大学 38   58 平成29 2017 帯広畜産大学 38   58 平成30 2018 北海道医療大学 38   38   38   38   38   38   38   38	26 昭和61 1986 北海道教育大学岩見沢 18 27 昭和62 1987 北海学園大学 21 28 昭和63 1988 北海道教育大学函館 25 29 平成元 1989 北海道教育大学園 25 30 平成2 1990 北見工業大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1992 室蘭工業大学 23 33 平成5 1993 北星学園大学 31 34 平成6 1994 小権商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学旭川 32 36 平成8 1996 北海道教育大学旭川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学旭川 32 39 平成11 1999 北海道教育大学担別 39 39 平成11 1999 北海道教育大学担別 39 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 16 42 平成15 2003 土海道教育大学組 23 44 平成16 2004 北海道大学 17 43 平成15 2003 土海道教育大学組 23 45 平成17 2005 北海道教育大学組 25 46 平成18 2006 北海道教育大学組 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高学専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学出規 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高学専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学出規 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高学専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学出規 25 50 平成22 2010 北海道教育大学出別 33 51 平成23 2011 北海道教育大学出別 37 52 平成21 2009 北海道教育大学出別 27 53 平成25 2013 北海道教育大学田川 33 54 平成26 2014 北海道教育大学田川 33 55 平成27 2015 名帝市立大学 33 56 平成27 2016 路藤史質大学 30 57 平成29 2017 蒂広高産大学 39 58 平成27 2016 路藤史質大学 29 57 平成29 2017 蒂広高産大学 29 57 平成29 2017 蒂広高産大学 38 58 平成30 2018 北海道教育大学組幌 26 59 令和元 2019 北海道教育大学組幌 38 59 令和元 2019 北海道教育大学組幌 38 59 今和元 2019 北海道教育大学組幌 38 59 今和2 2020 オンライン開催(北海道教育大学札幌) 10 60 令和3 2021 北海道教育大学組幌 38 59 今和5 2023 藤女子大学 20	25				
27   昭和62   1987   北海道大学   21   28   昭和63   1988   北海道教育大学函館   25   29   平成元   1989   北海道大学   22   30   平成2   1990   北見工業大学   24   31   平成3   1991   札幌大学   26   32   平成4   1992   室蘭工業大学   23   33   平成5   1993   北星学園大学   31   34   平成6   1994   小樽商科大学   22   35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学札幌   26   37   平成9   1997   札幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学是見沢   19   39   平成11   1999   北海道大学   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   17   43   平成15   2003   土別市   13   44   平成16   2004   北海道大学   17   43   平成17   2005   北海道大学   18   45   平成19   2007   苫小海道大学   25   46   平成18   2006   北海道大学   23   47   平成19   2007   苫小海工業市等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学出院   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学出院   25   47   平成21   2009   北海道教育大学出院   25   47   平成21   2009   北海道教育大学出院   25   47   平成21   2009   北海道教育大学出院   25   48   平成20   2008   北海道教育大学上院   27   49   平成21   2009   北海道教育大学   18   50   平成22   2010   北海道教育大学   18   51   平成23   2011   北海道教育大学   29   52   平成26   2014   北海道教育大学   27   53   平成27   2015   名寄市立大学   30   54   平成28   2016   衛藤学園大学   29   55   平成29   2017   帯広畜産大学   38   58   平成30   2018   北海道医療大学   38	27 昭和62 1987 北海学園大学 21 28 昭和63 1988 北海道教育大学函館 25 29 平成元 1989 北海道教育大学函館 25 30 平成2 1990 北見工業大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1992 室蘭工業大学 26 33 平成5 1993 北星空園大学 31 34 平成6 1994 小機商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学札幌 26 36 平成8 1996 北海道教育大学札明 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学見別 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 19 41 平成13 2001 北海道教育大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 17 43 平成15 2003 士洞市 13 44 平成16 2004 北海道教育大学和阅 25 47 平成17 2005 北海道教育大学和阅 25 48 平成19 2006 北海道大学知 25 47 平成19 2007 古水海道大学知 25 48 平成19 2007 古水海道大学知 25 49 平成19 2007 古水海道大学和阅 25 47 平成19 2007 古水海道大学和阅 25 48 平成20 2008 北海道教育大学和阅 25 47 平成19 2007 古水牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学見沢 27 50 平成22 2010 北海道教育大学月別 27 51 平成22 2010 北海道教育大学月別 27 52 平成24 2012 北海道教育大学月別 33 51 平成25 2013 北海道教育大学周館 30 54 平成25 2013 北海道教育大学周館 30 54 平成26 2014 北海道教育大学園館 30 55 平成27 2015 名書市立大学 33 56 平成28 2016 酪農学園大学 27 57 平成29 2017 蒂広畜産大学 38 58 平成27 2015 名書市立大学 38 58 平成20 2018 北海道教育大学副館 30 59 令和元 2019 北海道教育大学刺鹛 38 59 令和元 2019 北海道教育大学刺鹛 38 59 令和元 2019 北海道を育大学利幌)10 60 令和3 2021 北海道教育大学利幌)10					
27   昭和62   1987   北海道教育大学   21   28   昭和63   1988   北海道教育大学   25   29   平成元   1989   北海道大学   22   30   平成2   1990   北見工業大学   24   31   平成3   1991   札幌大学   26   32   平成4   1992   室蘭工業大学   23   33   平成5   1993   北星学園大学   31   34   平成6   1994   小樽商科大学   22   35   平成7   1995   北海道教育大学旭川   32   36   平成8   1996   北海道教育大学旭川   32   37   平成9   1997   札幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学岩見沢   19   40   平成11   1999   北海道大学   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   16   42   平成15   2003   土別市   13   44   平成16   2004   北海道大学   13   44   平成16   2004   北海道大学   14   45   平成17   2005   北海道教育大学和脱   25   46   平成18   2006   北海道教育大学和脱   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学出脱   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学出別   27   49   平成21   2009   北海道教育大学出別   27   50   平成22   2010   北海道教育大学加川   33   51   平成23   2011   北海道教育大学加川   33   52   平成24   2012   札幌大学   27   53   平成25   2013   北海道教育大学随館   30   54   平成26   2014   北海道教育大学随館   30   55   平成27   2015   名寄市立大学   33   56   平成28   2016   路農学園大学   29   57   平成29   2017   帯広畜産大学   38   58   平成30   2018   北海道医療大学   38	27 昭和62 1987 北海道太宇 21 28 昭和63 1988 北海道教育大学園館 25 29 平成元 1989 北海道教育大学園館 25 30 平成2 1990 北見工業大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1992 室蘭工業大学 26 33 平成5 1993 北星学園大学 31 34 平成6 1994 小博商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学旭川 32 36 平成7 1996 北海道教育大学担川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学見沢 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 17 43 平成15 2003 北海道教育大学組幌 26 44 平成16 2004 北海道教育大学組幌 25 45 平成17 2005 北海道教育大学組 29 46 平成18 2006 北海道教育大学組展 25 47 平成19 2007 古小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学相风 25 47 平成20 2009 北東道大学 27 48 平成20 2008 北海道教育大学相风 25 47 平成20 2008 北海道教育大学和 25 48 平成20 2008 北海道教育大学和 25 49 平成21 2009 北東道大学 27 48 平成20 2008 北海道教育大学和 27 50 平成22 2010 北海道大学 33 51 平成22 2010 北海道大学 33 51 平成25 2013 北海道教育大学祖川 33 51 平成25 2013 北海道教育大学祖川 33 51 平成27 2015 名素市大学 18 52 平成24 2012 北海道教育大学 30 54 平成27 2015 名素市大学 30 55 平成27 2015 名素市大学 30 56 平成28 2016 酪農学園大学 30 57 平成29 2017 帶広畜産大学 38 58 平成20 2018 北海道医療大学 38 58 平成20 2018 北海道医療大学 38 58 平成20 2019 北海道医療大学 38 58 平成20 2019 北海道医療大学 38 58 平成20 2019 北海道教育大学和 30 56 平成29 2017 帶広畜産大学 38 57 平成29 2017 帶広畜産大学 38 58 平成20 2018 北海道医療大学 38 58 平成20 2019 北海道医療大学 38 59 令和元 2019 北海道医療大学 40 60 令和3 2021 北海道を育学会(ホテルライフォート和・利利)19 60 令和3 2021 北海道体育学会(ホテルライフォート和・利利)19 60 令和5 2023 藤女子大学 20	26	昭和61	1986	北海道教育大学岩見沢	18
28   昭和63   1988   北海道教育大学函館   25   29   平成元   1989   北海道大学   22   23   30   平成2   1990   北見工業大学   24   31   平成3   1991   九幌大学   26   32   平成4   1992   室蘭工業大学   23   33   平成5   1993   北星学園大学   31   34   平成6   1994   小樽商科大学   22   35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学札幌   26   36   平成9   1997   九幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学担川   32   37   平成9   1997   九槐医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学担川   39   平成11   1999   北海道教育大学担別   199   北海道大学   19   40   平成12   2000   國學院短網大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   16   42   平成15   2003   土湖市   13   44   平成16   2004   北海道教育大学訓路   25   45   平成17   2005   北海道教育大学訓路   25   46   平成18   2006   北海道教育大学制路   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学礼幌   25   49   平成21   2009   北海道教育大学礼幌   27   49   平成21   2009   北海道教育大学礼明   33   51   平成23   2011   北海道教育大学月前   30   54   平成26   2014   北海道教育大学   30   55   平成28   2016   路農学園大学   29   7   平成29   2017   帯広畜産大学   38   58   平成30   2018   北海道医療大学   29   7   平成29   2017   帯広畜産大学   38   78   78   78   78   78   78   78	28 昭和63 1988 北海道教育大学函館 25 29 平成元 1989 北海道大学 22 30 平成2 1990 北見工業大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1992 室蘭工業大学 26 33 平成5 1993 北星学園大学 31 34 平成6 1994 小樽商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学札幌 26 36 平成8 1996 北海道教育大学札幌 26 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成1 1999 北海道教育大学札明 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学見沢 19 39 平成11 1999 北海道大学 19 40 平成12 2000 國學院知助大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 17 43 平成16 2003 士別市 13 44 平成16 2004 北海道教育大学札幌 25 45 平成17 2005 北海道教育大学札幌 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学月泉 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道大学 27 48 平成20 2008 北海道大学 27 48 平成20 2008 北海道大学 18 50 平成22 2010 北海道大学 18 51 平成22 2010 北海道大学 33 51 平成22 2011 北海道教育大学月泉 27 52 平成24 2012 北海道教育大学月泉 27 53 平成25 2013 北海道教育大学月明 33 52 平成24 2012 北海道教育大学月明 33 52 平成26 2014 北海道教育大学月明 33 54 平成26 2014 北海道教育大学日明 33 55 平成27 2015 名喬市立大学 38 56 平成28 2016 酪農学園大学 29 57 平成29 2017 蒂広高座大学 39 58 平成20 2018 北海道教育大学日明 30 59 平成21 2019 北海道教育大学日明 38 59 今和元 2019 北海道教育大学 29 57 平成29 2017 蒂広高座大学 38 58 平成20 2018 北海道教育大学月朝 38 59 今和元 2019 北海道及育大学 38 59 今和元 2019 北海道及育大学 38 59 今和元 2019 北海道及育大学 40 50 全和3 2021 北海道及育大学 40 51 全和4 2022 東海大学札幌キャンパス 20 62 令和5 2023 藤女子大学 20	97		1097	北海学園士学	91
29       平成元       1989       北海道大学       22         30       平成2       1990       北見工業大学       24         31       平成3       1991       札幌大学       26         32       平成4       1992       室蘭工業大学       23         33       平成5       1993       北星学園大学       31         34       平成6       1994       小樽商科大学       22         35       平成7       1995       北海道教育大学札幌       26         36       平成8       1996       北海道教育大学札県       26         36       平成8       1996       北海道教育大学札県       26         36       平成8       1996       北海道教育大学規川       32         37       平成8       1996       北海道教育大学規川       32         37       平成8       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       22         41       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       16         42       平成1	29 平成元 1989 北海道大学 22 30 平成2 1990 北見工業大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1992 室蘭工業大学 23 33 平成5 1993 北星学園大学 31 34 平成6 1994 小梅商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学札幌 26 36 平成8 1996 北海道教育大学見別 192 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学見別 19 39 平成11 1999 北海道教育大学見別 19 39 平成11 1999 北海道教育大学見別 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 17 43 平成15 2003 士別市 13 44 平成16 2004 北海道教育大学和縣 25 46 平成17 2005 北海道教育大学和縣 25 47 平成19 2007 塔小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学礼幌 25 47 平成19 2007 塔小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学見別 27 49 平成21 2009 北海道教育大学見別 27 49 平成21 2009 北海道教育大学見別 27 49 平成21 2009 北海道教育大学別路 25 50 平成22 2010 北海道教育大学胆川 33 51 平成23 2011 北海道教育大学胆川 33 51 平成23 2011 北海道教育大学胆川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学胆川 33 54 平成27 2015 名裔市立大学 33 56 平成28 2016 酪農学園大学 29 57 平成29 2017 帯広高産大学 30 56 平成28 2016 酪農学園大学 29 57 平成29 2017 帯広高産大学 38 58 平成20 2018 北海道教育大学即第 30 56 平成28 2016 酪農学園大学 29 57 平成29 2017 帯広高産大学 38 58 平成30 2018 北海道教育大学和縣 26 59 令和元 2019 北海道教育大学和縣 38 59月 合和2 2020 オンライン開催(北海道教育大学机幌) 10 60 令和3 2021 北海道教育大学机幌) 10 61 令和4 2022 東海大学札幌 20 62 令和5 2023 藤女子大学 20					
30   平成2   1990   北見工業大学   24     31   平成3   1991   九幌大学   26     32   平成4   1992   室蘭工業大学   23     33   平成5   1993   北星学園大学   31     34   平成6   1994   小樽商科大学   22     35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26     36   平成8   1996   北海道教育大学旭川   32     37   平成9   1997   九幌医科大学   25     38   平成10   1998   北海道教育大学是月沢   19     39   平成11   1999   北海道大学   19     40   平成12   2000   國學院短期大学   22     41   平成13   2001   北海道大学   16     42   平成14   2002   北海道大学   16     42   平成15   2003   土海道大学   13     44   平成16   2004   北海道教育大学組幌   25     45   平成17   2005   北海道教育大学組幌   25     46   平成18   2006   北海道教育大学組幌   25     47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29     48   平成20   2008   北海道教育大学見見沢   27     49   平成21   2009   北海道教育大学見見沢   27     49   平成21   2009   北海道教育大学出帆   25     50   平成22   2010   北海道教育大学出州   33     51   平成23   2011   北海道教育大学胆川   33     52   平成24   2012   九帳大学   27     53   平成25   2013   北海道教育大学上川   33     54   平成26   2014   北海道教育大学上明   30     55   平成27   2015   名高市立大学   30     56   平成28   2016   路農学園大学   29     57   平成29   2017   帯広畜産大学   38     58   平成30   2018   北海道医療大学   29     57   平成29   2017   帯広畜産大学   38     58   平成30   2018   北海道医療大学   26	30 平成2 1990 北見工業大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1992 室繭工業大学 23 33 平成5 1993 北星学園大学 31 34 平成6 1994 小樽商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学担川 32 36 平成8 1996 北海道教育大学担川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学担川 32 37 平成19 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学見沢 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 17 43 平成15 2003 土別市 13 44 平成16 2004 北海道教育大学担幌 26 46 平成18 2006 北海道教育大学担幌 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学相幌 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学出院 25 49 平成21 2009 北海道大学 18 50 平成21 2009 北海道大学 33 51 平成21 2001 北海道教育大学相景 25 51 平成21 2005 北海道教育大学担幌 25 52 平成24 2012 北海道教育大学担州 33 52 平成24 2012 北海道教育大学加川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学加川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学回销 30 54 平成25 2013 北海道教育大学回销 30 55 平成27 2015 名帝市立大学 33 56 平成27 2015 名帝市立大学 33 56 平成28 2016 酪農学園大学 29 57 平成29 2017 帯広高産大学 38 56 平成29 2017 帯広高産大学 38 57 平成29 2017 帯広高産大学 38 58 中成20 2018 北海道教育大学到路 38 59 令和元 2019 北海道教育大学到路 38 59 令和元 2019 北海道教育大学列路 38 59 令和元 2019 北海道教育大学机幌) 10 60 令和3 2021 北海道教育大学机幌) 10 61 令和4 2022 康海大学礼幌	28	昭和63	1988	北海道教育大学函館	25
30   平成2   1990   北見工業大学   24     31   平成3   1991   九幌大学   26     32   平成4   1992   室蘭工業大学   23     33   平成5   1993   北星学園大学   31     34   平成6   1994   小樽商科大学   22     35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26     36   平成8   1996   北海道教育大学旭川   32     37   平成9   1997   九幌医科大学   25     38   平成10   1998   北海道教育大学是見沢   19     39   平成11   1999   北海道大学   19     40   平成12   2000   國學院短期大学   22     41   平成13   2001   北海道大学   16     42   平成14   2002   北海道大学   16     42   平成15   2003   土海道大学   17     43   平成15   2003   北海道教育大学制路   25     46   平成17   2005   北海道教育大学制略   25     46   平成18   2006   北海道教育大学机幌   25     46   平成18   2006   北海道教育大学机幌   25     47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29     48   平成20   2008   北海道教育大学光明   27     49   平成21   2009   北海道教育大学是見沢   27     49   平成21   2009   北海道教育大学上別   27     49   平成21   2009   北海道教育大学上別   33     51   平成23   2011   北海道教育大学上別   33     52   平成24   2012   九帳大学   27     53   平成25   2013   北海道教育大学上別   30     54   平成26   2014   北海道教育大学上別   30     55   平成27   2015   名寄市立大学   33     56   平成28   2016   路農学園大学   29     57   平成29   2017   帯広畜産大学   38     58   平成30   2018   北海道医療大学   29     57   平成29   2017   帯広畜産大学   38     58   平成30   2018   北海道医療大学   26	30 平成2 1990 北見工業大学 24 31 平成3 1991 札幌大学 26 32 平成4 1992 室繭工業大学 23 33 平成5 1993 北星学園大学 31 34 平成6 1994 小樽商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学担川 32 36 平成8 1996 北海道教育大学担川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学担川 32 37 平成19 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学見沢 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 17 43 平成15 2003 土別市 13 44 平成16 2004 北海道教育大学担幌 26 46 平成18 2006 北海道教育大学担幌 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学相幌 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学出院 25 49 平成21 2009 北海道大学 18 50 平成21 2009 北海道大学 33 51 平成21 2001 北海道教育大学相景 25 51 平成21 2005 北海道教育大学担幌 25 52 平成24 2012 北海道教育大学担州 33 52 平成24 2012 北海道教育大学加川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学加川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学回销 30 54 平成25 2013 北海道教育大学回销 30 55 平成27 2015 名帝市立大学 33 56 平成27 2015 名帝市立大学 33 56 平成28 2016 酪農学園大学 29 57 平成29 2017 帯広高産大学 38 56 平成29 2017 帯広高産大学 38 57 平成29 2017 帯広高産大学 38 58 中成20 2018 北海道教育大学到路 38 59 令和元 2019 北海道教育大学到路 38 59 令和元 2019 北海道教育大学列路 38 59 令和元 2019 北海道教育大学机幌) 10 60 令和3 2021 北海道教育大学机幌) 10 61 令和4 2022 康海大学礼幌	20	17.武元	1080	<b>北海</b> 道大学	99
31       平成3       1991       札幌大学       26         32       平成4       1992       室蘭工業大学       23         33       平成5       1993       北星学園大学       31         34       平成6       1994       小樽商科大学       22         35       平成7       1995       北海道教育大学札幌       26         36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学規元       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       19         42       平成14       2002       北海道大学       19         43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道教育大学銀       23         45       平成17       2005       北海道教育大学翻路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学机       25         47       平成19       2007       苫小牧五道教育大学規       27         49       平	31   平成3   1991   札幌大学   26     32   平成4   1992   室蘭工業大学   23     33   平成6   1994   小梅商科大学   31     34   平成6   1994   小梅商科大学   22     35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26     36   平成8   1996   北海道教育大学札幌   26     37   平成9   1997   札幌医科大学   25     38   平成10   1998   北海道教育大学見沢   19     40   平成11   1999   北海道大学   19     40   平成12   2000   國學院短期大学   22     41   平成13   2001   北海道大学   16     42   平成14   2002   北海道大学   17     43   平成15   2003   土湖道教育大学制路   25     44   平成16   2004   北海道教育大学制路   25     45   平成17   2005   北海道教育大学制路   25     46   平成18   2006   北海道教育大学見沢   29     47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29     48   平成20   2008   北海道教育大学見沢   27     49   平成21   2009   北海道教育大学月見沢   27     49   平成21   2009   北海道教育大学月別   27     49   平成21   2009   北海道教育大学別   27     49   平成21   2010   北海道教育大学月別   27     49   平成21   2011   北海道教育大学月別   33     51   平成22   2010   北海道教育大学月別   33     52   平成24   2012   北海道教育大学園館   30     54   平成26   2014   北海道教育大学園館   30     55   平成27   2015   名寄市立大学   33     56   平成28   2016   酪農学園大学   29     57   平成29   2017   帯広畜産大学   38     56   平成28   2016   酪農学園大学   29     57   平成29   2017   帯広畜産大学   38     58   平成30   2018   北海道教育大学科幌   38     特別   今和2   2020   オンライン開催 (北海道教育大学札幌   10     60   今和3   2021   北海道体育学会 (ホテルライフォート札幌   10     61   令和4   2022   東海大学札幌キャンバス   20     62   令和5   2023   藤女子大学   20					
32   平成4   1992   室蘭工業大学   23   33   平成5   1993   北星学園大学   31   34   平成6   1994   小樽商科大学   22   35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学札川   32   37   平成9   1997   札幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学岩見沢   19   39   平成11   1999   北海道大学   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   16   42   平成15   2003   土別市   13   44   平成16   2004   北海道教育大学組勝   23   45   平成17   2005   北海道大学   23   45   平成18   2006   北海道東海大学札幌   25   47   平成18   2006   北海道東海大学札幌   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学出房   27   49   平成21   2009   北月工業大学   18   50   平成23   2011   北海道教育大学旭川   33   51   平成23   2011   北海道教育大学旭川   33   52   平成24   2012   九幌大学   27   53   平成25   2013   北海道教育大学随时   30   54   平成26   2014   北海道教育大学随时   30   55   平成27   2015   名帝市立大学   33   56   平成27   2015   名帝市立大学   30   56   平成28   2016   路岸大学   27   2015   名帝市立大学   30   55   平成28   2016   路岸大学   29   57   平成29   2017   書広备産大学   38   58   平成29   2017   書広备産大学   38   58   平成30   2018   北海道医療大学   26	32   平成4   1992   宝蘭工業大学   23   33   平成5   1993   北星学園大学   31   34   平成6   1994   小樽商科大学   22   23   35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学担川   32   37   平成9   1997   札幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学担川   39   平成11   1999   北海道教育大学目沢   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成15   2003   土河市   13   44   平成16   2004   北海道教育大学制路   25   47   平成17   2005   北海道教育大学制展   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学科展   25   47   平成20   2008   北海道教育大学科展   25   47   平成21   2009   北海道教育大学科展   25   47   平成21   2009   北海道教育大学科展   27   49   平成21   2009   北海道教育大学科   33   51   平成23   2011   北海道教育大学周川   33   52   平成24   2012   北海道教育大学月前   30   30   42   42   42   2012   12   42   42   42   42   42   42	30	半成2	1990	北見工業大学	24
32   平成4   1992   室蘭工業大学   23   33   平成5   1993   北星学園大学   31   34   平成6   1994   小樽商科大学   22   35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学札川   32   37   平成9   1997   札幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学岩見沢   19   39   平成11   1999   北海道大学   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   16   42   平成15   2003   土別市   13   44   平成16   2004   北海道教育大学組勝   23   45   平成17   2005   北海道大学   23   45   平成18   2006   北海道東海大学札幌   25   47   平成18   2006   北海道東海大学札幌   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学出房   27   49   平成21   2009   北月工業大学   18   50   平成23   2011   北海道教育大学旭川   33   51   平成23   2011   北海道教育大学旭川   33   52   平成24   2012   九幌大学   27   53   平成25   2013   北海道教育大学随时   30   54   平成26   2014   北海道教育大学随时   30   55   平成27   2015   名帝市立大学   33   56   平成27   2015   名帝市立大学   30   56   平成28   2016   路岸大学   27   2015   名帝市立大学   30   55   平成28   2016   路岸大学   29   57   平成29   2017   書広备産大学   38   58   平成29   2017   書広备産大学   38   58   平成30   2018   北海道医療大学   26	32   平成4   1992   宝蘭工業大学   23   33   平成5   1993   北星学園大学   31   34   平成6   1994   小樽商科大学   22   23   35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学担川   32   37   平成9   1997   札幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学担川   39   平成11   1999   北海道教育大学目沢   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成15   2003   土河市   13   44   平成16   2004   北海道教育大学制路   25   47   平成17   2005   北海道教育大学制展   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学科展   25   47   平成20   2008   北海道教育大学科展   25   47   平成21   2009   北海道教育大学科展   25   47   平成21   2009   北海道教育大学科展   27   49   平成21   2009   北海道教育大学科   33   51   平成23   2011   北海道教育大学周川   33   52   平成24   2012   北海道教育大学月前   30   30   42   42   42   2012   12   42   42   42   42   42   42	21		1001		
33   平成5   1993   北星学園大学   31   34   平成6   1994   小樽商科大学   22   35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学札幌   32   37   平成9   1997   札幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学見泉沢   19   39   平成11   1999   北海道大学   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   17   43   平成15   2003   土別市   13   13   44   平成16   2004   北海道浅井学園大学   23   45   平成17   2005   北海道教育大学釧路   25   46   平成18   2006   北海道教育大学制路   25   46   平成18   2006   北海道教育大学相幌   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学岩泉沢   27   49   平成21   2009   北月工業大学   18   50   平成22   2010   北海道教育大学出川   33   51   平成23   2011   北海道教育大学周郎   30   54   平成26   2014   北海道教育大学函館   30   54   平成26   2014   北海道教育大学   30   55   平成27   2015   名寄市立大学   33   56   平成28   2016   酪農学園大学   29   57   平成29   2017   帯広高産大学   38   58   平成29   2017   帯広高産大学   38   58   平成29   2017   帯広高産大学   38   58   平成29   2017   帯広高産大学   39   38   30   30   30   30   30   30   30	33 平成5 1993 北屋学園大学 31 34 平成6 1994 小樽商科大学 22 35 平成7 1995 北海道教育大学札幌 26 36 平成8 1996 北海道教育大学札幌 26 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学見沢 19 39 平成11 1999 北海道教育大学見沢 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道工業大学 17 43 平成15 2003 土別市 13 44 平成16 2004 北海道教育大学側路 25 46 平成17 2005 北海道教育大学側路 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学見沢 27 49 平成21 2009 北海道教育大学見沢 27 49 平成21 2009 北海道教育大学月別 27 50 平成22 2010 北海道教育大学月別 27 51 平成23 2011 北海道教育大学月別 27 52 平成24 2012 北海道教育大学月別 33 51 平成23 2011 北海道教育大学月別 33 52 平成24 2012 北海道教育大学園所 30 54 平成26 2014 北海道教育大学園所 30 55 平成27 2015 名寄市立大学 30 56 平成28 2016 蘇摩丁大学 33 57 平成29 2017 蒂古森主教学 30 58 平成27 2015 名寄市立大学 30 59 今和元 2019 北海道教育大学到際 38 59 今和元 2019 北海道教育大学到解 38 59 今和2 2020 オンライン開催(北海道教育大学札幌) 10 60 今和3 2021 北海道教育大学礼幌) 10 61 令和4 2022 康疾大学 420					
34       平成6       1994       小樽商科大学       22         35       平成7       1995       北海道教育大学札幌       26         36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道大学呈見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学日見沢       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道大学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学剔路       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学周邦       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50	34   平成6   1994   小樽商科大学   22   23   35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学旭川   32   37   平成9   1997   札幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学岩見沢   19   39   平成11   1999   北海道教育大学岩見沢   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   16   42   平成15   2003   土別市   13   13   44   平成16   2004   北海道浅井学園大学   23   45   平成17   2005   北海道教育大学札幌   25   46   平成18   2006   北海道東海大学札幌   25   46   平成18   2006   北海道教育大学札幌   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学出界   27   49   平成21   2009   北海道教育大学出界   27   49   平成22   2010   北海道教育大学旭川   33   51   平成23   2011   北海道教育大学旭川   33   51   平成23   2011   北海道教育大学加州   33   52   平成24   2012   九帳大学   27   27   2015   28   30   54   平成26   2014   北海道教育大学函館   30   30   54   平成26   2014   北海道教育大学函館   30   30   54   平成26   2014   北海道教育大学   33   56   平成28   2016   四成29   2017   帯広畜産大学   38   58   平成30   2018   北海道教育大学到路   38   49   40   2021   北海道教育大学到路   38   49   40   2022   北海道教育大学机明   10   60   令和3   2021   北海道体育学会 (ホテルライフォート札幌)   10   61   令和4   2022   東海大学社幌キャンパス   20   62   令和5   2023   藤女子大学   20   20   20   20   20   20   20   2	32	半成4	1992	至闌工業大学	23
34       平成6       1994       小樽商科大学       22         35       平成7       1995       北海道教育大学札幌       26         36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道大学呈見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学日見沢       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道大学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学剔路       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学周邦       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50	34   平成6   1994   小樽商科大学   22   23   35   平成7   1995   北海道教育大学札幌   26   36   平成8   1996   北海道教育大学旭川   32   37   平成9   1997   札幌医科大学   25   38   平成10   1998   北海道教育大学岩見沢   19   39   平成11   1999   北海道教育大学岩見沢   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道大学   16   42   平成15   2003   土別市   13   13   44   平成16   2004   北海道浅井学園大学   23   45   平成17   2005   北海道教育大学札幌   25   46   平成18   2006   北海道東海大学札幌   25   46   平成18   2006   北海道教育大学札幌   25   47   平成19   2007   苫小牧工業高等専門学校   29   48   平成20   2008   北海道教育大学出界   27   49   平成21   2009   北海道教育大学出界   27   49   平成22   2010   北海道教育大学旭川   33   51   平成23   2011   北海道教育大学旭川   33   51   平成23   2011   北海道教育大学加州   33   52   平成24   2012   九帳大学   27   27   2015   28   30   54   平成26   2014   北海道教育大学函館   30   30   54   平成26   2014   北海道教育大学函館   30   30   54   平成26   2014   北海道教育大学   33   56   平成28   2016   四成29   2017   帯広畜産大学   38   58   平成30   2018   北海道教育大学到路   38   49   40   2021   北海道教育大学到路   38   49   40   2022   北海道教育大学机明   10   60   令和3   2021   北海道体育学会 (ホテルライフォート札幌)   10   61   令和4   2022   東海大学社幌キャンパス   20   62   令和5   2023   藤女子大学   20   20   20   20   20   20   20   2	33	亚.成5	1003	14 昆学周十学	21
35       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学月泉沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       17         43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学釧路       25         47       平成18       2006       北海道教育大学剔路       25         48       平成20       2008       北海道教育大学局別       27         49       平成21       2009       北海道教育大学周沢       27         49       平成22       2010       北海道教育大学周川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学周川       30 <td< td=""><td>35       平成8       1996       北海道教育大学札幌       26         36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学岩見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学網路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学網路       25         47       平成18       2006       北海道教育大学規則       25         48       平成20       2008       北海道教育大学規則       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学出別       27         49       平成23       2011       北海道教育大学出別       27         5</td><th></th><td></td><td></td><td></td><td></td></td<>	35       平成8       1996       北海道教育大学札幌       26         36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学岩見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学網路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学網路       25         47       平成18       2006       北海道教育大学規則       25         48       平成20       2008       北海道教育大学規則       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学出別       27         49       平成23       2011       北海道教育大学出別       27         5					
35       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学月泉沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       17         43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学釧路       25         47       平成18       2006       北海道教育大学剔路       25         48       平成20       2008       北海道教育大学局別       27         49       平成21       2009       北海道教育大学周沢       27         49       平成22       2010       北海道教育大学周川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学周川       30 <td< td=""><td>35       平成8       1996       北海道教育大学札幌       26         36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学岩見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学網路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学網路       25         47       平成18       2006       北海道教育大学規則       25         48       平成20       2008       北海道教育大学規則       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学出別       27         49       平成23       2011       北海道教育大学出別       27         5</td><th>34</th><td>半成6</td><td>1994</td><td>小樽商科大学</td><td>22</td></td<>	35       平成8       1996       北海道教育大学札幌       26         36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学岩見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学網路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学網路       25         47       平成18       2006       北海道教育大学規則       25         48       平成20       2008       北海道教育大学規則       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学出別       27         49       平成23       2011       北海道教育大学出別       27         5	34	半成6	1994	小樽商科大学	22
36       平成8       1996       北海道教育大学旭川       32         37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学岩見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道大学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学制       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学相見       25         49       平成21       2009       北海道教育大学制       25         49       平成21       2009       北月工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学周別       33         51       平成23       2011       北海道教育大学園館       30	36 平成8 1996 北海道教育大学旭川 32 37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学担沢 19 39 平成11 1999 北海道大学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 16 42 平成16 2003 士別市 13 44 平成16 2004 北海道大学 23 45 平成17 2005 北海道教育大学釧路 25 46 平成18 2006 北海道東大学 48 平成20 2008 北海道東大学 29 48 平成20 2008 北海道教育大学制路 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学周別 27 49 平成21 2009 北海道教育大学担川 33 52 平成22 2010 北海道教育大学旭川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学旭川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学随前 30 54 平成26 2014 北海道教育大学函館 30 55 平成27 2015 名帝市立大学 30 56 平成28 2016 酪農学園大学 30 57 平成29 2017 帯広畜産大学 30 58 平成27 2015 名帝市立大学 30 56 平成28 2016 酪農学園大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 平成20 2018 北海道教育大学月路 30 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 平成20 2018 北海道教育大学月路 38 平成30 2018 北海道教育大学月路 38 平成30 2018 北海道教育大学月路 38 平成30 2018 北海道教育大学利路 38 平成30 2018 北海道教育大学利路 38 平成30 2018 北海道を療大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道教育大学利路 38 平成30 2018 北海道を療大学 29 59 令和元 2020 オンライン開催(北海道教育大学札幌) 10 60 令和3 2021 北海道体育学会(ホテルライフォート札幌) 19 61 令和4 2022 東海大学札幌キャンパス 20 藤女子大学	35	亚武7	1005		26
37       平成9       1997       札幌医科大学       25         38       平成10       1998       北海道教育大学岩見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道美育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学副縣       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学規則       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学園館       30         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         5	37 平成9 1997 札幌医科大学 25 38 平成10 1998 北海道教育大学月泉沢 19 39 平成11 1999 北海道大学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 17 43 平成15 2003 土別市 13 44 平成16 2004 北海道教育大学側路 25 45 平成17 2005 北海道教育大学側路 25 46 平成18 2006 北海道東市大学札幌 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学月泉沢 27 49 平成21 2009 北海道教育大学月泉沢 27 49 平成21 2009 北海道教育大学月 33 50 平成22 2010 北海道教育大学旭川 33 51 平成23 2011 北海道教育大学旭川 33 52 平成24 2012 札幌大学 27 53 平成25 2013 北海道教育大学随館 30 54 平成26 2014 北海道教育大学随館 30 55 平成27 2015 名帝市立大学 30 56 平成28 2016 磨農学園大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道教育大学月路 38 59 合和元 2019 北海道教育大学月路 38 59 合和元 2019 北海道教育大学月路 38 59 合和元 2019 北海道教育大学規順 38 59 合和元 2019 北海道教育大学月 39 50 平成28 2016 磨農学園大学 29 51 平成29 2017 帯広畜産大学 38 52 平成29 2017 帯広畜産大学 38 53 平成30 2018 北海道教育大学別路 38 54 中成20 2018 北海道教育大学別路 38 55 平成30 2018 北海道教育大学別路 38 56 平成30 2018 北海道教育大学別路 38 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道教育大学規幌) 10 60 合和3 2021 北海道体育学会 (ホテルライフォート札幌) 19 61 合和4 2022 東海大学札幌キャンパス 20 62 令和5 2023 藤女子大学 20					
38       平成10       1998       北海道教育大学岩見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北月工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学周川       33         51       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学國館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学國館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33	38 平成10 1998 北海道教育大学岩見沢 19 39 平成11 1999 北海道大学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 17 43 平成15 2003 士別市 13 44 平成16 2004 北海道美井学園大学 23 45 平成17 2005 北海道教育大学組略 25 46 平成18 2006 北海道教育大学組 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学岩見沢 27 49 平成21 2009 北海道大学 18 50 平成22 2010 北海道大学 33 51 平成23 2011 北海道教育大学旭川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学園館 30 54 平成25 2013 北海道教育大学園館 30 54 平成26 2014 北海道教育大学函館 30 55 平成27 2015 名帝市立大学 33 56 平成28 2016 酪農学園大学 39 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 59 合和元 2019 北海道を済大学利路 38 59 合和元 2019 北海道を済大学利略 38 59 合和2 2020 オンライン開催(北海道教育大学札幌) 10 60 合和3 2021 北海道体育学会(ホテルライフォート札幌) 19 61 合和4 2022 東海大学札幌キャンパス 20 62 合和5 2023 藤女子大学 20	36	半成8	1996	北海道教育大学旭川	32
38       平成10       1998       北海道教育大学岩見沢       19         39       平成11       1999       北海道大学       19         40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北月工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学周川       33         51       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学國館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学國館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33	38 平成10 1998 北海道教育大学岩見沢 19 39 平成11 1999 北海道大学 19 40 平成12 2000 國學院短期大学 22 41 平成13 2001 北海道大学 16 42 平成14 2002 北海道大学 17 43 平成15 2003 士別市 13 44 平成16 2004 北海道美井学園大学 23 45 平成17 2005 北海道教育大学組略 25 46 平成18 2006 北海道教育大学組 25 47 平成19 2007 苫小牧工業高等専門学校 29 48 平成20 2008 北海道教育大学岩見沢 27 49 平成21 2009 北海道大学 18 50 平成22 2010 北海道大学 33 51 平成23 2011 北海道教育大学旭川 33 52 平成24 2012 北海道教育大学園館 30 54 平成25 2013 北海道教育大学園館 30 54 平成26 2014 北海道教育大学函館 30 55 平成27 2015 名帝市立大学 33 56 平成28 2016 酪農学園大学 39 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 57 平成29 2017 帯広畜産大学 38 58 平成30 2018 北海道を済大学 29 59 合和元 2019 北海道を済大学利路 38 59 合和元 2019 北海道を済大学利略 38 59 合和2 2020 オンライン開催(北海道教育大学札幌) 10 60 合和3 2021 北海道体育学会(ホテルライフォート札幌) 19 61 合和4 2022 東海大学札幌キャンパス 20 62 合和5 2023 藤女子大学 20	37	亚.武0	1007	<b>划 棍库私大学</b>	25
39     平成11     1999     北海道大学     19       40     平成12     2000     國學院短期大学     22       41     平成13     2001     北海道大学     16       42     平成14     2002     北海道工業大学     17       43     平成15     2003     士別市     13       44     平成16     2004     北海道浅井学園大学     23       45     平成17     2005     北海道教育大学釧路     25       46     平成18     2006     北海道東海大学札幌     25       47     平成19     2007     苫小牧工業高等専門学校     29       48     平成20     2008     北海道教育大学岩見沢     27       49     平成21     2009     北月工業大学     18       50     平成22     2010     北海道教育大学周川     33       51     平成23     2011     北海道教育大学旭川     33       52     平成24     2012     北海道教育大学函館     30       54     平成25     2013     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海道教育大学     33       56     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018	39   平成11   1999   北海道大学   19   40   平成12   2000   國學院短期大学   22   21   41   平成13   2001   北海道大学   16   42   平成14   2002   北海道工業大学   17   17   43   平成15   2003   土別市   13   13   14   平成16   2004   北海道浅井学園大学   23   25   25   25   26   25   26   26   20   20   20   20   20   20					
40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学長見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33 <t< td=""><td>40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道工業大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学机幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学 33         54       平成24       2013       北海道教育大学 33         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28&lt;</td><th></th><td></td><td></td><td>北海迫教育大字岩見沢</td><td>19</td></t<>	40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道工業大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学机幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学 33         54       平成24       2013       北海道教育大学 33         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28<				北海迫教育大字岩見沢	19
40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学長見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33 <t< td=""><td>40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道工業大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学机幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学 33         54       平成24       2013       北海道教育大学 33         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28&lt;</td><th>30</th><td>亚成11</td><td>1999</td><td><b>北海道大学</b></td><td>19</td></t<>	40       平成12       2000       國學院短期大学       22         41       平成13       2001       北海道工業大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道教育大学机幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学 33         54       平成24       2013       北海道教育大学 33         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28<	30	亚成11	1999	<b>北海道大学</b>	19
41       平成13       2001       北海道大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学國館       30         55       平成27       2015       名南市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         5	41       平成13       2001       北海道工業大学       16         42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道大学園大学       23         45       平成17       2005       北海道東大学組幌       25         46       平成18       2006       北海道東大学札幌       25         47       平成18       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成21       2009       北東道教育大学担別       33         51       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学随館       30         54       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教学大学       29         57       平成27       2015       名寄市立大学       38         58       平成28       2016       酪農学園大学       29					
42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         <	42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成21       2009       北馬道大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       27         53       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学函館       30         54       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38	40	平成12	2000	國學院短期大字	22
42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道教育大学旭川       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         <	42       平成14       2002       北海道工業大学       17         43       平成15       2003       土別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成20       2008       北海道教育大学見沢       27         49       平成21       2009       北馬道大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       27         53       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       北海道教育大学函館       30         54       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38	41	亚成13	2001	<b>北海道大学</b>	16
43       平成15       2003       士別市       13         44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学局別       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         58       平成30       2018       北海道医療大学       26	43     平成15     2003     士別市     13       44     平成16     2004     北海道浅井学園大学     23       45     平成17     2005     北海道教育大学釧路     25       46     平成18     2006     北海道東海大学札幌     25       47     平成19     2007     苫小牧工業高等専門学校     29       48     平成20     2008     北海道教育大学見沢     27       49     平成21     2009     北見工業大学     18       50     平成21     2009     北海道大学     33       51     平成22     2010     北海道大学     33       51     平成23     2011     北海道教育大学旭川     33       52     平成24     2012     北峡大学     27       53     平成25     2013     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海道教育大学函館     30       55     平成27     2015     名害市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     26       59     令和元     2019     北海道医療大学     26       59     令和元     2019     北海道教育大学組     10       60     令和3     2021					
44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成24       2012       北海道教育大学随館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名高市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         58       平成30       2018       北海道医療大学       26	44平成162004北海道浅井学園大学2345平成172005北海道教育大学釧路2546平成182006北海道東海大学札幌2547平成192007苫小牧工業高等専門学校2948平成202008北海道教育大学岩見沢2749平成212009北見工業大学1850平成222010北海道大学3351平成232011北海道教育大学旭川3352平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海道教育大学3055平成272015名高市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道を療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	42	平成14	2002	北海迫上莱大字	17
44       平成16       2004       北海道浅井学園大学       23         45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成24       2012       北海道教育大学随館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名高市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         58       平成30       2018       北海道医療大学       26	44平成162004北海道浅井学園大学2345平成172005北海道教育大学釧路2546平成182006北海道東海大学札幌2547平成192007苫小牧工業高等専門学校2948平成202008北海道教育大学岩見沢2749平成212009北見工業大学1850平成222010北海道大学3351平成232011北海道教育大学旭川3352平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海道教育大学3055平成272015名高市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道を療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	43	平成15	2003	十別市	13
45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         58       平成30       2018       北海道医療大学       26	45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学启見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       26         59       令和元       2019       北海道医療大学釧路       38         特別       令和2       2020       オンライン開催(北海道教育大学規則       10         60       令和3       2021       北海道教育大学規則       19         61       令和4       2022       東海大学札幌キャンパス       20				7	
45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         58       平成30       2018       北海道医療大学       26	45       平成17       2005       北海道教育大学釧路       25         46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学启見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       26         59       令和元       2019       北海道医療大学釧路       38         特別       令和2       2020       オンライン開催(北海道教育大学規則       10         60       令和3       2021       北海道教育大学規則       19         61       令和4       2022       東海大学札幌キャンパス       20	44	半成16	2004	北海迫浅开字園大字	23
46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         58       平成30       2018       北海道医療大学       26	46       平成18       2006       北海道東海大学札幌       25         47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       26         59       令和元       2019       北海道教育大学釧路       38         特別       令和2       2020       オンライン開催(北海道教育大学札幌)       10         60       令和3       2021       北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)       19         61       令和4       2022       東海大学札幌キャンパス       20         62       令和5       2023       藤女子大学       20 <th>45</th> <td></td> <td>2005</td> <td></td> <td></td>	45		2005		
47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海学園大学       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         58       平成30       2018       北海道医療大学       26	47平成192007苫小牧工業高等専門学校2948平成202008北海道教育大学岩見沢2749平成212009北見工業大学1850平成222010北海道大学3351平成232011北海道教育大学旭川3352平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
47       平成19       2007       苫小牧工業高等専門学校       29         48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海学園大学       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         58       平成30       2018       北海道医療大学       26	47平成192007苫小牧工業高等専門学校2948平成202008北海道教育大学岩見沢2749平成212009北見工業大学1850平成222010北海道大学3351平成232011北海道教育大学旭川3352平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海道教育大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20		. , , , .	2006	北海追果海天字礼幌	
48       平成20       2008       北海道教育大学岩見沢       27         49       平成21       2009       北見工業大学       18         50       平成22       2010       北海道大学       33         51       平成23       2011       北海道教育大学旭川       33         52       平成24       2012       札幌大学       27         53       平成25       2013       北海道教育大学函館       30         54       平成26       2014       北海道教育大学函館       30         55       平成27       2015       名寄市立大学       33         56       平成28       2016       酪農学園大学       29         57       平成29       2017       帯広畜産大学       38         58       平成30       2018       北海道医療大学       26	48平成202008北海道教育大学岩見沢2749平成212009北見工業大学1850平成222010北海道大学3351平成232011北海道教育大学旭川3352平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海道教育大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	47	平成19	2007	苫小牧工業高等専門学校	29
49     平成21     2009     北見工業大学     18       50     平成22     2010     北海道大学     33       51     平成23     2011     北海道教育大学旭川     33       52     平成24     2012     札幌大学     27       53     平成25     2013     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海学園大学     30       55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	49平成212009北見工業大学1850平成222010北海道大学3351平成232011北海道教育大学旭川3352平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
50     平成22     2010     北海道大学     33       51     平成23     2011     北海道教育大学旭川     33       52     平成24     2012     札幌大学     27       53     平成25     2013     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海学園大学     30       55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	50平成222010北海道大学3351平成232011北海道教育大学旭川3352平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
50     平成22     2010     北海道大学     33       51     平成23     2011     北海道教育大学旭川     33       52     平成24     2012     札幌大学     27       53     平成25     2013     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海学園大学     30       55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	50平成222010北海道大学3351平成232011北海道教育大学旭川3352平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	49	平成21	2009	北見工業大学	18
51     平成23     2011     北海道教育大学旭川     33       52     平成24     2012     札幌大学     27       53     平成25     2013     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海学園大学     30       55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	51平成232011北海道教育大学旭川3352平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
52     平成24     2012     札幌大学     27       53     平成25     2013     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海学園大学     30       55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	52平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
52     平成24     2012     札幌大学     27       53     平成25     2013     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海学園大学     30       55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	52平成242012札幌大学2753平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	51	平成23	2011	北海道教育大学旭川	33
53     平成25     2013     北海道教育大学函館     30       54     平成26     2014     北海学園大学     30       55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	53平成252013北海道教育大学函館3054平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
54     平成26     2014     北海学園大学     30       55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	54平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
54     平成26     2014     北海学園大学     30       55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	54平成262014北海学園大学3055平成272015名寄市立大学3356平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	53	平成25	2013	北海道教育大学函館	30
55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	55     平成27     2015     名寄市立大学     33       56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26       59     令和元     2019     北海道教育大学釧路     38       特別     令和2     2020     オンライン開催(北海道教育大学札幌)     10       60     令和3     2021     北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)     19       61     令和4     2022     東海大学札幌キャンパス     20       62     令和5     2023     藤女子大学     20					
56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     带広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	56平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
56     平成28     2016     酪農学園大学     29       57     平成29     2017     带広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	56平成282016酪農学園大学2957平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	55	平成27	2015	名寄市立大学	33
57     平成29     2017     帯広畜産大学     38       58     平成30     2018     北海道医療大学     26	57平成292017帯広畜産大学3858平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
58 平成30 2018 北海道医療大学 26	58平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
58 平成30 2018 北海道医療大学 26	58平成302018北海道医療大学2659令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	57	平成29	2017	帯広畜産大学	38
	59令和元2019北海道教育大学釧路38特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
	特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
59   令和元   2019   北海道教育大学釧路	特別令和22020オンライン開催(北海道教育大学札幌)1060令和32021北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	59	令和元	2019	北海道教育大学釧路	38
	60令和32021北海道体育学会 (ホテルライフォート札幌)1961令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
	61令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20					
60   令和3   2021   北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)   19	61令和42022東海大学札幌キャンパス2062令和52023藤女子大学20	60	令和3	2021	北海道体育学会(ホテルライフォート札幌)	19
	62 令和5 2023 藤女子大学 20	00				
			<u></u>	4044		
62   令和5   2023   藤女子大学   20		61				
		61		2023	滕女子大学	20
<u> </u>		61 62	令和5			
C4 A517 000F JUNE 1.34		61		2023 2024	勝女子大学 苫小牧工業高等専門学校	20 27
	C4 A TH7 000F HANDL W	61 62 63	令和5 令和6	2024	苫小牧工業高等専門学校	27
6.4		61 62	令和5			
1 TO	64	61 62 63	令和5 令和6	2024	苫小牧工業高等専門学校	27

## 大会日程

#### 11月28日(金)18:00~ 役員会

## 令和7年度北海道体育学会第64回大会

【第1日目】 11月29日(土)

8:30~ 受付

9:00~ 開会・会長挨拶、当番校事務連絡

9:10~10:10 口頭発表 1(若手研究セッション) @7 号棟 722 教室

10:20~11:20 口頭発表 2(若手研究セッション) @7 号棟 722 教室

11:30~12:30 口頭発表 3(若手研究セッション) @7 号棟 722 教室

12:30~13:30 昼食

13:30~14:30 口頭発表 4(若手研究セッション) @7 号棟 722 教室

14:40~15:20 ポスター発表 @7 号棟 2 階スペース

15:30~16:15 口頭発表 5(一般発表) @7 号棟 722 教室

16:30~17:10 「学会賞」受賞記念講演 @7 号棟 722 教室

17:30~19:00 情報交換会 北翔大学PAL4階

【第2日目】 11月30日(日)

8:30~ 受付

9:00~10:00 口頭発表 6 (一般発表) @7 号棟 722 教室

10:10~11:40 シンポジウム @7 号棟 722 教室

「体育という言葉をめぐる社会の変化と学会の役割」

11:50~12:30 「若手研究者賞」授賞式・総会 @7 号棟 722 教室

12:30 閉会

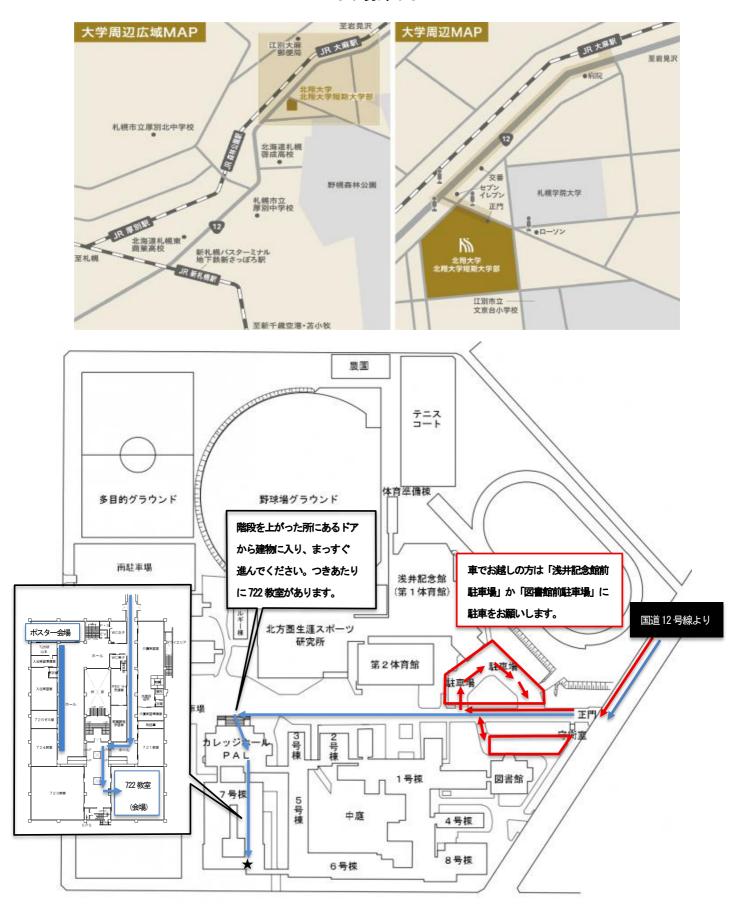
会場:北翔大学(江別市文京台23番地)

電話:011-386-8011(代表)(大会担当:小田史郎)

主催:北海道体育学会

主管:北翔大学

## 会場案内



## ○お車でお越しの場合

国道 12 号線の角にセブンイレブンがある交差点を曲がってください。 上図をご参照の上,正門よりご入校ください(赤で示した浅井記念館前駐車場か図書館前駐車場に駐車ください。

## ○公共交通機関をご利用の場合

JR 大麻駅から 徒歩 15 分

JR 新札幌駅のバスターミナル(北レーン 10番・12番のりば)から乗車し、「北翔大学前・札学院大前」で下車(所要時間10分、下車後3分)

## ○タクシーをご利用の場合

JR 大麻駅から約5分

JR 新札幌駅から約10分

#### \*宿泊について

宿泊等の斡旋、紹介はいたしておりません、恐れ入りますが、各自でご手配ください、

## 参加者へのお願い

1. 予稿集は、大会ホームページからのダウンロード版となりました、大会当日も配布いたしませんので、ご了承ください.



## \*ネームプレートをお忘れなく!

- 2. 大会受付について
  - (1) 会員章: <u>ネームプレートをご持参ください</u>. 受付(玄関ホール)で名刺サイズの用紙を配布しますので、 各自で所属機関と氏名を記入し、会場ではネームプレートをお付けください.
  - (2) 参加費:大会参加費は以下の通りです。当日参加の場合は、受付でお支払い願います。

事	項	事前振込参加費 ( <b>11 月 9 日</b> (日) <b>まで</b> )	当日参加費
	正会員・名誉会員	3,000 円	4,000 円
上人名加弗	学生会員	2,000 円	3,000 円
大会参加費	非会員(一般)	4,000 円	5,000 円
	非会員(学生)	3,000 円	4,000 円
弁当代(飲み物付)	全員 ※希望者のみ	1,000 円	
	一般 ※希望者のみ	5,000 円	_
情報交換会参加費	学生 ※希望者のみ	3,000 円	_
シンポジウムの	のみの参加費	無料	

#### 3. 発表者の方へ

- (1) 口頭発表の発表者は、各発表セッションの開始前までに発表用データを会場備え付けのパソコンに コピーし、動作確認を行ってください. また、ポスターの貼付は <u>11 月 29 日(土)の 13:00</u>まで に行ってください.
- (2) 発表者で別途資料の配布を希望される方は、当日会場受付に提出してください.配布資料の数は参加者数によりますので、発表者でご判断ください(80 部程度).

#### (3) 口頭発表

- ① 口頭発表の会場は、7号棟722教室です。
- ② 発表は会場に備え付けのPCプロジェクタ及びパソコン(Windows 11 Home)を使用してください. プレゼン用ソフトはPowerPoint 2019,動画ソフトはMedia Playerです.発表用データはUSBメモリーでご用意の上,事前に会場のパソコンで動作確認を行ってください. ※パソコンを持ち込んでの利用(HDMI・VGA接続)も可能ですが,動作保証は致しかねますので,動作確認の上,各自でご対応をお願いします.
  - <u>※動画を使って発表される方へ</u>:動画に関しては不具合を生じる可能性がありますので、念のため動作確認済みのパソコンをご持参ください。
  - ※MAC を使用する方は、PC と HDMI・VGA 変換ケーブルをご持参ください.
- ③ 操作は発表者が行ってください.
- ④ <u>1 演題につき発表 10 分間, 質疑応答 3 分間</u>です. 第 1 鈴は発表終了 2 分前, 第 2 鈴は発表終了, 第 3 鈴は全体終了の合図です. プログラム進行上, 時間厳守にご協力願います.
- ⑤ 発表者は当該発表時間の5分前までには次演者席でお待ちください.

#### (4) ポスター発表

- ① ポスター発表会場は、7号棟2階スペースです。
- ② ポスターのサイズは、縦 140cm、横 90cm です.
- ③ パネルの左上に演題番号を貼りますので、所定のパネルにポスターを貼付してください.
- ④ 発表者は11月30日(土) 14:40~15:20の間, ポスター前で待機してください.
- ⑤ <u>1 演題につき 3 分間の発表時間</u>を設けます. 発表者全員の発表が終わった後, 発表者は参加者 とのディスカッションを行っていただければ幸いです.
- ⑥ ポスターはセッション終了後に撤去してください.

#### 4. その他

- (1) 大会当日,学生食堂は営業していません。各自昼食を持参されるか,近隣のコンビニエンスストア 等をご利用ください。事前にお弁当を注文された方は、12 時 30 分以降に、受付にてお弁当を受け 取りください。
- (2) 学校内は、全面禁煙となっておりますので、ご協力よろしくお願いします。
- (3) 大会期間中、学会役員によって撮影された写真が学会ニュースレター及びホームページ等で公開されることがあります。掲載を拒否される場合、大会当日に学会役員へ申し出てください。

#### <プログラム1日目>

#### 11月29日 受付 8:30~

口頭発表1(発表10分 質疑応答3分)

会場:7号棟722教室

\*:若手研究者発表

	会長挨拶	・当番校事務連絡		9:00-9:10	
座長:	小田史郎	(北翔大学)		9:10-10:10	
9:10	1-1	大学生における人間関係形成の要因について - へき地・小規模出身大学生における孤独感に着目して -	阿部 遥介	北翔大学 (学部生)	*
9:25	1-2	鬼ごっこを用いたウォームアップが心理的準備度およびバスケットボールにおける『空間 に走り込む動き』に及ぼす影響	井戸 優希	北海道教育大学教職大学院	*
9:40	1-3	幼稚園・保育園におけるエアロビックの導入が幼児および保育者に与える影響	四十物谷 鷹翔	北翔大学 (学部生)	*
9:55	1-4	選択制長距離走授業の実践が態度および身体感覚に及ぼす影響	赤沼 志龍	北海道教育大学教職大学院	*

#### 口頭発表2(発表10分 質疑応答3分)

会場:7号棟722教室

座長:	木本理可	(藤女子大学)			10:20-11:20	
10:20	2-1	初等体育科における表現運動の実践的教材開発:国語科の物語教材との接続	大杉	康平	北海道大学大学院教育学院	*
10:35	2-2	カ感メーターと効果音の付加が示範映像の提示による鉄棒運動の前方支持回転の学習に 与える効果	大西	凌嘉	北海道教育大学旭川校(学部生)	*
10:50	2-3	中学生の柔軟性を高めるための準備運動の研究 ーエアロビックステップを中心としたプログラムの考察ー	水野	和晃	北翔大学 (学部生)	*
11:05	2-4	女性アスリートへの<まなざし>をめぐる力学的構造	諸橋	壮至	北海道教育大学教職大学院	*

### 口頭発表3(発表10分 質疑応答3分)

会場:7号棟722教室

,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,								
座長:	福家健宗	(北海道医療大学)			11:30-12:30			
11:30	3-1	カフェイン摂取を伴う Post-activation Performance Enhancement が 高強度運動パフォーマンスに及ぼす影響	小笠原	1 大翔	北海道教育大学旭川校(学部生)	*		
11:45	3-2	カフェイン摂取がサッカーゲーム時のパフォーマンスに及ぼす影響 ーポジション別の検討—	西川	佳弥	北海道教育大学旭川校 (学部生)	*		
12:00	3-3	カフェイン摂取が高強度間欠的運動後の血圧応答に及ぼす影響	野崎	虎大郎	北海道教育大学旭川校 (学部生)	*		
12:15	3-4	運動30分前以降の糖質溶液の分割摂取が運動誘発性低血糖に及ぼす影響	吉本	香乃	酪農学園大学大学院	*		
		昼食			12:30-13:30			

### 口頭発表4(発表10分 質疑応答3分)

会場:7号棟722教室

座長:	多賀健(	苫小牧工業高等専門学校)			13:30-14:30	
13:30	4-1	テニスのダブルス試合における会話内容とペア内の凝集性がパフォーマンスに及ぼす影響	風間	詩悠那	北海道大学大学院文学院	*
13:45	4-2	表情の意図的な操作が運動パフォーマンスに及ぼす影響	虻川	健太郎	北海道教育大学旭川校 (学部生)	*
14:00	4-3	起床時刻を揃えることが睡眠及びメンタルヘルスに及ぼす影響 一大学生アスリートを対象として一	井上	快星	北翔大学大学院	*
14:15	4-4	日本のバラスポーツにおける障がい者と健常者をめぐる論争に関する研究	陳	真	鹿屋体育大学大学院	*

### ポスター発表 (発表3分)

会場:7号棟2階スペース

		7021 (7021 - 737		
座長:	山口太一	(酪農学園大学)		14:40-15:20
	P-1	学校の体育授業における「楽しさ」の本質と形骸化について考える - 運動の「面白さ」を子どもたちにとっての「楽しさ」へ-	清野 宏樹	桃山学院大学
	P-2	単元まるごと構想による体育理論の授業展開~中学校第2学年における実践から~	水嶋 星陽	北海道教育大学附属旭川中学校
	P-3	小学校低学年における「宝運び鬼」の教材開発と学びの変容 一 自己決定・関係形成・意味拡張の三視点による検討 一	林 裕輔	北海道教育大学附属旭川小学校
	P-4	北海道における大学野球連盟の組織改革について ーその成立過程と現状調査からー	阿部 卓哉	北翔大学 (学部生)
	P-5	ヒト下肢帯6筋の肉眼解剖学的解析	小松 敏彦	心・軆・智研究所
	P-6	幼児における「走って遠くへ跳ぶ」能力の実態と動作評価 - 小学生の走り幅跳び動作評価観点を応用して -	鈴木 沙弥	北翔大学 (学部生)
	P-7	幼児における「走って遠くへ跳ぶ」能力の横断的発達 - 小学生の走り幅跳び動作評価観点を応用して -	木戸 すず	北翔大学 (学部生)
	P-8	グルーヴリズム運動による認知機能向上効果を単回のリズム運動練習で高められるか	福家健宗	北海道医療大学

### 11月29日 口頭発表5(発表10分 質疑応答3分)

座長:	中島寿宏	(北海道教育大学札幌校)			15:30-16:15	
15:30	5-1	中学校ダンス授業における課題発見力の向上を目指した授業実践の試み	_	樹菜	月形町立月形中学校	
15.50	2-1	リズム系ダンスの技能評価観点構造図を活用して	7	倒米	鹿屋体育大学大学院	
15:45	5-2	中学校ゴール型ゲームにおける非ボール保持の動きの習得を目指した指導実践	÷-	降太郎	<b>噟柄町立噟柄中学校</b>	
15.45	5-2	―3つの間(空間・人間・瞬間)の意識づけを通して―	西口	座人即	鳥恆可立鳥恆中子仅	
16:00	E 2	カフェイン摂取が寒冷環境下における高強度運動時のパフォーマンスおよび呼吸代謝応答	⊥ 14%	康平	北海道教育大学旭川校	
16.00	5-3	に及ぼす影響一常温環境との比較一	工価	承十	北海坦敦有八子旭川仪	

会場:7号棟722教室

	学会賞受賞記念講演	会場:7号棟722教室
テーマ	北海道で歩んだスポーツ心理学研究と実践	16:30-17:10
講演者	蓑内豊(北星学園大学)	
	情報交換会(懇親会)	17:30-19:00
	北翔大学PAL 4 階	

#### <プログラム2日目>

## 11月30日 受付 8:30~

	口頭発表	会場:7号棟722教室		
座長:	瀧澤一騎	(身体開発研究機構)		9:00-10:00
9:00	6-1	運動会の意義を問い直すー楽しさの構造分析から見える再構築の方向性-	加藤 享	北海道教育大学附属旭川小学校
9:15	6-2	バスケットボールにおける子どもたちの学びの<アクチュアリティ>	森 博隆	釧路町立遠矢小学校
9:30	6-3	"できない"の解釈に関する地平分析的考察	山本 悟	北海道教育大学釧路校
9:45	6-4	部活動における「負担」の構造	関 朋昭	鹿屋体育大学

シンポジウム 会場:7号棟722教室

テーマ	体育という言葉をめぐる社会の変化と学会の役割	10:10-11:40
講演者	來田享子(らいた きょうこ)(中京大学副学長、スポーツ科学部教授) ※オンラインでのご発表となり	ます
	石澤伸弘(北海道教育大学札幌校)北海道体育学会会長	
367-63800	川西正志(北翔大学)日本体育・スポーツ・健康学会第 76 回大会ディレクター 永谷稔(北翔大学)北海道体育学会理事長	
	若手研究者賞授賞式 & 総会	11:50-12:30

北海道体育学会賞 授与式・受賞記念講演 (11月29日)

## 令和7年度北海道体育学会賞受賞者

## 北星学園大学

## 蓑内 豊 氏

北海道体育学会賞授与式・受賞記念講演 令和7年11月29日 16:30~授与式 16:40~受賞記念講演

#### ■北海道体育学会賞受賞対象論文

- 1. レクリエーション活動の心理的効果-低強度の身体活動が感情の変化に及ぼす影響-蓑内豊, 北海道体育学研究 59 巻, pp. 33-38, 2024 年.
- 2. 北海道代表少年選手における心理的競技能力に関連する要因の検討-学年、競技特性、 競技成績、メンタルトレーニングとの関係-,<u>養内豊</u>,佐川正人,平間康允,北海道 体育学研究 56 巻,pp. 33-39, 2021 年.
- 3. 心理的競技能力の経年変化について-日本の一流スキージャンプ選手の場合-, <u>養内</u> 豊, 佐々木敏, 角田和彦, 星野宏司, 北海道体育学研究 42 巻, pp. 17-24, 2007 年.
- 4. 高齢者運動教室参加者の体力、身体的自己概念、自尊感情の関係,<u>養内豊</u>,星野宏司, 北海道体育学研究 41 巻,pp. 1-8,2006 年.
- 5. スキージャンプ選手における心理的競技能力の特性について,<u>養内豊</u>,佐々木敏,角田和彦,内田英二,上村浩信,北海道体育学研究 32 巻,pp. 9-15, 1997 年.
- 6. スキージャンプ選手のピークパフォーマンス状態について,<u>養内豊</u>,佐々木敏,角田和彦,内田英二,上村浩信,吉村功,北海道体育学研究30巻,pp.71-76,1995年.

## 北海道で歩んだスポーツ心理学研究と実践

蓑内 豊(北星学園大学)

このたびは、栄誉ある北海道体育学会賞を賜り、誠にありがとうございます。まずは、長年にわたり私の研究・教育活動をご指導くださった先生方、共に歩んでくださった共同研究者の皆様、そして数多くの調査や実践活動にご協力いただいた選手・指導者の皆様、調査・実験に協力をしていただいた皆様に、心より感謝を申し上げます。私一人の努力では到底たどり着けなかった成果であり、この賞は私に関わってくださった多くの方々と共にいただいたものだと感じております。

北海道体育学会賞をいただくことは、私の研究生活を通じての大きな目標の一つでした。振り返りますと、私の論文が初めて『北海道体育学研究』に掲載されたのは1995年のことでした。それからおよそ30年が経ち、このような形でご評価をいただけることは、大変大きな喜びであり、また今後の研究活動に向けた大きな励みとなっております。

私はもともと、スポーツ心理学の中でも「動機づけ」を主な研究テーマとして、大学院時代には実験室調査や心理テストを中心に研究を進めてきました。しかし、北海道に赴任してからは、専門としていた研究の枠組を越え、スポーツ現場で求められる実践的な心理的支援、いわゆる「メンタルトレーニング」へのニーズに直面しました。その流れの中で、実際の選手やコーチと向き合いながら、競技特性に即した研究と心理サポートを進めるようになりました。その最初の契機となったのが、スキージャンプでした。

1992年か1993年頃、当時の北星女子短期大学の佐々木敏先生がスキージャンプに関する科学的分析やトレーナー活動をされており、そのご縁で私もスキージャンプ選手のメンタルトレーニングや心理的サポートに関わるようになりました。スキージャンプは、数秒という極めて短い時間の中で最大の力を発揮しなければならない競技であり、そのパフォーマンスは「心の状態」に大きく左右されます。現場の指導者や選手の声を聞きながら心理的サポートを続けてきたことは、私自身にとっても貴重な学びとなりました。そしてその活動は30年以上経った今も継続しており、スキージャンプ

をはじめとする冬季競技が盛んな北海道という土地で 研究と実践を重ねられたことに強い意味を感じており ます。

それでは、『北海道体育学研究』に掲載された論文の一端をご紹介いたします。最初の研究は、スキージャンプ選手が最高のパフォーマンスを発揮した時の心理状態を分類する「ピークパフォーマンス分析」を行ったものです。当時の調査対象者には、後に長野オリンピックで金メダルを獲得する選手たちも含まれており、その知見はエリートアスリートの心理状態の把握に大きく寄与しました。その後は、心理的競技能力診断検査(DIPCA)を継続的に実施し、パフォーマンスとの関係や経年的変化などを調査しました。

しかし、心理テストを実施して結果を選手にフィードバックするだけでは十分に還元できないことを痛感するようになり、次第に選手に知識やスキルを教授することにも工夫を重ねるようになりました。そこで取り入れたのが、選手向けの短時間のミニレクチャーです。専門的な内容を長時間講義しても選手には伝わらないので、30分以内で簡潔に要点を伝えることを心がけています。また、心理テストやレクチャーに加えて、選手一人ひとりの理解やニーズを把握するための個別面接も実施するようになりました。現在では「心理テスト」「ミニレクチャー」「個別面接」を組み合わせる形が定着しており、これは研究と実践の両面で得られた知見に基づいたものです。

近年では、他の領域と協力したサポート活動も行うようになりました。こうした活動を振り返ると、研究は決して独立した営みではなく、現場との相互作用や様々な方との協力の中で深められてきたように思います。北海道という地域に根ざし、多くの関係者の皆様と力を合わせてきたからこそ、今日の成果に結びついたのだと思います。

最後になりますが、今回の受賞を新たな出発点として、地域と競技に根ざした研究活動をさらに進めていきたいと考えております。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

# シンポジウム 抄録 (11月30日)

体育という言葉をめぐる社会の変化と学会の役割

シンポジウム

## 「体育という言葉をめぐる社会の変化と学会の役割」

2021 (令和 3) 年に日本体育・スポーツ・健康学会へと名称が変更となりました. 改正の要点としては、教育の範疇に位置づく"体育"や"体育学"という名辞によって会員の研究の全体像をカバーしきれなくなっていること、会員の研究とその交流を喚起・促進し、研究成果を統合する本学会のアイデンティティ(社会的存在目的)は、スポーツや身体活動を通じた"望ましい社会"への貢献にあること、そして、わが国の学術体系における体育・スポーツ関連分野の位置づけが変化したことと理解しております。

また、近年、会社名や用語のカタカナ化、英語表記化がすすみ、グローバル化への対応、専門分野でのカタカナ語の共通言語化がすすんでいます。その要因には、見た目のスタイリッシュさなどイメージ向上やデザイン性を持たせるなど、それぞれの目的や意図が存在しています。体育やスポーツにおいても同様ですが、ご存じのとおり、体育の英訳は Physical Education であり、Sports ではありません。日本体育・スポーツ・健康学会は、これまでの日本体育学会にスポーツと健康を併記するかたちを取りました。一方、地域協力学会である都道府県の体育学会は、21 学会中6つにスポーツの名称が併記され変更されています。

こうした,各学会での検討経緯を踏まえつつ,体育という言葉をめぐる社会の変化と「北海道体育学会」の役割について,議論を展開していきます.

#### 來田 享子 (らいた きょうこ) 先生 ※オンラインでのご発表となります



中京大学副学長、スポーツ科学部教授.神戸大学教育学部卒業・教育学研究科修了(教育学修士).中京大学大学院体育学研究科博士後期課程修了(博士(体育学)).「オリンピックは時代と社会の変化の中で、人権の拡大に影響を与えることができたのか」を問題関心の中心に据え、オリンピック史、スポーツとジェンダー研究に携わってきた。(一社)日本体育・スポーツ・健康学会会長、日本スポーツとジェンダー学会会長、(公財)日本オリンピック委員会理事、(公財)日本陸上競技連盟常務理事等を務める.

#### 石澤 伸弘(いしざわ のぶひろ)先生



北海道教育大学札幌校教授,教員養成課程にて保健体育教員を養成している. 鹿屋体育大学,同大学院,神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期過程修了. 神戸流通科学大学,北翔大学を経て 2011 年より現職. 専門分野は体育・スポーツ社会学. 北海道体育学会会長,日本体育・スポーツ・健康学会 代議員,日本生涯スポーツ学会 理事などを務める.

川西 正志(北翔大学)指定討論者 日本体育・スポーツ・健康学会第 76 回大会ディレクター 永谷 稔(北翔大学)司会進行 第1日目 抄録 (11月29日)

口頭発表 1~4 ポスター発表 口頭発表 5

## 大学生における人間関係形成の要因について

## - へき地・小規模校出身大学生における孤独感に着目して -

○阿部 遥介 ・ 高宮 魁 ・ 三上 柚季 ・ 今 竜一(北翔大学)

キーワード:社会性, 友人関係

#### 【背景および目的】

現在北海道では、少子化や人口減少に伴った学校の 統廃合に併せ、へき地・小規模校として指定されている 小・中学校が増加傾向にあり、全体の 34.3%を占めて いる.へき地・小規模校は人間関係の固定化に伴い社会 性や向上心が育たない.一方、適正規模校は多様な人間 関係を選択する機会が多いとの報告(玉井, 2023)(田 端ら, 2012)がある.また、大対(2015)は、大学生活 の充実感は友人関係への満足が重要であることを示し ている.しかし、へき地・小規模校における社会性の課 題が大学進学後の人間関係形成や適応にどのように影 響するかは明らかになっていない.

そこで、本研究では、社会性および大学適応と関連の深い、個人の経験や感情の状態を指す「孤独感」に着目した。出身学校規模が及ぼす孤独感への影響を明らかにし、大学適応に困難を抱える学生への支援を資する基礎資料を得ることを目的とする.

#### 【方法】

A大学の学生 660 名(スポーツ系学科 400 名,教育系学科 241 名,福祉系学科 11 名,芸術系学科 6 名,その他 2 名)を対象に 2025 年 7 月の上旬から中旬にかけて調査を行った。調査の際は、書面と口頭で倫理的配慮について説明した後、Microsoft forms を用いて実施した。質問項目は、友人関係の固定化の程度を自己評価するもの(谷ら、2016)と、改訂版 UCLA 孤独感尺度(諸井、1991)20 項目を用いて 4 件法で行い、得られたデータは対応のない t 検定を用いて分析した。

#### 【結果】

t 検定を用いて出身学校規模での孤独感得点の違い を分析した結果(図1)では、人間関係が固定化されて いない学生が孤独感の低い傾向にあった.しかし,小・中・高校が一貫してへき地・小規模校だった学生と,一貫して適正規模校だった学生間での有意差は見られなかった.また,小・中・高の出身規模パターンごとの固定化による孤独感得点の分析でも,全てのパターンで有意差は見られなかった (p<0.05).

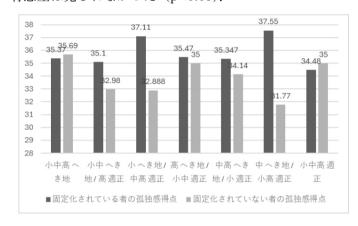


図1 小・中・高の出身規模パターンごとの固定化による孤独感得点

#### 【考察】

本研究では、人間関係が固定化され、社会性が育たないと報告があるへき地・小規模校出身者でも孤独感に有意差はなかった。この結果は、友人の選択の幅ではなく、深さが関係あるのではないか(加賀、2021)という考えに近い。また、自分自身を俯瞰して見ることに長けていないと考えられる。これらの考察から、学生個々の人間関係に求めるものや対人スキルが孤独感に影響を及ぼしている可能性が示唆された。

今後は、人間関係や社会性に課題があると言われているへき地・小規模校出身者で、孤独感が低い人を対象にインタビュー調査を実施して、大学進学時に孤独感を感じずに人間関係を築けた要因について深めていく.

## 鬼ごっこを用いたウォームアップが心理的準備度および

## バスケットボールにおける『空間に走り込む動き』に及ぼす影響

〇井戸 優希 (北海道教育大学教職大学院), 高瀬 淳也 (北海道教育大学), 土橋 康平 (北海道教育大学) キーワード:学校体育、ゴール型球技、鬼遊び、空間活用

#### 【背景】

学校体育において行われている準備運動(ウォームアップ)として、多くの人が号令体操を経験している。これのほとんどは、掛け声とともに一斉に行う形式のものである。号令体操は機械的に行われていることが多く、その後の主運動との関連が全くないことが課題として挙げられる(高嶋.2019)。また、小学校教員に行ったアンケート調査では、32.1%が準備体操のみのウォームアップを行っており、単元や主運動の内容に応じたウォームアップを行っている者は1.8%にとどまったことが報告されている(林.2020)。形式的なウォームアップは主運動へとつながる導入部とならないため、子どもの学習意欲の高まりが見られないことが示唆されている(笹本ら.1997)。

平成 29 年告示の中学校学習指導要領保健体育編の「球技」の中の「ゴール型」では、「ボール操作」の技能とともにボールを持たない「空間に走り込むなどの動き」の習得についても記載されている(文部科学省.2018)。岡田(2013)は「ゴール型ボール運動は『ボールを持たない動き』が大変複雑で、技能の低いものはどのように動いてよいか分からずいわゆる『お客』になってしまうことが多い。」と述べ、動きの習得が容易ではないことを指摘している。この課題を解決するために清水(2017)は、「ボール操作を排除し『相手陣地に侵入する』という課題に焦点化することで、ゴール型の基本的課題を明確にすることができる。」と述べている。

そこで、本研究では中学生の体育授業で導入できるボールを使わない鬼ごっこを用いたウォームアップを考案し、主運動に対する心理的な準備度およびバスケットボールにおける「空間に走り込む動き」の発現に及ぼす影響を検討することを目的とし、予備的検討として大学生を対象に実践を行った。

#### 【方法】

H 大学の健康な男子大学生 7 名および女子大学生 5 名を被験者とし、2025年6月~7月の日程で授業実践を 行った。単元は全5時間とし、作成した4種類の鬼ご っこを含む授業を行った (各 50 分)。1 時間目 (pre) と 5 時間目 (post) に 5 対 5 のゲームを 3 分間行い、その 様子をビデオカメラにて撮影した。1~4 時間目には、 順に「9マス鬼」「25マス鬼」「カラージャンプ鬼」「ジ ャンプスポーツ鬼」をウォームアップで行い、5時間目 は1時間目と同様に「9マス鬼」を行った。各ウォーム アップ後、2時間目には3対2のパスゲーム、3時間目 には3対3のゲーム(ドリブル無し)、4時間目にはド リブル有りのゲームをそれぞれ行った。運動者の心理 面に対するウォームアップの効果を確認するため、鬼 ごっこの前後で二次元気分尺度 (坂入. 2003) を測定し た。また、各授業後には形成的授業評価 (高橋. 1998) を 用いて、学生の主観的な授業評価を記録した。心拍数は 胸部に心拍計センサー (Polar H10, Polar, Finland) を装 着し、授業を通して連続的に測定した。「空間に走りこ む動き」の定義はボール保持者と自分との間に守備者 がいない位置でボールを受けようとすることとし (足 立ら. 2013)、撮影した映像を用いてその発現回数を計測 した。

#### 【結果】

二次元気分尺度の「エネルギー覚醒」(主観的な快適度と覚醒度の指標) は 2、3、5 時間目のウォームアップ後に有意な増加が見られた (all P < 0.05)。「空間に走り込む動き」の発現数は、pre において  $2.5 \pm 1.3$  回、postでは  $3 \pm 0.8$  回となり、授業実践の前後で有意な差は見られなかった (P = 0.64)。

#### 【結論】

鬼ごっこを用いたウォーミングアップは二次元気分 尺度により評価した快適度および覚醒度を向上させ、 主運動に対する学習意欲を向上させる可能性が示唆さ れた。一方で、「空間に走りこむ動き」の発現数は鬼ご っこを用いたウォームアップによって増加しない可能 性が示唆された。

## 幼稚園・保育園におけるエアロビックの導入が幼児および保育者に与える影響

○四十物谷 鷹翔 · 飯野 楓稀 · 今 竜一(北翔大学)

キーワード:運動強度,意識変容,リズム運動,健康行動

#### 【背景および目的】

近年、幼児の運動不足や体力低下が懸念されており、 笹川スポーツ財団 (2023) の調査では、平日に園外かつ 屋内で運動を全くしない幼児は 48.8%と報告されている. 運動時に音楽を聴取することが、情動に良好な変化 をもたらし、パフォーマンスを向上させる可能性があるとの報告 (小島、2023) から、本研究では幼児が音楽に合わせて身体を動かすことのできるエアロビックに着目した. また、平柳ら (1989) は、エアロビックダンストレーニングの効果について分析した結果、運動機能面では敏捷性、柔軟性、平衡性および持久性の向上が見られたと述べ、松岡 (2017) は、エアロビックステップの多くが幼児のリズムダンスに適用できると報告している. しかし、幼児を対象とした報告は数少なく、保育現場へのエアロビックの導入や保育者自身の運動意識への影響については十分に明らかにされていない.

そこで、本研究では、保育現場で効果的にエアロビックを導入するための方向性を示すとともに、幼児期の身体活動の質的向上および幼児教育・保育カリキュラムへの応用の基礎資料を得ることを目的とする.

#### 【方法】

本研究では、X 幼稚園に在籍する幼児 19 名および保育者 20 名を対象に、日本スポーツ協会公認エアロビックコーチおよび日本エアロビック連盟の指導者資格を有する専門家らが考案した幼児向けエアロビックプログラムを実施した。幼児には活動量計(Active style Pro HJA -750C:OMRON 社製)を用いた運動強度の測定に加え、活動後の楽しさや難易度、積極性に関する意識調査を 4 件法で実施した。調査は大学教員および学生らが幼児に口頭で質問を行い、幼児の発達段階から言語での回答が難しいことを考慮し、4 件法を意味するイラストへの指差しで回答を求めた。

保育者には、事前・事後アンケートを通じて自信や 実践意欲、健康意識の変化を調査し、得られたデータ は対応のある t 検定を用いて分析した.

本研究の実施に当たり、研究協力園長をはじめ、幼児の保護者および保育士・幼稚園教諭に対して、書面と口頭で説明を行い、同意を得た.

#### 【結果および考察】

幼児へのアンケートでは、約9割が「エアロビックは楽しかった」と回答し、活動に対して肯定的な印象を持っていた。また、プログラムの習得のしやすさには個人差が見られたものの、8割以上の幼児が「続けたい」と回答しており、エアロビックの実施により継続的な運動意欲を高める可能性が示唆された。

保育者への事前・事後アンケート(図 1)では、自信や実践意欲の項目で有意差が認められ(p < 0.05)、エアロビックの実施が、運動指導やリズム運動指導への自信、実践意欲の向上に寄与する可能性が示唆された。しかし、一部の保育者には不安や課題意識が見られ、自信を持てていないことから、今後は、指導方法や安全面への配慮、支援体制の充実が求められる。

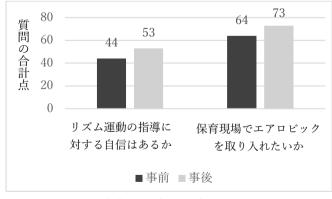


図1 保育者への事前・事後アンケート

本研究で実施したエアロビックプログラムは,幼児にとって運動への楽しさや意欲を喚起する有効な手段であるとともに,保育者にとっても指導意識の向上に寄与する可能性があると考えられる.

今後は保育士・幼稚園教諭を対象にインタビュー調査を実施し、自信や実践意欲、健康意識の変化について考察を深める.

#### 選択制長距離走授業の実践が態度および身体感覚に及ぼす影響

○赤沼 志龍, 板谷 厚, 高瀨 淳也, 土橋 康平 北海道教育大学 キーワード: 動きの変化/心拍可視化/主観的運動強度

#### 【背景】

体育授業における長距離走は生徒に不人気な運動の代表格であり(尾縣. 2016)、その理由として身体的苦痛(吉田. 2017)や、他者との比較による精神的苦痛(澤﨑. 2016)などが挙げられている。それらによって、小学校高学年から長距離走嫌いを感じする子供は増加し、中学校・高等学校とその傾向は継続することが報告されている(森村ら. 2010)。高等学校学習指導要領解説保健体育編(文部科学省. 2018)では「効率のよい動き」と「多様な楽しみ方」の達成を目標としており、生徒が自分に適した走り方を学び、健康や体力の保持増進に生かしていけるような学習設計が求められる。

佐藤ら (2023) は、中学生を対象に多様の楽しみ方から生徒自らが選択する長距離走学習を行ったところ、長距離走に対する態度が改善したことを報告している。しかしながら、このような選択制の長距離走授業が態度変容に及ぼす影響において、高等学校の生徒に効果的であるかは明らかではない。加えて、先行研究を含む多くの授業において、「効率の良い動き」の習得を目標とする授業はあまり行われていない。

そこで、本研究では「多様な楽しみ方」という態度の 変容に加え、「効率の良い動き」の習得を目指して、陸 上競技の知見を活かしたウォームアップを含む選択制長 距離走授業が態度および身体感覚に及ぼす影響を検討す ることを目的とした。

#### 【方法】

北海道 A市に位置する A高等学校 1年生 185名 (男子82名、女子103名)を対象に、2025年8~9月に全4時間で授業を実施した。第1時では本実践のオリエンテーションを行い、長距離走には多様な楽しみ方があること、全力で走らなくても体力が向上すること、それらを選択して学習することを、資料を用いて伝えた。第2~4時では陸上競技で行われているウォームアップを行った後、佐藤ら (2023)を参考に選択制の長距離走実践を15分間行った。コースは目的の異なる四種 (①限界チャレンジ、②じぶん調整、③エンジョイ、④ミニ駅伝)から当日生徒自身で選択させた。限界チャレンジは自己記録の向上や競争を目的とし、じぶん調整は予測最大心拍の60~

70%、エンジョイは会話可能ペースを目安とした。ミニ駅 伝では小グループで周回を交代しながら走る協働形式とした。心拍数はランニングの開始・中間・終了時に手関節の触診法で測定し、主観的運動強度 (RPE) は各選択長距離走終了時に記録した。態度変容は、増田ら (1988) の28項目を5因子 (快適感情・不快的感情・認知的成分・行為傾向・非行為傾向) に分類した尺度を用い、5件法で1時間目開始時 (事前) と第4時間目終了時 (事後) に測定した。毎授業の終わりには振り返りシートとして走行距離・走前/走後の心拍数・RPE・疲労感 (10段階) などを記入した。また、毎授業の終わりには感想や気づきを自由記述し、KH Coder を用いて自由記述を読み込み、テキストから頻出語を確認した上でそれらの語の共起関係を探った。これらの変数や共起ネットワークの変化から身体感覚の変容を評価した。

#### 【結果】

対象185名のうち欠損のない108名を分析対象とした。 快的感情は、選択制の長距離走授業により改善した。一 方、消極的な態度を示す非行為傾向は増加の傾向が見ら れた。その他の因子に授業前後の変化は見られなかった。

#### 【結論】

陸上競技の知見を活かしたウォームアップを含む選択 制長距離授業走は、快適感情を改善させる一方で、非行 為傾向の態度を悪化させてしまう可能性が示唆された。

表 1. 授業前後における態度変容

		事前	事後	P value
快的感情	平均 (点)	13.1	14.6	P < 0.01
	標準偏差	4.6	5.1	
不快的感情	平均 (点)	15.0	14.4	P = 0.11
	標準偏差	3.7	4.1	
認知的成分	平均 (点)	22.7	22.7	P > 0.99
	標準偏差	3.4	4.6	
行為傾向	平均 (点)	16.7	16.9	P = 0.61
	標準偏差	4.8	4.8	
非行為傾向	平均 (点)	11.8	12.6	P = 0.07
	標準偏差	5.0	5.1	

## 初等体育科における表現運動の実践的教材開発:国語科の物語教材との接続

○大杉 康平(北海道大学大学院)

苫米地 里香(札幌国際大学) 近藤 雄大(津山工業高等専門学校) 崎田 嘉寛(北海道大学)

【キーワード】雪わたり、スイミー、小学校高学年、エピソード映像編集、教科等横断的な学習

#### 【はじめに】

初等体育科の表現運動を指導する際の困難さとして、 学習内容の不明瞭さや指導言語の難しさなどが指摘さ れている(寺山、2007)。他方で、表現運動に対して否 定的な印象をもっている児童も少なくない。例えば、筆 者の勤務していた A 小学校では、表現運動に対して 31% (5 年生 65 名中 20 名) が「恥ずかしい」や「苦 手 | などのネガティブなイメージを持っていた。それで は、どのような表現運動の教材であれば指導の困難さ や学習者の苦手意識を軽減できるのだろうか。これま で、初等体育科の表現運動を対象とした実践研究は数 多く蓄積されている。この中で、国語科との接続を企図 した実践では、表現運動への動機づけや学習意欲が向 上する可能性が提示されている(高根、2023;豊永、 2019)。しかし、国語科の既習教材で、かつ物語教材を 対象とした研究は管見の限りない。そこで、本研究では、 体育科の表現運動に国語科の物語教材(既習)を接続さ せて授業を構想し、小学校高学年の体育授業で実践す ることで、その有用性を検討することを目的とした。

#### 【研究方法】

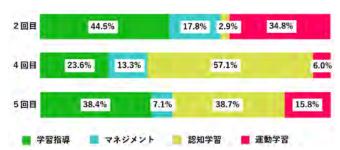
A小学校第5学年(78名)を対象に、2025年1~2月にかけて、表現運動の授業(全5回、45分/回)を実施した。単元計画の概略(目標、主な学習活動)を表に示す。授業は、小学校教員歴2年(中高保健体育教免有)の男性(20代)とTT(最大4名)で担当した。

	授業目標	主な学習活動	観点		
-	12 * 11 15	工:6 于自归勤		思	態
1	ガイダンス	激しい感じの題材、創作した物語の表現	0	0	0
2 グループで表	グループで表現する	群が生きる題材(チームスポーツの攻防)、	0	0	
	グルーグで表現する	国語「スイミー」をグループで表現			Ľ
3	難しいテーマを表現する	校歌(A小学校)の表現	0	0	0
4	国語の物語を表現する	国語「雪わたり」をグループで表現	0	0	0
5	学級別に発表し合う	国語「雪わたり」の学級別発表会	0	0	0

本研究の対象となる授業は 2・4・5 回目である。授業の有用性は、1)期間記録 (LSA-PE)、2)授業後の感想文の分析 (計量テキスト分析)、3)授業者によるエピソード映像編集、から検討した。

#### 【結果と考察】

1)期間記録(図)から、対象となった授業の特徴は、「認知学習」において、児童が動きを創出・工夫しながら表現を考える時間が重視されていることである。特に、4・5回目の授業においては、「認知学習」と「運動学習」を合わせて50%以上となっている。



2)授業後の感想文は、KH Coder により共起ネットワークを作成し、分析した。2回目の授業では、「友達ー全力一学ぶ」との繋がりが確認され、他者と一緒に表現することで意欲の向上につながったことが示唆された。一方で、「友達一全力一恥ずかしい」との繋がりもあり、制約として機能していたことも確認された。4・5回目では、「キックートン一群一合わせる一グループ」との繋がりがあり、物語のリズムのある言葉をグループ内で協働して表現しようとしていたことが窺われた。既習物語教材のリズムのある言葉が、教員の指導言語の補助となり、この結果、グループでの表現・動きに有効に作用したと推察された。

3) エピソード映像編集の結果、2回目の授業では、運動が嫌いな児童が比喩表現のある部分を全身で表現していたことが確認された。また、4・5回目では、自身の表現・動きを見せることを恥じらっていた児童が、既習のリズムのある言葉をグループで表現することで、堂々と表現している様子が抽出された。国語科の既習物語教材を採用することで、表現内容が明瞭になり、比喩的表現でも明確な身体的イメージを想起させ、リズムのある言葉をグループとして表現する楽しさを醸成したと考えられる。すなわち、児童の表現に対する恥ずかしさや苦手意識の軽減につながったと判断される。

#### 【まとめにかえて】

本研究で構想した国語科の物語教材と接続させた体育科の表現運動は、従来の指導の困難さや学習者の苦手意識を、一定程度軽減するものであったと考えられる。他方で、本構想は、国語科における物語教材の発展的内容としても位置づけることが可能であろう。実際に、国語科の定期試験結果とは異なる評価を、体育科の表現運動を通じて見出せる可能性がある。

(資料、引用・参考文献は発表当日に提示する)

# 力感メーターと効果音の付加が示範動画の提示による鉄棒運動の 前方支持回転の学習に与える効果

○大西凌嘉(北海道教育大学),板谷厚(北海道教育大学)

キーワード: 体育授業, 器械運動, ICT, 運動学習, 運動共感

#### 【背景】

GIGA スクール構想の推進により1人1台端末が実現した.体育授業ではICT の効果的な利用方法の試行錯誤が早期から続けられてきている.しかしながら,特に,運動学習面での成果は十分に得られていない.その理由として,次のふたつが指摘されている.ひとつは,示範動画の情報過多可欠な情報を映像から取捨選択できず,かえつつは,を見ずまないと推測されている.もうひとつは,を見ずまないと推測されている.児童・生徒は,ただ映像を見ても運動課題を実施したときの感じ(例えば、などのタイミングでどのくらい力を入れているかなくいかないと示唆されている.

#### 【目的】

本研究の目的は、鉄棒運動の前方支持回転の学習において、示範動画と同時に示範の股関節屈曲 角速度をリアルタイムに表示する力感メーターと これに同期する効果音を提示することが課題の学 習に与える影響を検討することとした.

#### 【方法】

前方支持回転ができない健康な男女学生 4 名 (男女同数)を対象とした.対象者は次の4つの 実験セッションに参加した. 事前セッションでは, 練習前の前方支持回転の出来栄えを評価するとと もに、対象者の基礎的データの収集を収集した. 次の練習セッションでは、練習前の前方支持回転 の評価にもとづき、対象者は2群(対象群と実験 群)のどちらかに配属され、群によって異なる示 範動画を見て前方支持回転を練習した.練習セッ ションは,健康状態の確認,準備運動,課題説明, 練習前試技,練習,練習後試技で構成した.練習前 試技と練習後試技では、それぞれ2試技行った. 練習は3試技を1セットとして,5セット実施し た. その間,対象者の任意のタイミングで何度で も示範動画を確認することができた. 対象群が視 聴する示範動画は, 真横から撮影した示範のみ表 示された. これに加えて, 実験群は示範と同期し た力感メーターと効果音を視聴できた(図1).次 の保持セッションでは、健康状態の確認と準備運 動ののち、保持試技を2試技×2セット実施した. 運動学的分析のために,対象者の側方からすべて

の試技をビデオカメラで撮影した. 前方支持回転の開始から終了までの時間を 100%とした時の股関節屈曲角速度ピーク値が出現するタイミングを算出した.



図1力感メータと効果音が付加された示範映像

#### 【結果】

練習後,実験群は示範のピーク出現タイミング より遅れた一方で,対象群は示範より早かった(図 2).

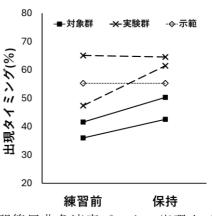


図2股関節屈曲角速度ピークの出現タイミング

#### 【考察】

実験群は対象群に比べて、練習後に示範のピーク出現タイミングよりも遅くなった.これは、力感メーターによる視覚と聴覚による補助的な情報提供により、正しい回転加速のタイミングを理解し、それを極端に表現しようとした結果だと推察される.このことから、力感メーターは、多くの情報の中から「どのタイミングでどのくらい力を入れているか」という限定要素に注意を向けさせる役割を果たしたと考えられる.

# 中学生の柔軟性を高めるための準備運動の研究 -エアロビックステップを中心としたプログラムの考察-

○水野 和晃 ・ 山戸 大輝 (北翔大学), 今 樹菜 (月形中学校・鹿屋体育大学大学院), 今 竜一 (北翔大学)

キーワード:長座体前屈,運動強度,体育授業

#### 【背景および目的】

令和6年度の全国体力・運動能力,運動習慣等調査に よると、北海道の中学生は、長座体前屈の数値が全国に 比べて低い. 小島 (2023) は, 運動時に音楽を聴取する ことが、情動的な側面に影響を与え、パフォーマンスを 向上させる可能性があると述べており、本研究では音 楽に合わせて体を動かすエアロビックに着目した. 平 柳ら(1988)は、エアロビックダンストレーニングの本 来の目標である心肺機能の向上の他に,柔軟性,平衡性, 持久性といった運動機能の向上も期待できると述べて いる. また、門脇・内尾 (2016) は、月1回3か月間の ストレッチング指導で柔軟性が向上したと報告してお り、継続的に実施することで、柔軟性が高まることが期 待される. エアロビックは、持久力の向上に寄与すると あるが、柔軟性に関連した研究は数少ない、そこで、本 研究の目的は,「柔軟性に考慮したエアロビクスプログ ラム | を体育授業の準備運動として実践し, 長座体前屈 の測定により、柔軟性の向上を図るためのエアロビッ クステップを中心としたプログラムを開発する基礎的 資料を得ることとした.

#### 【方法】

2025 年 7 月上旬から同年 10 月下旬にかけて、北海道の X 中学校の生徒 26 名 (1 年生 18 名, 2 年生 8 名)を対象に、体育授業 24 単位時間の準備運動で、X 中学校で勤務する体育科教諭と共同で制作した「柔軟性に考慮したエアロビクスプログラム」を行う。また、8 単位時間毎に、準備運動のキューイング・長座体前屈測定・アンケート(1 回目と 24 回目のみ)を実施する。毎時間準備運動時は、活動量計(Active Style Pro HJA-750C: OMRON 社製)を生徒が 1 台ずつ身に付け、本プログラムの運動強度を分析する。また、8 単位時間毎に収集する長座体前屈の数値を比較し、対応のある t 検定を実施する。

本研究の実施に当たり、X中学校で学校長に本プログ

ラムの意義や目的を口頭で説明した後,体育科教諭を 通じて保護者に研究計画の概要や個人情報の保護等に ついて書面にて同意を得た.

#### 【結果および考察】

介入前と 2 カ月後で長座体前屈の数値は上昇しなかった(図 1). t 検定の結果, 1 年生の介入前(35.33  $\pm$  7.06cm)から 8 回目(37.59 $\pm$ 7.13cm)のみ有意な差が認められた(p<0.05). 平均運動強度については,1 回目~16 回目まで 5.7~6.1METs を示しており,初回から運動量が確保できる運動であることが分かった.初回に収集したアンケートから,「体が温まったと感じますか」の問いには,全員から肯定的な回答が得られ,筋温の上昇も見込まれるプログラムであることも示唆された.

夏原(2018)は、スポーツにおいて声をかけることは、注意の広がりや視覚情報の見落とし防止に有益であると述べている。また、エアロビックにおける言語指導は、学習のねらいや効果の適切なフィードバックを可能にするものであり、より質の高いパフォーマンスへ動機づける役割も果たす(愛川ら、2005)。そのため、これまでの指導方法を見直し、授業者が毎単位時間の準備運動前に、本プログラムで特に重要なステップのポイントや留意点を確認することや、準備運動中のキューイングを、8単位時間毎ではなく、毎単位時間検討していく必要があると考えられる。

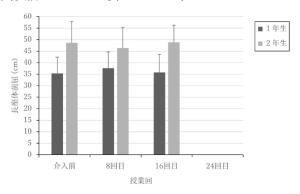


図1 1,2 年生の長座体前屈数値

## 女性アスリートへのくまなざし>をめぐる力学的構造

○諸橋 壮至(北海道教育大学教職大学院) 越川 茂樹(北海道教育大学)

キーワード:見る/見られる,魅せる/魅せられる,共犯関係

#### 1. 諸言

21世紀に入り女性アスリートのメディア露出は急速に拡大したが、その表象には「競技能力」とは別に「女性らしさ」や「外見的魅力」といった性的要素が付加されることが多い。2024年には競技中の姿を性的に撮影した画像が SNS 上で拡散され、日本陸上競技連盟は「根絶を目指す」との声明を発表したが、刑法改正後も競技中の撮影行為は規制対象外であり、被害救済は困難であるという。露出の多いスポーツウェアは「機能性のために着用される場合」もあれば、「注目や経済的支援を得るために選択される場合」もある。実際、女性アスリートの中には、競技活動を継続するためという切実な理由からスポンサー契約やメディア露出を戦略的に活用する者も少なくない。

そこで本研究は、女性アスリート、メディア、ならびに観客\*の三者の関係性における女性アスリートの身体をめぐる<まなざし>に注目し、そこに潜む力学を解き明かすことを目的とする. なお、本研究は三者それぞれについて断ずるのではなく、三者の関係性の背後にある構造を示すことにある.

\*ここでの「観客」は男性の観客を示している.

#### 2. <見る/見られる>の構造

スポーツシーンにおいて観客は「見る」側として主の立場に立ち、女性アスリートは「見られる」側として従の立場に置かれる。ローラ・マルヴィ(1998)による視覚的快楽の考え方を参考にするならば、女性アスリートは、その筋肉質な身体、集中した表情、強い精神力等の男らしさとされてきたものを観客は連想し無意識のうちに去勢不安を喚起され自らの優位性が揺らぐ。

しかしながら、メディアを通して性的欲望の強度を増幅させる女性らしさの表出によって見る側という支配的立場を回復する。その結果、女性アスリートは、視覚的快楽の対象として配置されてしまい、観客の見るという行為の快楽が、能動的=男性、受動的=女性に分割される<見る/見られる>の構造を形づくる。

すなわち、女性アスリートは「見られる存在」として 性的欲望の的と化すその状況に置かれ、メディアと観客 の間には女性アスリートをモノ化し支配する共犯関係が 成立してしまう.

#### 3. <魅せる/魅せられる>の構造

他方、女性アスリートたちは「魅せる」主としての立ち位置もスポーツの場において認められる。その場合、観客は「魅せられる」従の関係性に転じる。この関係は、「見る/見られる」の逆転であり、女性アスリートは自らの身体を意図的に商品化することで観客の欲望を操作し、視線を引き寄せる能動的な戦略を取っているという状況がそこにある。ガルシア(2023)が述べるように、女性は「自らを餌食にすることで男に対する官能的な支配力を手に入れる」存在でもあり、この戦略は支配・被支配の境界を曖昧にすると解釈できよう。しかし、この「魅せる」行為は完全な自由ではなく、社会的規範の中で形成された順応的主体である。

そして、我々が直接的に観るのではなく、メディアを 経由したスポーツシーンを観るこうした<魅せる/魅せられる>という構造において、メディアと女性アスリートの間にも女性アスリートの身体をモノ化する共犯関係が成立していく。このような関係性の中で、女性アスリートの<魅せる>といった表出が増幅され、その関係性を経由して観客が<魅せられ>魅了されていく。この構造の中で、女性アスリートが「魅せる」主体として活躍できる場が提供されるとともに、その姿を社会が共有・評価する枠組みを形成していく。

#### 4. 結語

このように女性アスリートの身体に向けられるまなざしは、その奥底に力学的構造、<見る/見られる>と<魅せる/魅せられる>の構造が認められ、両者が絡み合っている。そしてそうした状況において、女性アスリート自身-メディア-観客の関係性が織りなす女性アスリートをモノ化する共犯関係が生まれている。

こうした場において女性アスリートに向けられる「まなざし」をめぐってさまざまな意味が生み出され、我々は社会的思潮における価値づけに翻弄されている.

#### 5. 文献

マノン・ガルシア:横山安由美訳(2023)生まれつき 男社会に服従する女はいない.みすず書房.

ローラ・マルヴイ: 斉藤綾子訳 (1998) 視覚的快楽と物語映画. 岩本憲児編,「新」映画理論集成① 歴史/人種/ジェンダー. フィルムアート社, pp. 126-141.

## カフェイン摂取を伴う Post-activation Performance Enhancement が

## 高強度運動パフォーマンスに及ぼす影響

○小笠原 大翔 (北海道教育大学), 土橋 康平 (北海道教育大学)

キーワード: ウォームアップ、エルゴジェニックエイド、カー速度プロファイル

#### 【背景】

運動中に高いパフォーマンスを発揮するためには事前のコンディショニングが重要であり、その一つにウォーミングアップがある。その中でも、本運動前に最大または最大に近い高強度の運動(i.e., レジスタンス運動)を行うことで、一時的にその後の神経筋パフォーマンスが向上する Post-activation Performance Enhancement (PAPE) という現象がある (Harrison et al. 2019)。一方で、カフェイン摂取によっても同様の効果が生じるとされており、高強度運動時のパフォーマンスが向上することが報告されている (Grgic and Mikulic. 2021)。このPAPE とカフェイン摂取を組み合わせることで単独の介入よりも更なるパフォーマンス向上が生じる可能性があるが、明らかではない。

先行研究では、PAPE とカフェインの組み合わせによりその後のジャンプ高や自転車運動時の発揮パワーが向上したことを報告しているが (Filip-Stachnik et al. 2022; Zang et al. 2024)、これらの先行研究ではカフェイン摂取単独の条件を設定しておらず、パフォーマンス向上の要因が組み合わせによって生じているか、カフェイン摂取によって起きているか明らかではない。そこで、本研究ではカフェイン摂取を伴うPAPE が高強度運動時のパフォーマンスに及ぼす影響をPAPE およびカフェイン摂取単独の条件を加えて検討する。

#### 【方法】

硬式野球あるいは陸上競技を専門とする男子大学生 12 名および女子大学生 4 名を被験者とし (現在 3 名の 測定終了)、30 m のスプリント走 (Voltono S, S-CADE Co., Ltd., Japan) およびカウンタームーブメントジャンプ高 (Counter movement jump: CMJ)(Voltono J, S-CADE Co., Ltd., Japan) 計測を 70 分間の休息を挟んで計 2 回行った。条件は、70 分間の休息時に 1) PAPE を誘発せず、プラセボを摂取する条件 (Control)、2) PAPE を誘発せず

にカフェインを摂取する条件 (Caffeine)、3) PAPE を誘発し、プラセボを摂取する条件 (PAPE)、および4) PAPE を誘発し、カフェインを摂取する条件 (Combination) の4条件とした。カフェインの摂取量は体重1kgあたり6mg、プラセボでは体重1kgあたり6mgのグルコースをカプセルに封入して二重盲検法にて摂取した。2回目の計測の17分前、PAPE および Combination条件では85%最大挙上量の負荷でのフルスクワット3回を2分間の休息を挟んで3セット行った。

また、スプリント走測定で得られたスプリットタイム (0~10 m, 10~20 m, 20~30 m) から、カ一速度プロファイルを算出した (Voltono S, S-CADE Co., Ltd., Japan)。

#### 【結果】

図 1 に CMJ および 30 m スプリント走のタイムの介入前からの変化量 ( $\Delta$ ) を示す。一要因の分散分析の結果、 $\Delta$  CMJ および  $\Delta$  30 m のスプリント走のタイムともに、条件間で有意な差は見られなかった (図 1)。

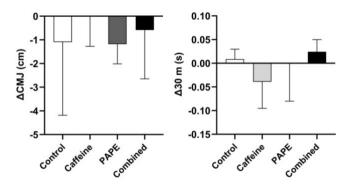


図 1.CMJ(左) および 30 m スプリント走のタイム (右) の介入前からの変化量 (n=3)

#### 【結論】

カフェイン摂取を伴う下肢の PAPE の介入を行って も、その後の高強度運動パフォーマンスの更なる向上 は見られないことが示唆された。

## カフェイン摂取がサッカーゲーム時のパフォーマンスに及ぼす影響

## ―ポジション別の検討―

○西川 佳弥¹、小谷 克彦¹、土橋 康平¹、¹北海道教育大学 キーワード: エルゴジェニックエイド、走行距離、スプリント

#### 【背景】

カフェインは運動パフォーマンス向上を目的として 摂取されているサプリメントの 1 つである。先行研究 では、3~6mg/kg 体重のカフェインの摂取によりランニ ング (Dobashi et al. 2024) やジャンプ高、高強度自転車 運動 (Gricg and Mikulic. 2021) などのパフォーマンスが 向上することを報告している。球技種目のパフォーマ ンスに関してもカフェインの効果は検討されており、 Del Coso et al. (2021) はセミプロフェッショナルのサッ カー選手を対象に、カフェイン (3mg/kg 体重) を含む エナジードリンクを摂取することでその後のサッカー ゲームを模した運動時の走行距離やスプリント回数が 増加したことを報告している。しかしながら、この研究 ではエナジードリンクを使用しており、カフェイン摂 取というプラセボ効果を完全に排除することができて いないことに加え、スプリントの定義がジュニアアス リートの研究を参考にしており (時速 18 km 以上、100 m 走を 20 秒で走る速度)、低速度となっている。 さら に、先行研究ではカフェインの効果について、ポジショ ン別の評価を行っていないため、どのポジションの選 手がカフェインのポジティブな効果を受けやすい、あ るいは受けにくいという特徴が明らかではない。そこ で、本研究ではカフェイン摂取がサッカーゲーム時に おけるパフォーマンスについて、ポジションに着目し、 検討することを目的とした。

#### 【方法】

被験者は H 大学サッカー部に所属する男子大学生 19 名  $(21\pm1$  歳) を対象とした (現在 9 名の測定が終了)。 測定は、2025 年 10 月 4 日~10 月 30 日の期間で屋外の サッカーコートにて行った。実験当日、被験者は、カプセルに封入したプラセボ (6 mg/kg 体重、グルコース) あるいはカフェイン (6 mg/kg 体重) を二重盲検法にて摂取した。その後、既定のウォーミングアップを 1 時間行った。ウォーミングアップから 10 分後、前後半各 35 分間のゲームを 10 分間の休息を挟んで行った (ロスタ

イムは無し)。ゲーム中の走行距離、スプリント回数、 心拍数は GPS が内蔵された心拍センサー (Polar H10, Polar, Finland) および腕時計 (Polar Pacer, Polar, Finland) を用いて連続的に測定した。大学生のサッカー選手の スプリント能力を測定した先行研究 (鈴木ら. 2024) を 参考に、時速 23 km 以上で 1 秒間以上走行しているも のをスプリントと定義した。加えて、主観的運動強度お よびビジュアルアナログスケールにて主運動に対する 準備度および覚醒度を評価した。

#### 【結果】

前後半における走行距離は、いずれも条件間で有意な差は見られなかった (図)。また、前後半の総走行距離に関しても、条件間での差は見られなかった (6579 ± 260 vs.  $6587 \pm 329$  m, Caffeine vs. Placebo, P = 0.922)。 ポジション別の総走行距離に関して、フォワード (6329  $\pm$  62 vs.  $6347 \pm 231$  m, Caffeine vs. Placebo, n = 3)、ミッドフィールダー (6735  $\pm$  159 vs.  $6637 \pm$  335 m, Caffeine vs. Placebo, n = 4) およびディフェンダー (6640  $\pm$  403 vs.  $6845 \pm 329$  m, Caffeine vs. Placebo, n = 2) のいずれにおいても、条件間の差は見られなかった。

#### 【結論】

カフェインの摂取は大学サッカー選手におけるゲーム時の走行距離を増加させず、ポジションによる影響も受けないことが示唆された。

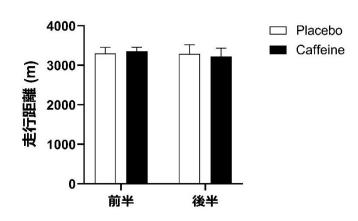


図. サッカーゲーム時の前後半の走行距離 (n=9)

## カフェイン摂取が高強度間欠的運動後の血圧応答に及ぼす影響

○野崎 虎大郎 (北海道教育大学), 土橋 康平 (北海道教育大学) キーワード: 運動後失神、交感神経活動、エルゴジェニックエイド

#### 【背景】

長時間の動的運動後には、動脈血圧が運動前の安静時よりも低下する運動後低血圧 (Post-exercise hypotension: PEH) が生じる場合がある (Halliwill et al. 2001; MacDonald et al. 2001)。近年では、超高強度の運動によっても PEH が生じることが報告されており (Dobashi et al. 2023; Lei, Dobashi et al. 2023)、この PEH は頭痛や運動後失神の要因の一つと考えられているため、その予防策を検討することは安全に運動を実施する上でも非常に重要である。動脈血圧は心拍出量 (心拍数×一回拍出量) と総末梢血管抵抗の積で算出され、運動による総末梢血管抵抗の減少 (血管拡張) を心拍出量の増加で代償出来ないことで PEH が生じるとされている。

この PEH の緩和にカフェイン摂取が効果的であるかもしれない。カフェイン摂取は脳におけるアデノシン受容体を阻害することによって中枢神経活動が向上し(Fredholm et al. 1995; 1999)、血圧上昇が生じることが報告されている (Abbas-Hashemi et al. 2023)。そこで、本研究では、カフェイン摂取が PEH の程度を抑制するという仮説のもと、高強度間欠的運動後の血圧応答に及ぼす影響を検討することを目的とした。

#### 【方法】

被験者は健康な男子大学生 8 名および女子大学生 4 名を対象とした (3 名測定終了)。事前に 30 秒間の全力自転車運動 (ウィンゲートテスト, WAnT) を実施し、本運動の負荷を設定した。測定当日、被験者は仰臥位姿勢で 10 分間の安静を保った後、カプセルに封入したプラセボ (6 mg/kg 体重 グルコース) あるいはカフェイン (6 mg/kg 体重) を摂取した。カプセル摂取 60 分後、被験者は本運動として短時間高強度運動 (30 秒間)の運動を 4 分間の休憩を挟んで 3 回繰り返す高強度間欠的運動を行った (Dobashi et al. 2017)。1、2 回目の運動はWAnT 時の平均発揮パワーの 80%の負荷とし、3 回目の運動は WAnT を行った。本運動終了後、再び仰臥位姿勢で 30 分間のリカバリーをとった。

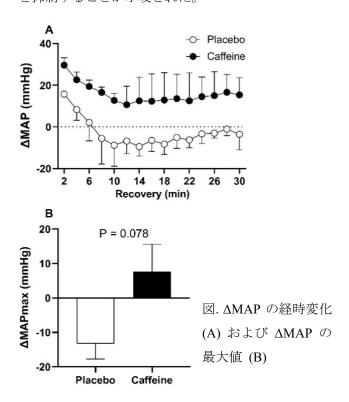
測定項目は収縮期および拡張期血圧 (Tango-M2, SunTech Medical Inc., USA)、心拍数 (Polar H10, Polar, Finland)、WAnT 時の発揮パワー (風神雷神, OCL, Japan)、主観的運動強度、および主観的感覚 (吐き気、ふらつき、視覚的障害; ビジュアルアナログスケール法にて評価) とした。平均動脈血圧 (Mean arterial pressure: MAP) は (収縮期血圧—拡張期血圧)/3+拡張期血圧によって算出した。リカバリー時の動脈血圧に関して、運動前安静時の平均値からの変化量を算出した (Δ)。また、リカバリー時の動脈血圧の最小値の出現のタイミングが被験者間で異なるため、運動前安静時の血圧の平均値からリカバリー時の血圧の最大変化量を計算し、運動後低血圧の程度を算出した。

#### 【結果】

図に  $\Delta$ MAP の経時変化およびリカバリー時の MAP の最大変化量を示す。二要因の分散分析の結果、サプリメントの主効果に有意な傾向が見られ (P=0.083)、カフェインの摂取により運動後の血圧が高くなる傾向が示された (図 A)。また、 $\Delta$ MAP の最大値もカフェイン条件で高い傾向が示された (図 B)

#### 【結論】

カフェイン摂取は高強度間欠的運動後の PEH の程度 を抑制することが示唆された。



## 運動30分前以降の糖質溶液の分割摂取が運動誘発性低血糖に及ぼす影響

〇吉本香乃,柴田啓介,山口太一(酪農学園大学大学院),東郷将成(旭川市立大学短期大学部), 瀧澤一騎(一般社団法人身体開発研究機構)

キーワード:インスリンショック、持久性運動、水分補給、耐糖能

#### 【背景および目的】

糖質溶液を摂取し、30~45 分後に持久性運動を開始すると、運動中に低血糖状態に陥る運動誘発性低血糖を引き起こす恐れがある(Jeukendrup and Killer、2010). 先頃、我々は、持久性運動開始30分前に市販のスポーツ飲料と同程度の31 gの糖質を含む500 mLの溶液を摂取することで、運動誘発性低血糖が生じたことを明らかにした(吉本ほか、2025). しかしながら、実際のスポーツ現場において、持久性運動開始30分前に500 mLのスポーツ飲料を飲みきることは稀であり、運動開始まで少量ずつ分割して摂取することの方が多い. そこで本研究の目的は、運動30分前以降における糖質30 gを含む500 mLの溶液の分割摂取が運動誘発性低血糖に及ぼす影響を明らかにすることとした.

#### 【方法】

本学の体育系課外活動団体で日常的に運動を行っている 健康な男子大学生 9 名「年齢:19.7±0.9 歳、身長:170.4 ±7.3 cm、体重:60.3±2.5 kg, 最大運動負荷(Wmax):274.6 ±37.1 W] が本研究に被験者として参加した. 被験者は実 験開始 3 時間前までに朝食を摂取し、実験室に来室した。 来室後, 血糖値が 100 mg/dL 程度を示すまで安静を保持し た. その後, 糖質30 gを含む500 mLの溶液を1回(運動 開始30分前),250 mL ずつ2回 (運動開始30分前および 18 分前) あるいは 100 mL ずつ 5 回 (運動開始 30 分前, 24 分前,18分前,12分前および6分前)に分けて摂取する条 件を施行した.3条件は別日に行い,条件の順序は各被験者 でランダムとした. 運動は、自転車エルゴメーター (エアロ バイク 75XLⅡ, コンビ) を用いた 65%Wmax 相当強度の 30 分間の自転車漕ぎ運動とした. 血糖値は、糖質溶液摂取前、 摂取後5分から30分まで5分毎,運動中は開始5分から運 動終了時点まで 5 分毎に指先血を採取し、血糖自己測定器 (グルテスト Neo, 三和化学研究所)を用いて測定した.

加えて、別日に医療機関にて空腹時の正中皮下静脈採血を行い、血糖値、血中インスリン値の測定を行った。空腹時の血糖値と血中インスリン値から、インスリン抵抗性の指標である HOMA-IR を算出した。

#### 【結果】

運動中の最低血糖値の平均値は、いずれの条件(1回条件: 55.3±8.5 mg/dL, 2回条件: 55.3±10.8 mg/dL, 5回条件: 67.9±12.0 mg/dL) においても低血糖の基準値(72 mg/dL) を下回った(右図). しかしながら、運動中の最低血糖値は1回条件および2回条件ではすべての被験者が低血糖の基準値を下回ったのに対し、5回条件では9名中2名が下回らず、5回条件が他の2条件よりも有意に(p<0.05)高値を

示した. また, 5 回条件において運動中の最低血糖値が低血糖の基準値を下回った 7 名の HOMA-IR  $(0.79\pm0.26)$  は, 下回らなかった 2 名のそれ  $(1.52\pm0.34)$  と比較し, 低値傾向を示した.

#### 【結論】

65%Wmax 強度における持久性運動の開始 30 分前以降に 糖質 30 g を含む 500 mL の溶液を分割して摂取したとして も運動誘発性低血糖を引き起こすことが明らかとなった。 ただし、5 回に分割して摂取した場合には、インスリン抵抗 性が低い、換言すると、血糖の取り込み能が高い被験者で運 動誘発性低血糖の発生リスクが高いことが示唆された。

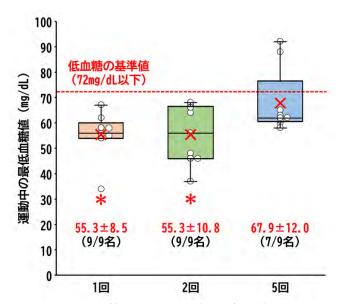


図 各条件における運動中の最低血糖値

○は各被験者の運動中の最低血糖値,箱ひげ図は四分位 範囲,×は平均値,赤の数値は平均値±標準偏差,\*は5回 条件に比較し有意に(p<0.05)低値であることを示す.赤 の破線(---)は低血糖の基準値(72 mg/dL以下),括弧内 の数値は低血糖の基準値を下回った人数の割合を示す.

#### 【参考文献】

Jeukendrup and Killer (2010) The myths surrounding pre-exercise carbohydrate feeding. *Ann. Nutr. Metab.*, 57 (suppl. 2): 18-25.

吉本ほか(2025)運動前の糖質摂取量の相違が日本人男性の 運動時の血糖値に及ぼす影響, *日本スポーツ栄養研究誌*, 18:93-100.

本研究は,2025年度北海道体育学会「研究助成」を受けて実施いたしました. 感謝申し上げます.

## テニスのダブルス試合における会話内容とペア内の凝集性がパフォーマンスに

## 及ぼす影響

○風間詩悠那(北海道大学大学院文学院),田辺弘子(北海道大学大学院文学研究院)

キーワード:ペア間の凝集性、パフォーマンス、印象、会話内容

#### 【背景・目的】

スポーツ競技において、チームの凝集性や自信、不安などの心理的要因が試合中のパフォーマンスや勝敗に影響していることが明らかになっている(Marc et al., 2021). さらにテニスのダブルスにおいて、感情や行動、激励、計画といったペア間の言語コミュニケーションの質(Lausic et al., 2015)も勝敗に影響することが示唆されている。また、チームのパフォーマンスは集団凝集性に関連する(Carron et al., 1985). しかし、言語コミュニケーションの質と集団凝集性、パフォーマンスの全体的な相互関係は未解明である。そこで本研究は、ダブルスペア間における凝集性(課題および社会凝集性)と言語コミュニケーションの質(会話内容)、パフォーマンス(得点率など)の関係性を明らかにすることを目的とした。

## 【方法・解析】

大学生のテニス経験者(経験年数 10.5±6.5 年)をリクルートし、6 ゲームマッチのダブルスの試合を実施した.その際の様子をビデオカメラで撮影し、ペア間の会話をピンマイクで記録した.また実験前後では、Carronらの研究を基にペア版に改良した、集団環境質問紙(GEQ)による凝集性調査も実施した.21ペアのデータを対象に、ポイント直前の会話内容(戦術的会話/それ以外の会話)ごとにポイントをプールし、得点率(ダブルフォルトとリターンミス以外のポイント)、ダブルフォルト率、リターンミス率をそれぞれ算出した.また、各ペア内のGEG スコアの差を算出した.

#### 【結果・考察】

戦術的会話後の得点率は、それ以外の会話の得点率よりも有意に高かった。また、戦術的会話後のダブルフォルト率またはリターンミス率は、それ以外の会話の場合よりも有意に低かった(表 1)。これは、ダブルスのような展開の早い競技(Rafael et al., 2021)では、予め

ペア間で戦術を共有しておくことが、ペア全体でのパフォーマンスが向上する可能性を示唆している.

表 1:会話内容とパフォーマンスの関係性

	会話の分類	平均±標準偏差	t値	p値	効果量r
得点率	戦術的会話	$0.614 \pm 0.258$			
14光芒	それ以外の会話	$0.493 \pm 0.138$	2.49	0.024	0.529
ダブルフォルト率	戦術的会話	$0.0960 \pm 0.180$			
メノルノオルト学	それ以外の会話	$0.904 \pm 0.180$	10.2	6.76e-0.9	0.923
リターンミス率	戦術的会話	$0.0828 \pm 0.173$			
リス / N 本	それ以外の会話	$0.917 \pm 0.173$	11	5.80E-10	0.927

さらに、各試合で GEQ スコアの差を対戦した 2 ペア で比較したところ、勝ったペアの GEQ スコアの差は負けたペアよりも有意に小さかった (表 2). これは、ペアやチーム内での、お互いの印象が近いほどお互いのパフォーマンスが向上する可能性を示唆している.

表 2:ペア内の GEQ スコアの差と勝敗の関係性

		平均±標準偏差	t値	p値	効果量r
	勝ち	4.64 ± 3.26			
ATG-S	負け	$7.82 \pm 4.00$	1.74	0.113	0.481
	勝ち	2.91 ± 1.62			
ATG-T	負け	$6.27 \pm 3.19$	2.82	0.0182	0.666
	勝ち	$5.18 \pm 3.93$			
GI-T	負け	$5.09 \pm 3.50$	0.0584	0.955	0.0185
	勝ち	$3.64 \pm 2.50$			
GI-S	負け	$6.36 \pm 3.65$	2.59	0.0271	0.633
	勝ち	$13.5 \pm 8.98$			
全体	負け	$25.5 \pm 7.00$	3.45	0.0063	0.737

以上の結果から,同程度のペア内の凝集性,戦術的内容 の会話が高いパフォーマンスにつながる可能性が示唆 された.ペア内の凝集性と戦術的会話の関係性につい ては現在分析中であり,当日発表予定である.

#### 【引用文献】

Carron et al. (1985). The development of an instrument to assess cohesion in sport teams: The Group Environment Ouestionnaire. *Journal of Sport Psychology*, 7, 244–266.

Questionnaire. Journal of Sport Psychology, 7, 244–266. Lausic et al. (2015). Nonverbal sensitivity, verbal communication, and team coordination in tennis doubles. International Journal of Sport and Exercise Psychology, 13(4), 398-414

Psychology, 13(4), 398-414

Marc et al. (2021). Sport psychology and performance meta analyses: A systematic review of the literature. Sport psychology and performance

psychology and performance
Rafael et al. (2021). A Cluster Analysis Approach to Profile
Men and Women's Volley Positions in Professional
Tennis Matches (Doubles). Sustainability.

## 表情の意図的な操作が運動パフォーマンスに及ぼす影響

〇虻川健太郎, 大西凌嘉, 湊彩華, 板谷厚(北海道教育大学)

キーワード: 笑顔, 新体力テスト, スポーツ指導, 筋緊張, リラックス

#### 【背景】

スポーツにおいて、勝敗を決するような場面で プレイヤーが「笑顔」を見せることがある.また、 部活動で、「辛い時こそ笑顔で」「顔が硬い」など表 情に着目した指導が行われたりする.これより、 笑顔が運動中の緊張を和らげ、集中力を高めるか もしれない.しかし、表情が身体能力に与える影 響は十分に検証されていない.

#### 【目的】

本研究の目的は、「いつも通り」「強調したいつもの表情」「笑顔」の条件で筋発揮、筋持久力、柔軟性の評価項目を比較し、表情の意図的な操作が身体能力を向上させるかどうか検討した.

#### 【方法】

本大学 2~4 年生の運動を習慣的に行う男性 20 名 を対象とし、ランダムに 2~3 人のグループを設定 した,対象者は新体力テストの種目から握力,長 座体前屈,上体起こし,反復横跳び,立ち幅跳びを 表記の順番で,通常条件,笑顔条件,強調条件の3 条件を実施した. 疲労が次の測定に影響を与えな いよう, すべての項目を一巡したら次の条件で行 わせた. グループ内で試技を行わない対象者を記 録者とし, 各試技の記録と表情の映像を撮影させ た. 撮影は, スマートフォン (iPhone 15, Apple 社 製)のカメラ機能を使用した. 通常条件と笑顔条件 では、自身の表情がどのくらい笑顔だったか(笑顔 指数)を visual analog scale (VAS) 法で主観的に自己 評価用紙に記録した。強調条件では, 自身の表情 がどのくらい強調できていたか(強調指数)を同様 に記録した。

通常条件と笑顔条件,強調条件それぞれの条件間の差について反復測定分散分析を実施した.事後検定では,Tukeyの方法による多重比較検定を実行した。統計的有意水準はp=0.05とした.

#### 【結果】

握力において,笑顔条件と通常条件,強調条件の差に有意性が認められた(それぞれ p=0.037,p=0.018). 反復横跳びでは通常条件と笑顔条件の差に有意性が認められた(p=0.003). 上体起こしでは,笑顔条件と強調条件の差に有意性が認められた. 長座体前屈は,笑顔条件と通常条件,強調条件の差に有意性が認められた. しかし,立ち幅跳びでは,条件間の差に有意性は認められなかった.

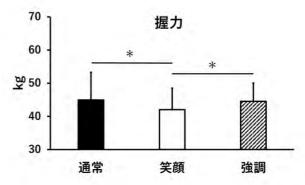


図1 握力における3条件間の比較

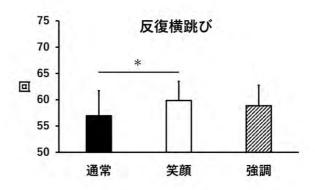


図2 反復横跳びにおける3条件間の比較

#### 【考察】

表情を強調することにより運動単位の動員効率が向上し、握力のパフォーマンスが向上したと推測される. さらに、表情の強調により全身に力みが生じ、体幹の安定性が増したことでエネルギー効率が向上し、上体起こしのパフォーマンスも向上したと推測される.

笑顔を作ることにより, 筋緊張が軽減され, 柔軟性が向上し, 長座体前屈のパフォーマンスが改善されたと推測される. また, 笑顔が全身的に関節可動域を広げたり, 関節の動きをよくすることで主働筋と拮抗筋の同時収縮を減少のパフォーマンスを向上させる可能性がある.

立ち幅跳びについては、瞬間的なパワー発揮が 求められるため跳躍の瞬間のみの表情の操作では あまり効果が見られなかった可能性がある.

## 

〇井上快星(北翔大学大学院),小田史郎(北翔大学)

キーワード:メンタルヘルス、起床時刻、大学生アスリート、睡眠

#### はじめに

現代社会では、生活の夜型化により睡眠不足や睡眠障害のリスクが高まっている(厚労省、2014)。大学生アスリートは学業・練習の負荷から生活リズムが乱れ、短時間睡眠や睡眠の質的低下を招きやすいことが報告されている(Driller, 2019; 門間ら, 2017)。睡眠の不規則性は社会的時差ボケや抑うつ・不安などの心理的苦痛と関連する一方(Mishael et al., 2021; 西村ら, 2022)、規則的な睡眠覚醒スケジュールは気分改善をもたらす(Takasu, 2012)ことが報告されている。就床時刻の統制は負担が大きいため、睡眠・覚醒リズムの規則化には起床時刻の統制のほうが注目されている(厚労省, 2014)。本研究では、生活が不規則な大学生アスリートを対象に起床時刻を揃える介入を実施し、睡眠およびメンタルヘルスへの影響を検証することを目的とした。

#### 方 法

本研究は、生活習慣が不規則でメンタルヘルスが低い大学 生アスリート 40 名を対象とした。被験者の生活リズムの不 規則性とメンタルヘルスは3次元型睡眠評価尺度(3DSS)と 日本語版 GHQ-12 により評価した。本研究ではクロスオーバ ーデザインを採用し、起床時刻を±30分以内で統制する介入 条件と、統制しない対照条件をランダムな順番で各1週間実 施し、間に4週間のウォッシュアウト期間を設けた。介入前 後のメンタルヘルスの評価には GHQ-12 を、睡眠と日中の眠 気の評価には3DSS およびエプワース眠気尺度(ESS)を用い た。さらに毎日の睡眠評価として、スリープモニター(アコ ーズ社、FS-760)を装着して就寝したほか、OSA 睡眠調査票 MA版を毎朝記録した。条件×前後の比較はnparLD法を用い、 交互作用が有意な場合には Wilcoxon 符号付き順位検定を Bonferroni 補正 (p<0.0125) で行った。毎日記録したデータ は7日間の平均値および標準偏差を求め、対応のある t 検定 (正規分布しないときは Wilcoxon 符号付き順位検定) によ り条件間比較を行った。有意水準はp<0.05 とした。

#### 結 果

実験参加者 40 名のうち、データ不良のために起床時刻の

統制が判別できなかった 18 名、後半の対照条件まで介入効果がウォッシュアウトされなかった3名、もともと就床・起床時刻が規則的であった1名を除外し、最終的に18名(うち8名が介入条件を先に実施)を解析対象とした。

条件×前後の比較では、介入条件のみGHQ得点(p=.0006) と3次元型睡眠評価尺度(3DSS)の位相得点(p=.00157)に おいて介入後の有意な改善が認められた。エプワース眠気尺 度では有意な改善は認められなかった。OSA 睡眠調査票MA版 の5下位尺度とスリープモニターの12指標(総睡眠時間、睡 眠潜時、中途覚醒時間、睡眠効率など)の平均値には有意差 は認められなかった。しかしながら7日間のばらつきを表す 標準偏差では、介入条件のほうが、スリープモニターの総睡 眠時間、就床時刻、入眠時刻、最終覚醒時刻、起床時刻が有 意に小さくなる結果が、姿勢変更回数が有意に大きくなる結 果が認められた。

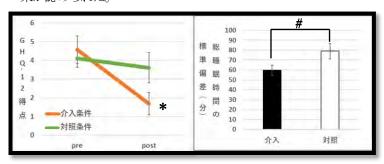


図1 GHQ-12 得点(左)総睡眠時間の標準偏差(右) (Mean±SEM N=18 \*p<.0125 by Wilcoxson's test #p<.05 by paired t-test)

#### 考察

本研究では、起床時刻を±30分に揃える介入により、メンタルヘルスの改善とともに、就床時刻や起床時刻、睡眠時間の日々のばらつきが縮小するといった睡眠の規則化が認められた。睡眠のばらつきの大きさが気分悪化に関連するとの報告がなされていることから (Bei et al., 2016)、起床時刻を揃えるという介入が睡眠全体の規則化を介してメンタルヘルスの改善につながった可能性が考えられる。

## 日本のパラスポーツにおける障がい者と健常者をめぐる論争に関する研究

○陳 真 (鹿屋体育大学大学院), 関 朋昭 (鹿屋体育大学)

キーワード:パラスポーツ,障がい者,健常者,論争

#### 【背景】

近年,パラスポーツの推進に伴い,パラスポーツに関する研究も盛んに行われている.たとえば,医療分野ではスポーツ傷害(Fagher et al., 2020;田島ほか,2020)に関する研究,心理分野では精神的・心理的健康(小澤・長田,2007;Swartz et al., 2019)に関する研究,社会学分野ではスポーツの統合化(藤田,1998,1999;八十川,2000;松尾,2005;渡,2005;渡,2007a;河西,2010)やジェンダー(Seth・Dhillon,2020;小倉,2022)に関する研究が挙げられる.

このうち日本においては、とりわけ藤田 (1998, 1999), 八十川 (2000), 松尾 (2005), 渡 (2005, 2007a), 河西 (2010) らを中心に、障がい者と健常者をめぐる論争が活発に展開されてきた. しかし、海外と比較して、日本においてなぜ障がい者と健常者をめぐる論争が生じたのかについては未だ不明である.

#### 【目的】

日本のパラスポーツにおいて、なぜ障がい者と健 常者をめぐる論争が生じたのかを明らかにする.

#### 【研究方法】

#### 1. トライアンギュレーションの採用

近年、パラスポーツ研究で用いられてきたライフヒストリーは実証主義や解釈的客観主義の立場に近く、過去の出来事の表象にとどまりがちであると批判されている(桜井・石川、2015). すなわち、現象の背後にある根底的ものを捉えることが要請される. そこで本研究では、ポスト実証主義と親和性が高いトライアンギュレーションを採用する. なぜならば、この方法は異なる情報源や手法を組み合わせて分析を行うことにより、現象をより深層的に理解できるという特徴を有している(Denzin、2015).

#### 2. 分析手順

①個人の視点:障がい者に聞き取り調査を実施し、 当事者の経験から日本のパラスポーツ実施の実態を 検討する.②制度の視点:海外では障がい者と健常 者をめぐる論争がとりわけ見られないことから、諸 外国との制度上の相違を検討する.③社会文化の視 点:文化的背景から日本の障がい者観を検討する.

#### 【結果および考察】

#### 1. 個人の視点から

論争において、藤田氏、松尾氏は障がい者・健常者の統合を推奨している一方、八十川氏、渡氏、河西氏は統合の議論に先立ち両者の身体的差異について検討すべきであると主張している.

本研究は渡(2005)の主張に基づき,障がい者当事者に焦点を当てた.その結果,当事者がガイドランナー(健常者)と共に競技へ参加し,健・障混成チームで競う形態が一般的であることが判明された.つまり,日本では障がい者と健常者を峻別した上でパラスポーツが実施されているのである.

#### 2. 制度の視点から

法律面をみると、アメリカでは1990年に「障害をもつアメリカ人法」が制定され、障がい者のスポーツへの参加に関する法整備を先駆的に進めた.一方、日本では2011年の「スポーツ基本法」制定がその端緒である(文部科学省、2011).

政策面では,海外では1990年代以降に障がい者と 健常者の一元化政策が進展しているのに対し,日本 ではパラスポーツが2014年に文部科学省の管轄と なるまで厚生労働省の所管であった(野川ら,2011).

教育面では、海外のインクルーシブ教育(インクルーシブスポーツ)は障がいに限ったものではない一方、日本では主に「障害のある者とない者がともに学ぶ」ことを強調している(守屋,2025).

つまり、日本は海外とは異なり、障がい者という枠組み自体を強調する傾向がある.

### 3. 社会文化の視点から

「ノーマライゼーション」,「バリアフリー」といった概念は海外に起源をもつ. それは,杉山(1999)によれば,海外のキリスト教は障がい者に理解が深いが,日本の神道や仏教には差別的である. また,ニノミヤ(1997)は,日本の仏教が「因果応報」の思想により障がい者を否定的に捉えてきたという.

つまり、従来、日本では障がい者を特別視したことが事実である.

#### 【結論】

日本において障がい者と健常者をめぐる論争が生じた要因は信仰世界により障がい者観の相違にある.

## 学校の体育授業における「楽しさ」の本質と形骸化について考える -運動の「面白さ」を子どもたちにとっての「楽しさ」へ-

○清野宏樹 (桃山学院大学)

キーワード:面白さ 場面 楽しさ 自明 危機

#### 【はじめに】

スポーツが「楽しい」とは、一般的な常識や認識になりつ つある. 例えば、サッカーの小野伸二は、「ボールを触って いるだけで楽しい. サッカーが好きという気持ちが今の自 分を支えてくれている」や柔道の鈴木佳治は、「本気でやる からこそ苦しい、本気でやるからこそ悩む、しかし、本気で やるからこそ楽しい」と言う. 最である. また, 佐伯(2024) によれば、1000億円の10年契約を得た大谷将平が、連日、 3 時間ほどの野球試合の楽しみのために、21 時間の禁欲的 生活を送っている. 何よりも睡眠を大切にし、外食・外出・ 気晴らし等は一切せず、専ら最高のコンディション作りに 勤しんでいる. さらに大谷は、けがをしながらのプレイでも 笑顔を絶やさず、いつも「楽しい」を口にし、間違いなく「楽 しそう」なのである. パリ五輪で金メダルをめざしてウェイ トトレーニングを新たに取り入れた槍投げ女王北口榛花 は、「楽しくトレーニングし、楽しく練習し、楽しく試合し、 楽しく勝つ」と宣言している. その意味で「楽しい」は、ス ポーツでは「楽しい」と「苦しい」、「快楽」と「禁欲」とい う矛盾をも飲み込んだ両義的な言葉・概念になっていると 述べる(佐伯, 2024). 元々「楽しい体育」の所以は、戦前 の帝国主義的規律訓練型体育を脱却する為に、グループ学 習や児童中心のプラグマティズム、現代プレイ論に基づく 運動目的・内容論から所謂「楽しい体育」論として登場した. さらに、2011年日本体育協会・日本オリンピック委員会の 設立 100 周年記念行事において「スポーツ宣言日本-21 世 紀におけるスポーツの使命」が採択され、その中で「スポー ツは、自発的な楽しみを基調とする人類共通の文化である」 と定義された. こうした根拠から体育・スポーツの「楽しさ」 は認知された経緯がある. かつては、楽な体育や楽しければ よい体育、技能の対義語とした議論や論調、誤った使われ方 がされたこともあった. そうした中で, いま改めて体育・ス ポーツの「楽しさ」とは何なのか?問い直さなければいけな い時に来ているとも言える.そうしたことから本稿は,その 思想的・理論的な本質に迫ることを研究の目的とした.

#### 【社会的情勢及び状況と「楽しさ」の危機】

現在のポスト石油の時代を見据えてアラブ諸国はスポーツイベントを呼び水に観光立国を目玉政策に挙げ、国際スポーツ界への登場や日本でもインバウンド消費やバーチャルゲームが成長産業となり、地域おこしの目玉まで「楽しい」の提供になっている。ここで危惧しなければならないことは、中途半端な楽や苦、倒錯によって、ナチスのユーゲント活動の奨励標語である「クラフト・ドルヒ・フロイデ:楽し

みを通して力を」の二の舞となる可能性を秘めている(佐伯, 2024). それは「楽しい」という言が、道徳や望ましき倫理に導かれやすいことを意味する. また、「楽しい」が体制化や資本権力に用いられやすく、道具とも化しやすい. つまり、体育・スポーツから生成される「楽しさ」が純粋無垢(Pure)であるが為に、資本の象徴や政治的な事柄にキャンペーンとして利用され、手段化されやすい危険性も孕んでいる.

#### 【考察】

そこで, 佐藤 (2021) は, 運動・スポーツの「面白さ」と 「楽しさ」を分けて考えることを提案する. 運動の機能的特 性を面白さと捉え、それを享受したプレイヤーが感じたこ とを楽しさと述べる. 面白さに触れるための技術・戦術の習 得,ルールや場の工夫,仲間との関り等の楽しさは体育授業 の中心的な目標として設定できるとした. さらに, 越川 (2023) は、スラックラインの遊戯的特性を基調とした体育 実践から<~できるかどうか>の世界に入ること、遊ぶこ と, 謂わば, その運動特有の面白さに触れることで, スポー ツの意味や価値に向けた学びが開かれ、教育的・人間形成的 に重要な事柄も学ぶ可能性は拓かれると示唆した. 岩田 (2024) は、真に「運動技術」(経済的で合理的な解決の仕 方)を検討し直し、学習内容の順次性を述べる. 現代社会を フーコー (田村訳, 2020) は、生政治の実情から身体の規律 や自主的同調と捉えた. DX 時代に生と楽しい, 安寧は矮小 化の同調と従属を意味する(佐伯,2024). 覆すには、体育・ スポーツの楽しさの中にある自由と幸福を感じとる営みと なる. それをドゥルーズ,ガタリ(市倉訳, 1986)は、器官 なき身体の有用性とした. つまり、器官なき身体とは、絶え ず生成変化し続ける一種のエネルギーと位置づける. それ は、表層された器官ではなく、身体性に激しく刻みこまれた 深層から器官を含む身体から絶えず生成され続けることを 意味した. 体育・スポーツの行い方も同様で, 面白さに触れ ることで、主体にとっての魅力や意味、価値、感覚、技術、 汗等から真正な「楽しさ」を感じとることができるのである.

#### 【まとめ】

「面白さ」とは、子どもや大人も触れられる運動・スポーツそのものの具体的な場面である。「楽しさ」とは、自明ではなく情意や感情、心の揺らぎである。それは、俗に謂う「楽しい気分」とは言っても「面白い気分」とは言わないことと同じ意味をさす。総じて、運動・スポーツの「面白さ」を子どもたちが触れることで一人ひとりの「楽しさ」へと教育的・人間生成的な豊かな可能性が拓かれていくのである。

【文献】\*紙幅の都合上、当日の発表にて提示する.

## 単元まるごと構想による体育理論の授業展開

## ~中学校第2学年における実践から~

〇水嶋 星陽(北海道教育大学附属旭川中学校), 林 裕輔(北海道教育大学附属旭川小学校) 宮下 隆太郎(鷹栖町立鷹栖中学校), 高瀬 淳也(北海道教育大学旭川校)

キーワード: 体育理論,単元レベル, 実生活との結びつき

#### 【目的】

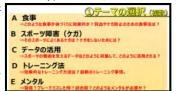
平成20年3月改定の中学校学習指導要領において, 体力の向上及び知識の学習を一層重視する視点から「体 つくり運動」とともに、「体育理論」が導入された.この体育 理論について,藤村他(2023)は、中学校第2学年の「運動 やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の単 元において,運動生理学を参考に理論学習を展開した後, 生徒自身が自己に適した運動プログラムを作成及び実施 するという教材開発を行い、学習効果が見られたと報告し ている。しかし、山坂他(2025)は「多くの体育教師が実施に 対して不得手,困難であるという意識を持っている.また生 徒も含め、体育理論の学習に対する意義を見出しにくい」 と述べている.この原因として筆者は、1単位時間ごとの学 習が慣例であることから、題材間の関連性や実生活との結 びつきが弱い点を課題として考えた. そこで手がかりとした のは、石井(2023)による、「生徒にとっての『見せ場』となる 学びの舞台を軸に、一時間一時間という短いスパンだけで はなく、単元レベルの学びのストーリーを意識しながら単元 計画や授業を組み立て」ていくことの重要性を述べていると いう点である.

そこで本研究では、単元レベルでの課題を提示し、その解決を目指す学習過程を取り入れた実践を行い、その成果と課題を検討することにより、体育理論の授業に関する知見を得ることを目的とする.

#### 【方法】

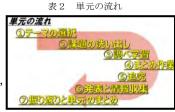
本研究は、2025年7月にA中学校の第2学年102名の 保健体育科の授業を対象とした. 学習内容は、中学校学 習指導要領解説保健体育編(文部科学省、2017)に示され ている「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行

い方」である. 単元を通した課題として「スポーツのパフォーマンスを高めるためには?」と設定し、学習指導要領および



教科書などの指導資料から5つのテーマ(表1)を設定した. 生徒は,1 つのテーマを選択し,運動・スポーツとの関係性

を見いだし、自己の運動場面に生かす具体策を考えることにより、課題解決を図ることを目指した。全5時間で実施し単元の流れは、表2のとおりである。



#### 【結果および考察】

単元終了時の振り返り場面における,生徒のワークシートへの記述は,以下のとおりである.(一部抜粋)

- A:全てつながっているから、何かを整えるじゃなく、全てを整えるくらいの気持ちで行動する必要がある。そして、 大切な時に最大限の力を出すためには、普段の生活から意識していくことが大切。
- B:私は試合中のメンタルに課題があるので、イチロー選手のルーティーンを参考に、食事の工夫や日頃から失敗した時のシミュレーションをして、失敗した時もひきずらないようにすることが大切だと思った.
- C:今回の学習を通して「自分を知る」ことが大切だと考えました。自分自身を振り返ることも、自分の特徴を知ることも、すべてパフォーマンスにつながると考えました。

A~C に共通するのは、1 つのテーマを切り口に自己と運動との関係について追究していくうちに、テーマそれぞれの関連性に気付き、5 つのテーマを統合して理解することができた点である。このように単元レベルでの課題解決を行うことは、複数の学習内容を関連付けながら学習を進めることにつながり、断片的な知識の習得にとどまらず、生活習慣の改善や競技場面の実践というように、自己の行動に結びつけて考えるようになったことが成果として挙げられる。一方で、今回の実践が他学年の体育理論の学習でも実施可能かどうか不明であることや、1 校のみでの実践であったため追究の余地を残しており、今後の課題としていきたい。

## 小学校低学年における「宝運び鬼」の教材開発と学びの変容

## — 自己決定・関係形成・意味拡張の三視点による検討 —

○林 裕輔(北海道教育大学附属旭川小学校) 水嶋 星陽(北海道教育大学附属旭川中学校),宮下 隆太郎(鷹栖町立鷹栖中学校) 高瀬 淳也(北海道教育大学旭川校)キーワード:小学校低学年、体育、宝運び鬼、教材開発

#### 【背景】

小学校学習指導要領解説体育編(文部科学省,2017)では、「運動遊び」を、「ねらいとする動きを遊びの要素を取り入れて行うもの」として示されている。しかし教育現場では、「遊び=自由で楽しい活動」として扱われがちで、子供が主体的に学びを深める仕組みが十分に設計されていない現状がある。そのため、中学年で扱う「ボールゲーム」の学びへの接続が円滑に行われにくいことが課題として見られている。

この課題に対して本研究では、河崎(2022)の「遊びは子供が意味をつくり出しながら学ぶ営みである」という考え方を理論的基盤とし、運動遊びを教育的に捉え直した.その上で河崎の理論を手掛かりに、筆者は運動遊びの学びを支える要素として、「自己決定」「関係形成」「意味拡張」という三つの視点を抽出した.これらの視点に基づいて教材を再構成し、実践を通して成果や課題を検証することを目的とした.

#### 【方法】

本研究は小学校1年生1学級34名を対象に、「宝運 び鬼」(攻め3人・守り2人)を基に、次の工夫を加 えた。

①自己決定の保障(環境の工夫): 攻撃の 3 人がスタート台でコースやタイミングを相談し、全員の合意後に教師が合図を出す.これにより「自分たちの判断で方法を選び取る経験」を単元の構造に組み込んだ.

②関係形成の促進(囮役の位置付け):本教材では囮役を「仲間の運搬を助ける戦術的成功」として位置付けた.捕まること自体を学習の価値として扱い、相互補完的な関係が生まれるように設計した.

#### ③意味拡張の支援(人数設定の工夫):

教材の核を「3人で攻める」という設定に置いた.3 人で行うことで、状況に応じて多様な作戦を構想でき るようにした.

授業は8時間で構成し、前半は基本ルールの理解、

後半は作戦の立案と協働的な攻め方の工夫を重視した. 本研究では、全時間のゲーム映像、6、8時間目の児童の感想カード、授業後の抽出児童のインタビューを用いて、成果や課題について検証した.

#### 【結果及び考察】



図1 2時間目のゲームの様子



図2 8時間目のゲームの様子

ゲーム映像を見ると、初めて行った2時間目のゲームでは、図1のように前方に隙間があるか、相手が近くにいるかの意識に留まり、互いを意識せず、自分の思うままに移動を開始していた.しかし、8時間目のゲーム(図2)では、スタ

ート台でそれぞれの動きを確認した後、仲間との距離 感を意識しながらタイミングを探り、囮の動き出しを 確認してから突破役が動き始めるなど姿が見られた。 これは、「自己決定の保障」「意味拡張の支援」を学習 したことによって、児童が仲間と連携しながら相手を かわしたり走り抜けたりすることができるようになっ たと考えられる.

また、8時間目の学習カードには「みんなで宝を運んで楽しかった」「○○さんがわざとゆっくり動いて相手を引きつけていた」などの記述が見られた。これらの記述からは、児童が活動を「遊び」として楽しみながらも、仲間との協力や役割分担を通して達成感を得ていたことがうかがえる。特に「○○さんが~して活躍していた」という表現は、個人の成功ではなく集団としての成功を価値付けている点で重要である。以上のことから、「自己決定」「関係形成」「意味拡張」の三視点に基づいて教材化や学習指導を行ったことで、児童が協働的に作戦を立案・実行したり、協力することに価値を感じたりする姿が見られた。こうした変容から、本研究を通して一定の学習成果が得られたと考えられる。

## 北海道における大学野球連盟の組織改革について

## ーその成立過程と現状調査から一

○ 阿部 卓哉(北翔大学生涯スポーツ学部) 永谷 稔(北翔大学)

北海道、札幌、大学野球連盟、組織改革、成立過程

#### 【研究の背景】

日本における野球は、1872 (明治5) 年にアメリカ人教師のホーレス・ウィルソンが東京開成学校、現在の東京大学の学生に教えたことが始まりとされている。そして、1925 (大正14) 年に東京六大学リーグが結成され、学生自治として、学生と大学が主体的にリーグを運営・発展させていく仕組みができあがった(中村、2010)。

北海道における大学野球の歴史的背景は次のとおりである. 1875 (明治8) 年、開拓使仮学校が札幌に移転し、翌 1876 (明治9) 年に札幌農学校として再出発した. この札幌農学校には、クラーク博士とともにアメリカから来日した教師デビッド・P・ペンハローが在籍していた. ペンハローはベースボールに精通しており、1877年 (明治10) 年には彼の指示でバット (鞠受棒) 5本とボール (革鞠) 8個が作られた記録が、北海道博物館の調査で確認されている (北海道大学野球部100年史).

その後、1955(昭和30)年に、全日本大学野球選手権大会における出場枠拡大に伴い、北部地区大学野球連盟から、北海道地区大学野球連盟を分離させ、札幌連盟を独立させたことに始まるとされている。これにより、両地区から2大学を代表として全日本大学選手権大会へ出場させることが可能となった。北部地区大学野球連盟とは、北海道および東北地区に所在の大学の硬式野球部やそれらが所属する連盟で構成された大学野球の組織であり、全日本大学野球連盟の傘下団体として誕生した(札幌大学硬式野球部IP)。

このように、北海道連盟と札幌連盟の2つの連盟が存在することとなったものの、現状として北海道学生野球連盟に加盟している大学は、北は東京農業大学北海道オホーツクキャンパス(網走市)から南は函館大学(函館市)まで広域にわたる。したがって、当然のことながら移動による経費や負担は大きい。一方、札幌連盟は札幌圏の大学で構成されているため、それらの負担は少ない。また、競技力においては鳥海・綿田(2018)の指数によると、札幌連盟が34.9に対して、北海道連盟が15.7と差も大きい。

これらのことから、本研究では、両連盟の成立過程を踏ま え、現状調査をもとに、今後の方向性について指針を得るこ とを目的とするものである.

#### 【研究の方法】

本研究では、札幌学生野球連盟の春季リーグ戦(2025年5

~6月)および秋季リーグ戦(2025年9~10月)の期間中、選手・観客・関係者(学生スタッフ・運営関係者・監督・コーチ等)に、リーグの現状について、Google Forms による調査を実施した。

主な調査項目は、年齢性別などの基本情報の他、札幌六大学の魅力の有無、その理由、今後展開を希望する事柄、そのほか意見についてである。有効回答は32、観客16、選手10、関係者6から回答を得た。

#### 【結果の概要】

肯定的な回答としては、選手や試合のレベルの高さやドラフト候補者の増加、選手・試合の雰囲気、昔から見ていた選手の成長、連盟の企画性、試合観戦の入場料のリーズナブルさなどがあげられた。特に多かった回答として、選手や試合のレベルの高さがあった。

否定的な回答としては、観客数が少ない、特に魅力が思いつかなかった、レベルの差が極端である、札六のことを知ってもらえる取り組みがない、高校生などとの交流を増やした号が大学野球に直結する、自チーム以外への敬意や尊重がないように感じる、SNS の発信などは中途半端にせず継続して行った方が良い、などあげられた。

#### 【まとめ】

こうした現状に鑑み、両連盟による問題や課題解決に向けての話し合いがもたれている。そこでは、両連盟の合併やチーム移籍や異動の是非について検討がなされている。たとえば、チームの部員数減少、休部や廃部、連盟からの脱退等が年々増えてきており、北海道全体での大学野球の再編成は不可避である。再編成となれば、札幌市内と札幌市以外大学に分けたり、北海道学生野球連盟と札幌学生野球連盟間の移動や移籍をさせたり、さらには、高校野球のように北北海道と南北海道に分けるなど、早期の再編を目指している(札幌連盟・北海道連盟代表者意見交流会議事録)。

今後は、両連盟の組織改革や再編、統合の方向性を検討するにあたり、北海道大学野球連盟にも調査を行うなど、選手・観客・関係者を含めた多角的な視点からの合意形成が不可欠である。北海道の広大な地域特性を踏まえつつ、持続可能な大学野球の発展に向けた制度設計と運営の在り方を検討していくことが課題である。

## ヒト下肢帯外旋6筋の肉眼解剖学的解析

- 梨状筋、内閉鎖筋、外閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋の形態学的特徴 - 小松 敏彦(心・軆・智研究所)

キーワード: 肉眼解剖学、外旋6筋、筋束長、筋形態 【はじめに】

下肢帯外旋6筋(梨状筋、内閉鎖筋、外閉鎖筋、上 双子筋、下双子筋、大腿方形筋)は股関節深層に位置 し、外旋運動に加えて肢位変化に応じた機能を担うこ とで股関節の動的安定性に寄与している。小筋群なが ら形態的多様性が大きく、変異も認められることから 臨床的意義も大きい。

本研究の目的は、肉眼解剖学的手法により筋東レベルで各筋を分離し、その形態学的特徴を明らかにすることである。

#### 【方法】

対象は日本人男性篤志献体4体8側(大阪大学医学部機能形態学講座協力、倫理委員会承認)とした。外旋6筋を起始及び停止部から摘出後、脂肪・血管・神経・結合組織等を除去し、約1mm幅ごとに筋束に分離した。ここでの筋束とは、肉眼レベルで確認可能な筋線維束を指す。全ての筋束をデジタルキャリパーで測定し、パソコンに同時入力して統計処理を行った。また、筋束長比(筋束長/腱長)を算出し、筋腱構造の相対的特徴を比較する指標とした。さらに、筋重量をデジタル秤、体積をメスシリンダーで計測し、平均筋束長を用いて生理学的断面積(PCSA)を算出した。

#### 【所見】

梨状筋: 仙骨前面及びその縁から起始し、形態は紡錘 状型、総腓骨神経が筋腹間を通過する二重羽根様型(図 -左)、中殿筋と完全癒合型などを認め、大腿骨大転子 内側に停止していた。筋束長の実測値の平均は、被検 体間で27.4~47.1mm、筋束長比は24.9~102.2%、 PCSAは2.58~5.84cm²であった。

内閉鎖筋:骨盤腔内の閉鎖膜内面及び寛骨臼裏側から扇状に筋性にて起始し、停止腱は小坐骨切痕部で、ほぼ直角に方向を変えて大腿骨転子窩に付着していた。筋内には4~5本の分岐腱が存在し、これに伴う複数の筋腹(図-右)を形成していた。筋束長は29.4~61.2 mm、各々の分岐腱に対する筋束長比は、28.1~94.2 %、PCSAは 3.24~6.86cm²であった。

**上双子筋**:坐骨棘から筋性にて起始し、内閉鎖筋の停止腱上縁部に停止していた。筋束長は32.9~43.6mm、筋束長比は31.0~236.1%、PCSAは0.53~1.11cm<sup>2</sup>で

あった。

**下双子筋:**坐骨結節から筋性にて起始し、内閉鎖筋の 停止腱下縁部に停止していた。筋束長は27.3~41.3 mm、筋束長比は40.8~74.6%、PCSAは 0.70~1.17 cm<sup>2</sup>であった。

外閉鎖筋:内閉鎖筋に相対して閉鎖膜外面とその周辺から筋性にて起始し、大腿骨転子窩下部に停止していた。筋束長は36.4~56.4mm、筋束長比は29.8~85.9%、PCSAは 1.70~6.33cm²であった。

大腿方形筋:坐骨結節外面から筋性にて起始し、形態は、厚みのある四辺形状の平行筋で大腿骨転子間稜に停止していた。筋束長は、30.5~41.1mm、PCSAは1.69~5.50cm²であった。

外旋6筋は、筋束走行、筋腹数、腱分岐などにおいて被検体間及び左右間で顕著な差異を示した。

特に梨状筋の神経貫通型や内閉鎖筋の多腱性構造は、坐骨神経障害や股関節障害の発症機序理解に寄与する可能性が示唆された。また、PCSAの比較から内・外閉鎖筋と梨状筋及び大腿方形筋は相対的に大きな筋力発揮の可能性を有し、上・下双子筋は補助的役割を果たすことが示唆された。

加えて、内閉鎖筋は従来「単一性の扇状筋」とされてきたが、本研究では「複数腱性の扇状筋」であることが明らかとなった。この構造は大腿骨頭の寛骨臼窩への求心性を高める形態的特性であると考えられる。

本研究により、筋束長及びPCSAの形態的多様性が、 運動・動作時の機能的役割分担を反映し、運動学的及 びトレーニング科学的のみならず、臨床的にも有効な 示唆を与えることが示された。



二重羽根様 (総腓骨神経 が筋腹間を通過していた)



図. 下肢帯外旋筋の右梨状筋 (左)、内閉鎖筋 (右) のイラスト例 (CyberLink社 PhotoDirector2024により小松作図)

## 幼児における「走って遠くへ跳ぶ」能力の実態と動作評価

## - 小学生の走り幅跳び動作評価観点を応用して-

〇鈴木沙弥,澤村愛花,遠藤芽衣,大宮真一(北翔大学生涯スポーツ学部) キーワード:川幅跳び,跳躍様式,動作発達

#### I. 緒言

幼児の跳躍能力は、主に立ち幅跳びや垂直跳びによ る体力テストを用いて評価されている. その評価の方 法について、それぞれの跳躍距離や跳躍高の量的指標 で評価しているもの(加藤・小森, 2020)が多い. 量 的指標で評価することは、単純にその子どもの筋力や 身長などが考慮され、総合的な跳躍能力が理解できる ことにあると考えられる. しかしながら, 幼児は発育 の影響により個人差が大きく, 発育の遅速によって体 力・運動能力が強く関係することが考えられ, 跳躍動 作の質的指標を用いて評価している研究も多くみられ る. 佐々木・石沢 (2022) は動きそのものに着目して 動作パターンの発達的変化を基準とした観点から評価 する運動発達段階評価型とともに量的な評価と関係 し,動作発達レベルを把握するのに有効であると指摘 している. 幼児においては、立ち幅跳びや垂直跳びな どを代表とする動作の評価を多く検討されているが、 助走をつけて片脚で跳躍する動作についてはあまり検 討がなされていない.

本研究では、幼児を対象に助走をともなう片脚跳躍において、「走って遠くへ跳ぶ」能力についてまず小学生の走り幅跳びの観察的動作評価基準を用いて実態および動作評価を行い、保育現場で活かすため知見を得ることを目的とした.

#### II. 方法

被験者は幼稚園に在籍する健康な年少男児 33 名女児 48 名、年中男児 46 名女児 49 名、年長男児 46 名女児 41 名の計 263 名であった.

実験運動として、幼児の走り幅跳びを行わせ、跳躍距離を測ることを検討したが、幼児の日常生活の実態に即した運動が適切であると考え、運動遊びに用いることが可能な「川幅跳び」を用いた、川を見立てたブルーシートを設置し、川の幅は年少が 0.5m、年中と年長が 1m に設定した。これは先行研究において幼児の走り幅跳びにおける跳躍距離を考慮した(深代・稲葉、1987)。

川幅跳びのビデオ撮影においは、踏切位置の側方からデジタルビデオカメラで撮影した。観察的動作評価基準の作成において、走り幅跳びの観察的評価基準 (陳ら,2012) を再考し、最も未熟な動作をパターン1、最も成熟した動作をパターン5とする観察的動作評価基準 (左表)を作成した。これらの尺度は、助走、踏切準備、踏切、空中、着地の5つの局面によってパターンを評価づけるため、各学年の発育発達段階が如実に現れたと指摘しているが、幼児の動作の実態

に合わせるかつ小学生の動作を習熟と捉える必要があり,小学生を基準とすると幼児の発達水準が理解できると考えた.

本研究では、陸上競技部に所属していて、走って遠くに跳ぶ動作を理解している評価者 4 名、体育会の部活動に所属している陸上競技の専門的知識がない評価者 5 名の計 9 名を 3 名 3 グループに分け、グループごとで動作評価を行った。各グループに陸上競技部出身の評価者が入るようにした。評価した 3 グループによる観察的動作評価の動作得点の一致度から客観性を検討した(陳ら、2012)。

#### Ⅲ. 結果および考察

川幅跳びの動作様式の実態は、助走から踏切ができない「走り抜け」となったのは年少女児 52 人中 7 人 (13.5%)、年少男児 35 人中 7 人 (20.0%)、年中女児 50 人中 17 人 (34.0%)、年中男児 46 人中 2 人

(4.3%), 年長女児 44 人中 6 人 (13.6%), 年長男児 46 人中 1 人 (2.2%) であった. 助走から踏切位置手前で減速をして両脚踏切での「立ち幅跳び」となったのは, 年少女児 52 人中 10 人 (19.2%), 年少男児 35 人中 2 人, (5.2%), 年中は男女ともに 0 人であった. 年長女児は 44 人中 3 人 (6.8%), 年長男児 46 人中 1 人 (2.2%) であった. また, 走り幅跳びのように両脚着地がみられた人数は, 年少女児 52 人中 1 人,

(1.9%), 年少男児 35 人中 0 人, 年中女児 50 人中 2 人, (4.0%), 年中男児 46 人中 5 人, (10.9%), 年長は男女ともに走り幅跳びにおける両足着地がみられなかった。また, ハードル走のように川を跳び越す(片脚着地)形になった人数は年少男児 35 人中 30 人,

(85.7%), 年少女児 52 名中 45 人, (86.5%), 年中男児 46 人中 35 人, (76.1%), 年中女児 50 人中 35 人, (70.0%), 年長男児 46 人中 44 人, (95.7%), 年長女児は 44 人中 37 人 (84.09%) であった.

その他の結果、考察については、学会当日に発表する.

局面	項目名	パターン1	バターン2	パターン3	パターン4	バターン5
助走	助走のリズム	スピードがなく踏切ゾーン 付近で減速する (リズムダウンする)	スピードがなく リズムアップが見られない (リズムを維持する)	スピードはないがリズムアップ が見られる/スピードはあるが リズムアップはみられない	スピードがあり リズムアップが見られる	スピードがあり 十分なリズムアップが 見られる
踏切準備	沈み込みからの 後候姿勢	沈み込みがなく体幹の 後傾が見られない	わずかな沈み込みが見ら れるが、体幹の後極が見ら れない	沈み込みからのわずかな 体幹の後傾が見られる	沈み込みからの体幹の 後頼が見られる	沈み込みからの体幹の 後傾が十分に見られる
踏切	振り上げ脚の引き上げと 腕の振り上げ	振り上げ脚の引き上げと 腕の振り上げがほとんど 見られない/立ち裾跳びになる	振り上げ脚の引き上げと 腕の振り上げがわずかに 見られる	振り上げ脚の引き上げが見ら れるが、腕の振り上げが 不十分である	振り上げ脚の引き上げと 腕の振り上げが見られる	素早い振り上げ脚の引き上げ が見られ、大きな腕の 振り上げが見られる
空中・着地	上体の起こしと両腕の 位置/腕の振り下ろしと 脚の振り出し	立ち幅跳びの空中・着地動作 を行っている/走り抜けている	上体が前傾している/両腕の 振り下ろしが見られないが 下腿をわずかに振り出している	上体をほぼ起こし両腕の位置が 層より下で保たれている/両腕 の振り下ろしが不十分だが、両脚 を前方に振り出している	上体を起こし、両腕の位置が 層より上で保たれてる/両腕の 振り下ろしが見られ、前方に 振り出している	上体を十分に起こし、両腕の 位置が頭上を超えて保たれて いる/両腕の集早い振り下ろしが 見られ、両脚を前方に勢いよく振り 出している

## 幼児における「走って遠くへ跳ぶ」能力の横断的発達

## - 小学生の走り幅跳び動作評価観点を応用して-

〇木戸すず,川村海翔,駒井乙姫,大宮真一(北翔大学生涯スポーツ学部) キーワード:川幅跳び,跳躍様式,動作発達

#### I. 緒言

ヒトの跳躍には、①高さを狙いとする跳躍、②跳ぶ幅を狙いとする跳躍、③何かの目的のための跳躍、④空中での複雑な動作を伴う跳躍、⑤用具、腕を用いる跳躍、⑥遊びとしての跳躍がある(後藤、2019).跳躍能力とは一般的には上記の①で示した垂直方向にどのくらい高く跳ぶことができるかを示す力であり、運動の主体である身体が逆に身体を容体として重力に抗して空中に投射することである(宮下、1990).しかしながら、同様に上記の②で示した跳躍において、生活の中で移動運動とともに物を跳び越したり、跨ぎ越したりすることの方が一般的な跳躍能力であると考えられる.

跳躍能力の発達については月齢50か月以降においてばらつきがあるが、経年的な発育に伴って発達すると言われている(坂口ほか、2013). これまで跳躍能力の発達については、両足で跳躍する動作を対象にしたものが多くみられる. 一方、片脚で跳躍能力の発達については佐々木・石沢(2022)がホッピング動作の発達について、非選択脚に比べて選択脚の方が動作レベルが高い傾向にあることや、深代ら(1983)は幼児の走り幅跳びの発達について検討され、測定数値の増大は体格の向上によるものではなく、動作の改善によるものであるということを明らかにしているが、片脚跳躍の発達に関する知見はあまり多く検討がなされていない

そこで本研究では、幼児が日常の遊びとして実施できそうな川を見立てて跳び越えるような「川幅跳び」を題材に、年少から年長までの3学年における「走って遠くへ跳ぶ」能力の発達について横断的に明らかにすることを目的とした.

#### II. 方法

被験者は幼稚園に在籍する健康な年少男児 33 名女児 48 名、年中男児 46 名女児 49 名、年長男児 46 名女児 41 名の計 263 名であった.

実験運動として、幼児の走り幅跳びを行わせ、跳躍距離を測ることを検討したが、幼児の日常生活の実態に即した運動が適切であると考え、運動遊びに用いることが可能な「川幅跳び」を用いた、川を見立てたブルーシートを設置し、川の幅は年少が 0.5m、年中と年長が 1m に設定した。これは先行研究において幼児の走り幅跳びにおける跳躍距離を考慮した(深代・稲葉、1987)。

川幅跳びのビデオ撮影においは、踏切位置の側方からデジタルビデオカメラで撮影した. 観察的動作評価 基準の作成において、走り幅跳びの観察的評価基準 (陳ら, 2012) を再考し、最も未熟な動作をパターン 1 (1点),最も成熟した動作をパターン 5 (5点)とする観察的動作評価基準を作成した.これらの尺度は、助走、踏切準備、踏切、空中、着地の 5 つの局面によってパターンを評価づけるため、各学年の発育発達段階が如実に現れたと指摘しているが、幼児の動作の実態に合わせるかつ小学生の動作を習熟と捉える必要があり、小学生を基準とすると幼児の発達水準が理解できると考えた.

本研究では、陸上競技部に所属していて、走って遠くに跳ぶ動作を理解している評価者 4 名、体育会の部活動に所属している陸上競技の専門的知識がない評価者 5 名の計 9 名を 3 名 3 グループに分け、グループごとで動作評価を行った。観察的動作評価の動作得点の一致度から客観性を検討した(陳ら、2012)。

統計処理は、男女に分けて年少、年中および年長3 群間における測定項目を平均値±標準偏差で示した. また、3 群間の比較については一元配置の分散分析を 行い, さらに有意であった群間には多重比較 Turky-Kramer 法を用いた. 有意水準は5%として判定した. III. 結果および考察

男児は助走,踏切,空中・着地得点で有意な向上が認められ,踏切準備得点では向上がなかった.一方,女児は助走得点で有意な向上が認められ,踏切準備,踏切,空中・着地得点で向上がなかった.助走得点は「走る」という基本動作が評価基準の多くの割合を占めているため,男女児ともに疾走能力の向上によるものと考えられる.そして,女児よりも男児の方が日頃からボール遊びを多く行っており,多くの複合的な動作経験から感覚器・運動器か養われた可能性があるため,踏切準備,空中・着地得点において男児に発達が認められたと考えられる。

以上のことから、「走って遠くへ跳ぶ」能力は経年 的な発育に伴い発達することが明らかとなった.詳細 ついては、学会当日に発表する.

男児	年少	年中	年長	多重比較
身長	99.030 ± 3.799	106.335 ± 4.823	112.628 ± 4.935	
体重	15.024 ± 1.505	16.646 ± 1.903	18.896 ± 2.336	
月齡(日)	1453.182 ± 83.476	1774.957 ± 101.440	2164.174 ± 100.100	
助走	1.848 ± 0.755	2.543 ± 0.585	2.630 ± 0.610	年少<年中・年長
踏切準備	$1.455 \pm 0.506$	1.739 ± 0.444	$1.609 \pm 0.493$	
踏切	$1.576 \pm 0.663$	$2.022 \pm 0.715$	$2.326 \pm 0.701$	年少<年中・年長
空中・着地	$1.576 \pm 0.502$	$1.957 \pm 0.469$	$2.109 \pm 0.482$	年少<年中・年長
女児	年少	年中	年長	多重比較
身長	98.110 ± 4.378	104.396 ± 4.022	111.232 ± 4.625	
体重	14.604 ± 1.950	16.056 ± 1.855	18.678 ± 2.419	
月齢(日)	1446.833 ± 101.834	1752.563 ± 81.373	2165.659 ± 98.245	
助走	$1.708 \pm 0.651$	$1.980 \pm 0.629$	2.293 ± 0.642	年少<年長
踏切準備	$1.604 \pm 0.494$	1.571 ± 0.500	1.537 ± 0.505	
踏切	1.771 ± 0.592	1.592 ± 0.643	$1.976 \pm 0.758$	
空中・着地	1.688 ± 0.512	1.653 ± 0.522	$1.854 \pm 0.691$	

## グルーヴリズム運動による認知機能向上効果を単回のリズム運動練習で高められるか

○福家健宗(北海道医療大学)、井上恒志郎(北海道医療大学)、山口明彦(北海道医療大学)

キーワード:音楽リズムと身体の同調、音楽経験、ダンスへの親しみ、実行機能

#### 【背景と目的】

グルーヴ感(音楽を聴いて身体を動かしたくなる快感情)のあるリズム(GR)に合わせた運動は、ポジティブ覚醒を誘発することで、短時間での認知機能向上が期待できる。この効果は、運動時の心理的反応(リズムと身体の同調感・グルーヴ感・ポジティブ感情・覚醒)や、音楽やダンスに関わる個人特性の影響を受け、個人差が大きい(Fukuie et al., 2022, 2023, 2025)。特に、GR 運動時の音楽リズムと身体の同調は重要な因子であり、リズムとの同調性を高める練習を事前に行うことで認知機能向上を促進できるかもしれない。本研究は、単回のリズム運動練習が GR 運動による認知機能向上効果を高めるかを、音楽・ダンスの個人特性の影響を考慮し検証することを目的とした。

#### 【方法】

健常な大学生 51 名(19.62 歳 ± 2.07、女性 35 名)は、無 作為に GR 運動練習群 (25 名) と GR 聴取群 (26 名) に分 けられた。音楽・ダンスに関連する個人特性として、それぞ れ音楽経験(頻度×期間)、ダンスへの親しみ(「音楽に合わ せて身体を動かしたくなることがよくある(0-10)」)を記 録した。GR 運動練習群は、2 分間の GR に合わせた運動を 4セット練習した。GR 聴取群は、GR を 4 回聴いた。その 後、両群ともに、3分間の手拍子+足踏み運動を GR に合わ せて行う条件(GREX条件)と、単調なリズムに合わせて行 う条件(WMEX条件)を別日に行った。運動前後に、心理 的反応 (グルーヴ感・リズムと身体の同調感・リズムの聴き なじみ・ポジティブ感情・覚醒)を11件法で評価した。生 理的反応として、心拍数、瞳孔径、前頭前野神経活動の測定 を行った。運動前後に、実行機能(ストループテスト成績) を評価した。これらの項目について、運動前後の変化量(Δ: Post - Pre) を算出し、対応のある t 検定で条件間 (WMEX/GREX) 差を群毎に検定した。多重比較補正には、 Holm 法を用いた。心理的反応、認知機能、個人特性につい て、相関分析を実施した。

#### 【結果と考察】

事前の介入について、GR 聴取群では GR の聴きなじみが

向上し (P=0.002)、GR 運動練習群ではリズム同調の困難さが低減しGRの聴きなじみが向上した(ともにP=0.01)。 リズム運動前後の心理的反応について、GR 聴取群では、GREX 条件のグルーヴ感、ポジティブ感情、覚醒(いずれもP<0.001)リズムの聴きなじみ(P=0.001)が WMEX 条件より有意に高かった。GR 運動練習群では、GREX 条件のグルーヴ感(P<0.001)、リズムと身体の同調感(P=0.004)、ポジティブ感情(P=0.01)、リズムの聴きなじみ(P<0.001)が WMEX 条件より有意に高かった。GR 運動練習群ではリズムと身体の同調性が高まった一方で、覚醒が向上しなかった。運動前後の認知機能は、両群ともに条件間の差がみられなかった(P=0.71, P=0.98)。

GR 運動練習群では、ダンスへの親しみが高いほど練習時の GR の聞きなじみ向上が大きく(R = 0.45, P = 0.02)、 GREX による認知機能向上効果はダンスへの親しみが高いほど大きかった(図, R = -0.40, P = 0.04)。 GR 聴取群では、 反対にダンスへの親しみが高いほど GR の聞きなじみ向上が小さかった(R = -0.47, P = 0.01)。

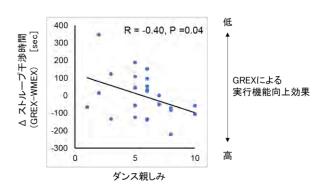


図 ダンス親しみと GREX による認知機能向上効果の関係 (GR 運動練習群)

#### 【結論】

単回のリズム運動練習は、GREX におけるリズムと身体の同調感を高めたが、認知機能向上効果を高めなかった。リズム運動練習の効果は、ダンスへの親しみが高いほど大きかった。認知機能向上効果を高めるためには、練習時からダンスへの親しみを考慮し、リズムと身体の同調、グルーヴ感、ポジティブ覚醒を総合的に高める必要がある。

## 中学校ダンス授業における課題発見力の向上を目指した授業実践の試み リズム系ダンスの技能評価観点構造図を活用して

〇今 樹菜(月形町立月形中学校・鹿屋体育大学大学院), 関 朋昭(鹿屋体育大学), 栫 ちか子(鹿屋体育大学) キーワード:保健体育科,学習指導要領,思考力・判断力・表現力等,ヒップホップ,ロック

#### 【研究目的】

中学校におけるダンス領域は、平成20年3月に告示された 中学校学習指導要領(文部科学省,2008)より必修領域として 取り扱われるようになり、「創作ダンス」、「フォークダンス」、 「現代的なリズムのダンス」の3つで構成され、「イメージを 捉えた表現や踊りを通した交流を通して仲間とのコミュニケ ーションを豊かにする」運動と示されている。中でも「現代的 なリズムのダンス」は生徒の興味関心が高く、採択率が最も高 いが、ビデオ等による既存の振り付けや作品の模倣を行う学 校が多いと報告されている(中村,2010,2013;熊谷,2014; 栫, 2020). 一方で, 中学校学習指導要では, 急激に変化する時 代の中で,自ら課題を見いだし(以降「課題発見力」とする),そ れに向けて思考し、他者と協働して解決する力の育成が求め られている. ダンス領域においても、「思考力・判断力・表現力 等」の目標として「表現などの自己の課題を発見し、合理的な 解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに,自己や 仲間の考えたことを他者に伝えること」が明記され、指導の充 実が求められている.しかし,筆者はこれまでの授業実践の中 で,生徒による課題発見が限定的と感じてきた.課題発見が難 しい背景として、リズム系のダンスは「リズム」をもとにした 「自由」なダンスであるほか(村田,2009),他の運動領域と異 なり得点や記録等の客観的尺度を適用しにくい(寺山,2004) ためと考える。また、「知識・技能」の指導が不十分であるこ とや、技能評価における難しさが関係していると考えた.ダン スの技能評価については、技能評価力の育成を目指して体育 授業のダンス領域における技能評価の視点をキーワードごと に構造化した「技能評価観点構造図」が開発され(栫,2019),体 育系大学生に技能評価観点を教示することで, リズム系ダン スの技能評価の理解が深まり,動きを観察する力が高まった という報告がある(栫,2020)しかし、中学校のダンス領域で課 題発見力の向上を目指した研究は見当たらない.

そこで、本研究は、中学校のダンス授業におけるリズム系ダンスの課題発見力の育成に向け、「技能評価観点構造図」を活用した単元計画の作成と教材を開発し、授業実践を通して映像視聴活動における記述内容の変化を明らかにすることを目的とする.

#### 【研究方法】

X中学校に在籍する生徒41名(1学年18名,2学年8名,3学年15名)を対象とした.研究対象校のカリキュラムでは、体育科のダンス領域で各学年全8時間の授業実施が計画されている.ダンスを見る力の育成を目的として、1時間目と7時間目の授業の中で、生徒がダンス映像を視聴し「ダンスをより良くするためのアドバイス」を考察・記述する活動を行った.この学習活動で得た記述内容のテキストデータから、記述抽出語数、技能評価観点数を比較し、生徒の課題発見力の変化を量的・質的の両面から分析した.映像視聴活動での記述にはGoogle Formsを使用し、計量的内容分析ソフトであるKH Coder にて分析を行った.研究対象校学校長に許可を得た上で、研究の趣旨

を生徒へ書面及び口頭で説明するとともに, 保護者へは文書を配布し説明を行った.

#### 【結果】

有効回答数は36名(1 学年16名,2 学年7名,3 学年13名) であった。「技能評価観点構造図」を活用する前の1 時間目と,活用後の7 時間目で「ダンスをより良くするためのアドバイス」の記述抽出語数を比較すると、ヒップホップのリズムにおいて、1 年生は32%,2 年生は64%,増加し、3 年生は7%減少した(図 1). ロックのリズムについては,1 年生は12%,2 年生は49%増加し,3 年生は17%減少した.

「技能評価観点構造図」に示された各観点に関する記述数の平均は、ヒップホップのリズムにおいて、1 年生は 78%、2 年生は57%有意に増加し、3年生は44%と増加したが有意な差は見られなかった。ロックのリズムにおいて、1 年生は55%有意に増加し、2 年生は18%、3 年生は46%増加したが有意な差は見られなかった。

#### 【考察】

ヒップホップ・ロックのリズムともに全学年で、技能評価 観点数が増加したことは、授業者が指導した知識・技能を生 徒が活用できるようになり、より多くの観点でアドバイスが できるようになった可能性が考えられる。3 年生において、 ヒップホップ・ロックのリズムともに抽出語数が減少した が、1 時間目と 7 時間目の記述内容を比較するとアドバイス が具体的になっていた. 技能評価観点を活用してアドバイス ができるようになったことで、言語表現が洗練され、より相 手に分かりやすく伝えられるようになった可能性があると 考えられた.

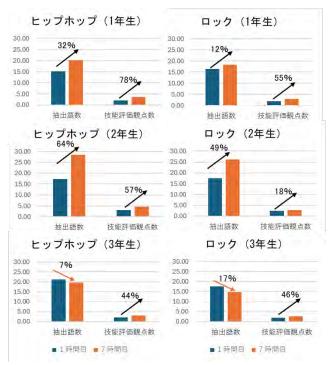


図1 各学年における抽出語数と技能評価観点数の変化

# 中学校ゴール型ゲームにおける非ボール保持の動きの習得を目指した指導実践 —3 つの間(空間・人間・瞬間)の意識づけを通して—

○宮下 隆太郎(鷹栖町立鷹栖中学校), 水嶋 星陽(北海道教育大学附属旭川中学校)

林 裕輔(北海道教育大学附属旭川小学校), 高瀨 淳也(北海道教育大学旭川校)

キーワード:ゴール型ゲーム、非ボール保持、状況判断、3つの間、中学校体育

#### 【はじめに】

中学校における球技領域は,ゴール型,ネット型, ベースボール型の3つの型で構成されている。その 中でもゴール型は, 「技能の低い子どもの学習機会 が保証されていない授業が未だに散見される」「具 体的な学習課題が提示されない, ただゲームを楽し むだけの『活動あって学びなし』の授業が往々にし てみられる」(筒井, 2017)という指摘がある。特に ゴール型ゲームの難しさとして、展開の速さや攻守 の切り替えの多さから、ゲーム中にボールをなかな か受けられない生徒が状況判断上のつまずきを抱え るケースが多い。吉野(2022)は、ボールを受けられ ない生徒の特徴として「自分をマークしている人を 見ていない」「自分をマークしている相手とのズレ を創る方略的知識に欠ける」と指摘している。この ように、ゲーム場面における状況判断の重要性は指 摘されているものの(鬼澤, 2012),運動が苦手な生 徒に対して、ボールを持たない時(非ボール保持)の 動き方を具体的に指導し、習得させる手立ては十分 に確立されていない。

そこで本研究では、ゲーム中にボールを受けようとするための「非ボール保持時の動き」に着目し、「空間」「人間」「瞬間」という 3 つの視点を設定して指導を行い、その効果を検証することとした。

#### 【方法】

本研究は、T中学校の1年生50名、3年生60名の 生徒計 110 名を対象に、単元計 11 時間の実践を行っ た。授業は4対4のゲーム形式で実施し、守備側に はマンツーマンディフェンスを徹底させることで, 「非ボール保持」の動きの習得に焦点を当てた。ま た, 非ボール保持の動きを習得するため、生徒がゲ -ム中に「どこを、どのように見れば良いか」「見 たらどう動けば良いか」を判断できるよう、3つの間 (空間・人間・瞬間)の意識付けを行った(表1)。具 体的には3~5時間目に「空間」「人間」「瞬間」の 順で課題を設定した。そして, スピードや移動方向 の変化, マークマンを振り払うための動き方を説明 したり, 授業者が演示し動きを理解させた後に練習 ゲームを行ったりして,動きの習得を図った。ゲー ムの開始時・中盤には、それらを再度意識付けのた めに「何を意識し、どのように動くのかをチームで 確認させた。また、遅延動画を用いて、ゲーム終了 後、3つの間を視点から自身の動きを振り返るように



図1 6時間目の板書

#### 表1 本実践で生徒に説明した3つの間

- ・空間(どこへ):守りが手薄で味方がいないエリア(スペース)を見つけ、そこへ移動する。
- ・人間(どう作る):自分(非ボール保持)とボール保持者 を結ぶ直線上に相手(マークマン)を置かないパスコー スを作る状態(人間)ができているかを視る。
- ・瞬間(いつ作る):「空間」と「人間」の状況を視なが ら、パスコースを作り出すタイミング(ズレ)を狙う。
- ※本研究では、仲間や相手の動きを単に目に入れるのではなく、意識的に捉えることを重視しており、その行為を区別して「視る」と表記した。

手マークマンとのズレを生み出していたか、②その結果、パスコースが確保されていたか、という 2 点を基準に評価を行った。

#### 【結果と考察】

ゲーム映像を確認すると,単元前半には,非ボール保持時に「人間」を意識した動きが少なかったが,単元の中盤以降にかけて「空間」と「人間」を視て動くことを意識させた結果、相手や味方のいない「空間」を見つけて移動できる生徒が増加した。単元の後半にかけて「人間」と「瞬間」に視点を意識させたところ、生徒の振り返りの記述に,「止まってから速く動く」「相手と違う方向に行く」「瞬間」されたをかける」とあり,非ボール保持時に「瞬間」を作ろうと意識することで,結果的に「空間」や「人間」の動きの理解にもつながった様子が見られた。

単元終了後の生徒の記述からは、「空間を意識して授業をしてみて去年よりも周りを見れるようになった」「人間を意識して授業をしてみて味方を去年よりも見れるようになった」「瞬間を意識して速く動いてマンツーマンを外せるようになった」という自己の状況判断の評価や3つの間との関連性を具体的に捉えた記述が多く見られた。特に運動が苦手な生徒から、「周りの動きを見ることで、スペースが

でや通位るっな判向記れるパそがうき、世置よてど断上述たるパそがうき、能をも、瞬スう見にた状力示見間がなえな」況のすら



図2 6時間目のゲームの様子

このことから、本研究で提示した「空間(視ること)」「人間(視る・動くこと)」「瞬間(作り出すこと)」という3つの間を軸とした指導は、生徒がゲーム中の非ボール保持の際に「何をすれば良いか」を明確にする有効な手立てになることが示唆された。

## カフェイン摂取が寒冷環境下における高強度運動時のパフォーマンス

## および呼吸代謝応答に及ぼす影響―常温環境との比較―

○土橋 康平<sup>1</sup>, 池田 奨<sup>1</sup>, 佐々木 健成<sup>1</sup>, 藤本 知臣<sup>2</sup> <sup>1</sup>北海道教育大学,<sup>2</sup>新潟医療福祉大学 キーワード: エルゴジェニックエイド、無酸素性代謝、活動筋血流量

#### 【背景】

我々が住む積雪寒冷地域では、冬季のみならず秋春季においても寒冷環境下で運動を行う場合がある。寒冷環境に曝露されると、常温環境下と比較して等尺性収縮、ジャンプ高、高強度自転車運動など様々な運動パフォーマンスが低下する (Oksa. 2002; Sargeant. 1987)。このパフォーマンスの低下には筋温低下を介した神経筋機能の低下やエネルギーの利用能低下 (Edwards et al. 1972; Ranatunga. 1984) などが関与している。

そのような寒冷環境下でパフォーマンスを最大限発揮するために、カフェインの摂取が効果的かもしれない。カフェインは脳におけるアデノシン受容体を阻害することで中枢神経活動を高め (Fredholm et al. 1999)、主観的運動強度の軽減 (Doherty and Smith. 2005) や神経筋機能の向上 (Black et al. 2005) を介して常温環境下での様々な運動パフォーマンスを向上させることが報告されている。しかしながら、カフェイン摂取が通常パフォーマンスが低下する寒冷環境下においても同様にパフォーマンスを向上させるかは明らかではない。

そこで、本研究ではカフェイン摂取が寒冷環境下に おける高強度運動時のパフォーマンスおよび呼吸代謝 応答に及ぼす影響を常温環境下のそれと比較すること を目的とした。

#### 【方法】

被験者は健康な男子大学生 12 名 (19 ± 1 歳, 1.71 ± 0.04 m, 68.4 ± 4.9 kg) を対象とした。実験は、二重盲検法によりカプセルに封入したグルコース (6 mg/kg, Placebo) あるいはカフェイン (6 mg/kg, Caffeine) を摂取し、 $20\,^{\circ}$ C(寒冷) あるいは  $35\,^{\circ}$ C(常温) の水に下半身を 30 分浸漬した後に 30 秒間のウィンゲートテストを行う計 4 条件とした。下半身浸漬はカプセル摂取 20 分後に行い、浸漬終了 10 分後にウィンゲートテストを行った。測定項目は発揮パワー (平均、最大、最小)、呼気ガス、血中乳酸濃度、心拍数などとした。

#### 【結果】

二要因の分散分析の結果、ウィンゲートテスト時の最大および平均発揮パワーは温度の主効果が見られ、寒冷環境で常温環境下よりも発揮パワーが低下した(図 A)。また、平均および最大発揮パワーはサプリメントの主効果も見られ、常温あるいは寒冷いずれの環境においても発揮パワーの向上が見られた。一方で、最小発揮パワーは温度とサプリメントの交互作用が見られ、常温環境下では条件間の差は見られなかったものの、寒冷環境下ではカフェイン条件において、プラセボ条件よりも高値を示した(図 B)。

#### 【結論】

環境条件に関わらずカフェイン摂取はウィンゲート テスト時の発揮パワーを向上させるが、その効果は通 常発揮パワーが低下する寒冷環境下でより顕著である 可能性が示唆された。

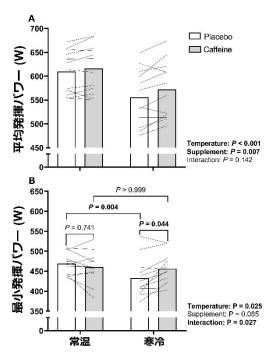


図. 平均 (A)、および最小 (B) 発揮パワーの平均値お よび個人データ

\*本研究は 2024 年度北海道体育学会「研究助成」を受けて実施したものです。

第2日目 抄録 (11月30日)

口頭発表 6

## 運動会の意義を問い直す

## ―楽しさの構造分析から見える再構築の方向性―

○加藤享(北海道教育大学附属旭川小学校),藤原音々(中頓別町立中頓別小学校),

小谷克彦(北海道教育大学旭川校)

キーワード:運動会、一体感、非日常感、存在感、豊かなスポーツライフ

#### 【背景】

運動会は、学校における体育的行事として根付くと 同時に、学校・家庭・地域をつなぐ役割を担いながら 長く継承されてきた、高度経済成長期以降は組体操や 表現運動などの演出性が重視され、平成以降は安全性 や合理化の観点から半日開催や分散開催が進められて きた. 現行学習指導要領では, 運動会を特別活動にお ける健康安全・体育的行事として位置付け、集団活動 を通して健全な生活習慣や態度を育成し、運動の楽し さを味わいながら体力を高めることを目標としてい る. また、体育科の究極的な目標は、児童が豊かなス ポーツライフを実現するための資質や能力を育むこと にある. しかし現状の運動会は、規模縮小や前例踏襲 が主流で、児童の意思決定や創造的関与は不十分であ る. さらに、行進や整列といった軍事的要素の残存 や、徒競走・選抜リレーによる一律の競技性は、生涯 スポーツの視点との乖離も見られる. これらの課題を 克服し、特別活動と体育科の目標を実現し得る、学 校・家庭・地域をつなぐ新たな運動会の再構築が必要 である. そこで本研究では、その意義を問い直し、再 構築の方向性を明らかにすることを目的とした.

#### 【方法】

北海道教育大学旭川校の体育心理学ゼミナールに所属する学生8名(男性6名,女性2名)を対象に調査を実施した.調査ではまず「運動会の楽しさ」について尋ね,各項目を「1:非常に遠い」から「7:非常に近い」の7件法で評定させ,その平均値を算出した.次に「運動会で楽しかった種目」についても同様の手続きを行い,各項目の平均値を算出した.また,得られた結果を基に類似度距離行列を用いたクラスタ分析を行い,それらの類似性について検討した.

#### 【結果】

運動会の楽しさについては7項目が挙げられ,クラスタ分析の結果,「一体感」「非日常感」「存在感」の3

つに分類された.種目については、一体感を「同調」 「連携」「共創」という要素を含むものとして細分化 し、「一体感(同調)強調種目」「一体感(連携)強調 種目」「一体感(共創)強調種目」「存在感強調種目」 の4つに分類された(表1).

表1 楽しかった種目の分類

カテゴリ	種目	楽しさ		
	②全員全脚			
一体感 (同調)	⑥大縄跳び	・チームの全員と協力する。		
強調種目	③綱引き	・相手チームと競う。		
	④リレー			
一体感	⑩台風の目			
(連携)	⑪五色綱引き	<ul><li>・チーム内で協力する</li><li>・それぞれの役割が明確</li></ul>		
強調種目	⑧騎馬戦	CHO CHOS INCIDA		
一体感	①ダンス	・全員が協力する。		
(共創)	⑫学級アピールの出し物	・一つのものを創り上げる。		
強調種目	⑨パラバルーンの演目	・練習の成果を発表する。		
存在感	⑤徒競走			
強調種目	⑦借り人競争	・一人一人が力を発揮する。		

#### 【考察】

本調査から、運動会の意義は「一体感」「非日常感」「存在感」に整理された.非日常感は、学級や学年などの日常の枠を超えて、多様な人々がスポーツを通して交わり、新たにつながる体験を生むための基盤となる。その上で、地域の特色を生かした種目設定や、会場全体が一体となる応援の仕掛けを取り入れることで、学校・家庭・地域の関係を結び直すことができると考えられる。一体感は「同調」「連携」「共創」に細分化され、競技や表現を通して児童が他者と協働し、創り上げていく過程で深まる。存在感は、自治的な活動の中で個々が役割を果たし、集団の中で自らの価値を感じる経験として重要である。したがって、今後の運動会は、学校・家庭・地域がスポーツを介して関係を結び直し、豊かなスポーツライフの原体験となる場として再構築していくことが求められる。

## バスケットボールにおける子どもたちの学びの<アクチュアリティ>

○森 博隆(北海道釧路町立遠矢小学校) 越川 茂樹(北海道教育大学)

キーワード:自他意識の芽生え、共創的な意味生成、生き生きした現在

#### 【はじめに】

今日の学校体育において、豊かなスポーツとのかかわりという観点から子どもたちのプレイによって生まれるゲームの現実を出発点として授業をデザインすることが求められている。そうした学習においては、ゲームで攻防を楽しむために動きや技能がどのような意味を持っているのかがわかり、それらを使ってゲームを楽しく行うことができるようになる学び(松田、2016)のデザインが重要となる。しかしながら、従来のボール運動の学習では、「ボール操作」や「ボールを持たない動き」といった外面的行動に基づく知識・技能の観点が中心となっている。

そうした学びの評価の偏りといった問題のもとで、鈴木・加納(2025)は、動詞的な世界の<アクチュアリティ>に着目し、小学校高学年におけるハンドボールの実践をもとに、学習評価のための指標を提案している。そこでは観察者としての教師による立場から子どもたちの行為を解釈しそのダイナミックな学びの姿を捉えようとしているが、子どもたち自らが表出させる<アクチュアル>な世界としての学びを明らかにするまでには至っていない。

そこで本研究は、バスケットボールの実践を事例として子どもたちの作戦会議に焦点を当て、子どもたちの学びの <アクチュアリティ>を浮き彫りにすることを試みる.

#### 【授業の実際】

本実践は、K小学校第6学年の児童33名(男子16名,女子17名)を対象とした体育のゴール型ボール運動「バスケットボール」の全7時間で実施した.授業は、バスケットボールの面白さに触れることを基調とした単元を構成した.単元のねらいは、「一人ひとりが力を発揮して、仲間と協力しながら特徴を活かした攻め方や守り方を工夫してゲームを楽しもう」として、「ルールを体得しながら自分たちの特徴をつかもう」(ねらい1)、「ゲームを通じて相手チームの特徴をつかもう」(ねらい2)、「自分たちのチームの特徴を活かして、相手チームに挑戦しよう」(ねらい3)を道筋として授業を構成した.

#### 【データ収集・分析方法】

本研究は、授業中の作戦会議を録音し、逐語化した言語記録をもとに子どもたちの会話を検討した。その際、バスケットボールという子どもたちのゲームの世界から子どもたちの学びを解釈するために、木村(1994)による<アクチュアリティ>の概念を導入することとした。<アクチュアリティ>とは、現実に向かってはたらきかける行為のはたらきそのものに関するものである。本研究では、<アクチュアリティ>に着目し、作戦会議における会話に焦点を

当てて、生起する学びを明らかにしていく.

#### 【結果と考察】

○ねらい1における学び

ねらい1における作戦会議では「Aは2回出たい?」「出たいは出たい」「みんな出たいと思ってる」といった会話が重ねられた。これらはく試合に出たい>という一人ひとりの意思がゲーム(現実)をつくるきっかけとなっていた。そうした姿から、バスケットボールという現実に対して、子どもたち一人ひとりの文脈が尊重される中でゲームに表面的に参加していく学びの様態が認められた。

#### ○ねらい2における学び

#### ○ねらい3における学び

ねらい3の作戦会議では、「あとねBはカットがうまい」「じゃあ攻める時は?」「ドリブル、パスはなるべく下にしよう」など、相手のよさを認める語りやそれらを踏まえて作戦を話し合う姿が確認された。そうした姿は、子どもたちの内で相手を含みみんなでバスケットボールのゲームをつくりあう共創の過程そのものを楽しむ学びとして、わたしたちの意味が編まれていったと考えられる。

#### 【まとめ】

以上より、ねらい1から3に至る学びの様相がく試合に出たい>という個人の意思を起点に子ども自身がゲームにかかわろうとすることから、相手を踏まえた作戦会議を通して、チーム内で自律と他律のあいだを行き来する行為の判断を経由し、相手のよさを認め、ともにゲームをつくりあう共創的な語りが交わされ、「生き生きした現在」として意味が生成されていくという軌跡を辿っていることが認められた。つまり、「個人の意思」「自他意識の芽生え」「共創的意味生成」という様態が学びの<アクチュアリティ>として見出されたといえる。

### 【文献】

木村敏 (1994) 偶然性の精神病理. 岩波書店.

鈴木佑翼・加納岳拓 (2025) ゴール型ボール運動における 子どものアクチュアルな世界にもとづく学習評価―小学 校高学年のハンドボールを事例として―. 体育科教育学 研究 41 (2):17-32.

## "できない"の解釈に関する地平分析的考察

○山本悟(北海道教育大学釧路校),山本瑠美(釧路短期大学)

キーワード:とび箱運動, 開脚とび, 動感世界, 始原身体知, 発生運動学

#### 1. 背景と目的

とび箱運動における開脚とびは、切り返し系に属するポピュラーな技の一つである。開脚とびの創発では、やってみてすぐにできてしまう学習者もいれば、なかなか上達を示さない学習者もおり、開脚とびができない学習者をできるようにさせるための促発法は、実践現場に関わる指導者にとって大きな関心ごとである。

開脚とびができない動きの特徴としては、手を着いた後に、とび箱の上に"座る動き"が観察される。こうした場合、「助走のスピードをつける」、

「踏み切りを強く」、「手でしっかり支える」などの 文献に示されているような、言葉をかけることがし ばしば見受けられる。こうした言葉がけによって、 動きが改善されることもあるが、一方でまったく上 達を示さない学習者もいる。指導者は、上達を示さ ない学習者について、最近の子どもは、「運動経験 が少ないから」、「こわがりだから」、「やる気がない から」というように、できない原因を別の要因にす り替えてしまうような由々しき事態が指導現場では しばしば起きている。

指導者は、比較的運動が得意な場合が多く、"できない動きの意味"を理解するのに苦労しているのではないだろうか。

本研究では、開脚とびにおけるとび箱の上に"座る動き"について、筆者の促発体験を基に「発生運動学」(金子,2005a,p.83)の観点から、その動感に地平的分析を施すことによって、"できない動きの意味"を探っていきたい。

#### 2. "座る動き"は第2空中局面を拒否している

開脚とびができない動きを注意深く観察している と,とび箱の上に"座ってしまう"場合と"座りに いっている"場合に分かれる。前者の場合,比較的 積極的な助走や踏み切りが観察され,一般的な技術 的情報を提供することによって,習得に近づいてい く。この場合の学習者は、できるような気がする段階に入っており、練習によって、開脚とびが獲得されていく。後者の場合、消極的な助走、踏み切りにより、第2空中局面を創出させることを自ら抑制しているように観察され、このような学習者に助走スピード上げることや踏み切り動作を強くすることを指導しても、なかなか上達を示さないことが多い。このような動きの内実は、第2空中局面を拒否し、"やらない"という判断に即した合理的な動き方を〈始原身体知〉(金子、2005b、pp.2-18)、すなわち、〈体感身体知〉と〈時間化身体知〉を働かせながら、遂行していると考えられるのである。

#### 3. 「先読み能力」の発生

開脚とびの"座る動き"は、はっきりと自覚され る, されないは、別として、学習者は"なにか"を 感じとって悩んだ結果, "やらない"と決断してい る。この際、学習者には、「先読み能力」(金子、 2002, pp. 503-505) が発生しているから, その"な にか"が上手く言語表現できなくても、そしてそれ が, たとえ的外れな先読みだったとしても, 動感世 界の中で、未来の運動を想起すること自体に"身体 の賢さ"を認めることができよう。そう考えれば、 この"座る動き"という"やらない"という決断は 本来、ほめられるべき動きなのかもしれないし、先 読みされている動きの中身を特定できれば、適切な 促発法の処方も可能となろう。このように、発生運 動学の観点から"座る動き"を理解できれば、でき ない原因を別の要因にすり替える必要性もなくな り、むしろそれを活用した様々な促発法を創造でき るようになるであろう。本研究は、JSPS 科研費(課 題番号:25K14760)の助成を受けて実施した。

#### 文献

金子明友 (2002) わざの伝承, 明和出版. 金子明友 (2005a) 身体知の形成 (上), 明和出版. 金子明友 (2005b) 身体知の形成 (下), 明和出版.

## 部活動における「負担」の構造

○関 朋昭 (鹿屋体育大学)

キーワード : 部活動,負荷,負担,構造,数学モデル

#### 【背景】

日本の学校は部活動を利用し、部活動もまた学校を利用してきた.その結果、両者の結びつきは日本の教育に大きな貢献をもたらしてきた(関,2018, p.29).しかし、部活動を支援してきた教員の労働時間は諸外国と比較して極めて長く、特に部活動に費やす時間の多さが指摘されてきた.教員の負担は今日の部活動改革のやり玉になっている.

しかし一方で、教員の負担が大きいにもかかわらず、部活動に積極的に関わり、やりがいを感じる教員も少なくない(例えば、岩本・浪本、2005;小柳ほか、2015).彼ら・彼女らは「部活動が命」「部活動にやりがいを感じる」と語り、自己の動機を満たしている。同様の構造は生徒や保護者にも見られる(例えば、朝倉、2019;玉木、2023など).

部活動に関わる人の中には辛いと感じる者もいれば、楽しいと感じる者もいる. ブラック部活動もあれば、ホワイト部活動もある. 同じ「部活動」という営みの中で、なぜ負担に感じたり(不快)、楽しみを感じたり(快)するのか. これが本研究の問いである.

#### 【目的】

部活動における「負担」の構造を解明する.

#### 【研究のアプローチ】

#### 1. 考察の出発点

負荷と負担の概念について,辞書を手掛かりとしな がら整理する. さらに負担の起源を探る.

#### 2. 構造の解明

「負担」が組織の中でどのように構造化されるかを 数学モデルで解明する.

#### 【結果と考察】

#### 1-1. 負荷と負担の概念

負荷は、それに伴う物理的・時間的・エネルギー的な圧力を指す概念であり、負担は制度上の責任や義務を引き受けることで生じる心理的な側面を含む概念である。負担が人の心の動きを表すものであるのに対し、負荷はより客観的な条件として捉えることができ

る. 部活動における負荷と負担の一例を表1に示す.

#### 表1 主な部活動関係者ごとの負荷と負担

教員	負荷	指導時間。土日の勤務。事務作業。評価。
<b></b>	負担	休日が減らされることへの不満。指導のやりがい。
生徒	負荷	練習時間の長さ。上下関係の厳しさ。
土1年	負担	塾へ行けない。疲労感。仲間との充実感。
保護者	負荷	送迎。費用。応援。
体設有	負担	送迎が面倒だ。お金がかかる。子どもの成長と喜び。

#### 1-2. 負担の誕生について

狩猟社会,農耕社会には「負担」はなかった.負担が明確な形で発生するのは、制度が確立し、個人に対して明確な役割や義務が課されるようになってからである.この点について、Durkheim (1893) は、社会が発展するにつれて労働の分業が進み、個人が特定の職務に従事することで責任や義務が強化されると論じている.これは、負担の誕生と密接に関係している.

#### 2. 負担モデル

負荷 (institutional load,L) が存在すると、必ず負担 (emotional burden, B) が生じるとする前提の場合、B は L に存在論的に依存する. 必然的に  $L \rightarrow B$  と定義される. ここでの「 $\rightarrow$ 」は単なる因果関係ではなく、「L なくして B はない」という存在の依存性を示す.

$$B = f(L)$$

と表すことができる. これは基本モデルである.

現実的には、同じ負荷がかかっても、個人によって 負担の大きさは変化するため、加えて、負担 (B) は 個人の受け取り方にも依存する。個人の受け取り方 R(Reception)は、個人の価値観、適応力、経験などの 属性と深くかかわる。以下、R は受容性とする。以下 に定式化する。

#### B = g(L, R)

#### 【結論】

部活動における「負担」は多層的な構造をもつこと が明らかとなり、数学モデルで説明可能である.